

面接調査報告

平成 23 年 3 月 11 日、忘れることができない日です。

まして、この年にお誕生を迎える準備をしていたご家族は、一瞬でその楽しみを奈落に突き落とされた感じだったに違いありません。それでも、輝かしい命が誕生し、予想もしなかった環境で、現在も子育てを余儀なくされています。

そのような現実を、母親たちはどう乗り越えながら子育てをしているのか、妊娠期から分娩・産褥期を振り返りながら、克明に記録・検証することは今後の、新しい子育てへの地域や国の仕組みに生かしていくうえで重要です。

このような呼びかけに快く応じてくれたお母さんたちの声を集めました。

瓦礫が撤去され、「被災地」は単なる平地と化し、どんどん見えなくなっています。震災の記録やその時の出産・子を育ての苦労を、将来にどのようにつなげていくのか？次世代に残すのは、夢や希望であるべきです。多くのお母さんたちの語りから、それをくみ取ってほしいと思います。

最後に、この面接調査に快く応じていただいた、すべてのお母さんに厚く御礼を申し上げます。

【面接者】 アイウエオ順

五十嵐 千佳（東北大学東北メディカル・メガバンク機構 地域医療支援部門）

上 埜 高志（東北大学大学院教育学研究科 臨床心理学専攻）

黒 河 歩美（同 上）

小林 奈津子（東北大学大学院医学系研究科 精神神経学分野）

齋 藤 秀光（東北大学大学院医学系研究科 精神看護学分野）

齋 藤 礼子（東北大学病院 産科）

佐藤 喜根子（東北大学大学院医学系研究科 周産期看護学分野）

菅 原 準一（東北大学東北メディカル・メガバンク機構 地域医療支援部門）

矢野目 奈穂（東北大学大学院教育学研究科 臨床心理学専攻）

吉 井 初美（東北大学大学院医学系研究科 精神看護学分野）

石巻市

1. C さん 119
2. D さん 126
3. E さん 137
4. F さん 154
5. G さん 161

気仙沼市

1. O さん 171
2. P さん 182
3. Q さん 192
4. R さん 200
5. S さん 209

岩沼市

1. U さん 225

C さん：30 歳代後半 経産婦

分娩日：2011 年 4 月下旬 分娩時週数：25 週

Int：アンケート用紙に沿ってお聞きしたいと思います。昨年の 4 月にお生まれになって、最近のお子さんの健診での身長、体重は、わかりますか。

C：身長は多分 70 センチ、体重は 8 キロ弱ですかね。

Int：特に発達で今は。

C：そうですね。ただちょっと脳外科的なこともあるので。成長してみないとわからないということ、ただ今のところ、まずまず順調にというか、ゆっくりではありますけれどもっていうことで、お話はいただいています。

Int：差支えなければ、脳外科的につて何が？

C：生まれて、翌日に脳内出血と、肺出血を起こしているんですね。それで、出血の程度は大したことないってお話だったんですけども、結局シャントが必要になって、脳室内出血で VP シャントの手術とかをしています。

Int：今は、子育てしながら、健康面で気を付けたりしてますか？心配ごととか。

C：今のところ、そういう麻痺とかはないんですが、今年の 7 月に MRI の検査があつて、ちょっと頭蓋骨が小さいということで、今後 3、4 歳になったときに、もしかして麻痺とかが出てくることもあるかもしれないというお話をされまして、ちょっとその辺でやっぱり不安というか心配です。今後、やっぱりある程度成長してみないと、その辺はわからないんだなということで、また改めて。

Int：それは今、N 病院のほうで？

C：いえ、K 病院です。生まれて 3 カ月後に手術とかが必要だつてことで K 病院のほうに転院になって。それから、フォローはずっと K 病院でしてもらってます。

Int：じゃあ、通うの大変ですよ。

C：そうですね。

Int：震災前と現在までで、家族構成は特に変わりはないですか。

C：変わらないです。

Int：あとアンケートにある社会資源と病後保育っていうのは、これは具体的にどのようなことを利用されているのでしょうか。その K 病院とか。

C：そうです。

Int：アンケートにあります、ご主人との関係では、具体的にどういった点を満足されてますか？

C：うちの夫はもともと船に乗っていて、毎日いるわけじゃないんですけど、いるときは一緒に子育てを手伝ってくれたりする、というところが一番大きいですかね。

Int：子育てっていうのは、他のお子さんも含めて。

C：ただ上の子は、もう大きいんですね。スポ少とかもいろいろやってるので、その辺りで、いるときは夫も協力してくれるので、3 番目の世話をしてくれたりとかですかね。

Int：2 番目のお子さんのときも、同じようにお世話されていた。

C：そうですね。

Int：同じように。じゃあ、震災の影響ではなくて。

C：そうです、前々からしてくれる人です。

Int：わかりました。では、特に一番下のお子さんが生まれることによって夫婦の関係というか、子育てに関してとか、変わったっていうことは。

C：特にはないですね。

Int：そうするとご主人からは育児の協力は十分得られているということですが、その他にお子さんの居場所ってというか、自宅以外で、例えば、他のいろんな子育て支援とか、どこか遊ばせたりするようなどころはありますか？

C：特にはないですかね。どうしても同じ世代の子とあんまり接したくないというか…。比べちゃいけないんですけど、やっぱり小さいんだとか、やっぱり遅いんだなっていうのをどうしてもみちゃうので。最近では、外に出て遊ばせるようにはしてますけど、最初の頃は、なるべく接したくないっていうところも、ちょっとありましたね。

Int：そうすると育児っていいますと、K病院に通ってるということで、やっぱりそちらの専門家の指導を受けるって感じですか？

C：そうです。だから、それこそ石巻市の集団健診とかは行ってませんでした。週生で健診にも行ってみたくさいって保健師さんからも言われたんですけど、結局、K病院に診てもらってるので、特に行かなかったですね。他の人の目ってというか、小さくてっていうのがどうしてもその辺はあったので。

Int：健診につれていくことに対しての負担みたいなのが。そちらのほうが大きい感じでしたか？

C：そうですね。そちらのほうが大きいですね。

Int：順調には成長してるけど、少し遅いっていうことで。

C：そうですね。

Int：それでは、いろいろ子育てで協力してくれているのが、ご主人と…。

C：あと上の娘が中2なので、上の娘が普段は結構力になってくれて、お風呂を上がったあとの介助をしてくれたりとか、あとご飯食べさせてくれたりとか。

Int：では、娘さんが結構手伝って。

C：そうですね。娘も手伝ってくれますね。

Int：あとお母さんも手伝ってくれるんですか？

C：そうです、ただ母は働いていますので、休みのときとか、あと病院の通院とかには休みをとってもらって、一緒に行ってもらったりしてます。

Int：あとご自身の兄弟姉妹っていう方は。

C：ただうちの姉たちも被災していて、ちょっと遠くなっちゃったんですね。今までは近くにいたので、ちょっと何かあれば力になってもらっていたんですけど、今はお互い大変というか。なので、今は兄妹にはあまり…。

Int：答えなくてもいいんですけど、今回の被災状況は、どうだったんでしょうか。

C：うちは全壊。実家も全壊だったので、結局お互い大変な状況だったので、なかなか…。今、実家は住めない区域で、私たちが戻れる場所だったら直して戻っているんですけど、実家は戻れなくなった

ので、今は、仮設にいるんですが、場所が離れちゃったので、姉は頼りにはならないですね。

Int : そうすると、しばらく仮設にいらっしゃったんですか。

C : 私、そのときはお腹も大きかったので、アパートをすぐ。石巻市近いですけど、いったんちょっと別なところに移ってですか。

Int : アパートに入れてよかったですね。

C : そうですね。

Int : アパートにどのぐらい？

C : 半年ですか。

Int : 半年間。それで新たに新築かなにかされたんですか？

C : 家ですか。家は全部リフォームです。家を建ててまだ2年目だったので、1階を全部リフォームしてもらって。元のところに戻ったような状況です。

Int : 震災の影響って、ご主人の仕事のほうには、問題なかったですか。

C : 大丈夫でしたね。

Int : 経済的な問題もなかったですかね。

C : 経済的なものも大丈夫でした。ただその当初はまだはっきりわからないっていう。結果、大丈夫だったんですけど。

Int : そうすると、今、困ったときに一番相談に乗ってくれるのはご主人なわけですか。

C : そうですね。あと母親だったりですかね。

Int : 比重っていったらどうですか、どちらがやはり。

C : ただ、普段、夫に相談しようにも結局いないので、話はするけど協力的なことってなると、やっぱり母親のほうが、どっちかっていうと。

Int : お母さん。具体的にどういうことで相談されたり。

C : でも今は、自分も仕事をしていないので、最近はそんなに悩むことはないです。生まれた当初は子どもの成長とか今後のことを考えて、ちょっといろいろありましたけど、今はそんなに悩んでいることとか、今はストレスもないですね。

Int : お子さんの成長のこと、相談っていうと、ご主人よりお母さんってことですか。

C : 子どもの成長に関しては、やっぱり主人ですね。

Int : ご主人ですか。だいたい頻度というところのどのぐらい？

C : 多分、子どもの成長だったら、母親にはそんなに…。心配もかけるので特に。

Int : もしよければ、(アンケートの)最後のほうをみると、時々動悸がするみたいなんですけど、これはやっぱりずっと続いているんですか？

C : 今はないです。

Int : いつ頃まであったんですか？

C : 去年あたりかな。最近は、ずっと大丈夫なんです。

Int : 震災のことを思い出すというのは、これはいつ頃までですか？

C : 思い出すのは、今でも思い出します。うん、思い出しますね。

Int : 差し支えなければ、どんな内容ですか？

C：やっぱり亡くなった人とか思い出しちゃいます。そういえばこうだったよねとか。結構、周りに亡くなった方が多いんですけど、その子どもたちのこととかですかね。

Int：今はどのぐらいになってますかね。

C：場面、場面で思い出しますね。でも前みたく思い出して涙を流すっていうことはなくなったんですけど。

Int：夜なんかは、寝れてますか？

C：夜は眠れてます。それを考えて眠れないっていうことはないです。

Int：食欲なんかは？

C：大丈夫です。

Int：気分の落ち込みとかはそういうものは？

C：大丈夫です。

Int：自分のこの精神的な心の問題で、相談したいことがあるとかありますか？

C：今は大丈夫ですね。

Int：(アンケートの)自由記載のところなんですけど、先ほどの繰り返しになるかもしれないんですが、やはりこれから先のことが今、不安っていうこと。

C：そうですね。成長とかその辺りが一番。

Int：早産だったんですか。

C：そうです。25週ですかね。

Int：かなり体重も小さいですもんね。子育てに関しての不安ってありますか、子どもの成長以外に。

C：特にはないですね。最近も、でも、なるようにしか、ならないなっていうふうに言い聞かせて。

Int：子育て以外の不安は特に記載されていないんですけど。

C：特にその辺はないです。安定してますので。

Int：この一番必要と思われる支援ということで、子育てしているお母さんたちとのサークルっていうのは。

C：同じようにというか、どうしてもそういうサークルっていうと普通に順調な子…。情報とかもなんですけど、小さい子どもを生んでみて、そういった感じの情報っていうのが全くどこからも入ってこない。結局、病院友だちのお母さん達っていうのも、近くにはいなくて、みんな遠くなので、そういう話し合いの場とかもあつたらいいな、なんてふって思いました。

Int：実際に、そういうサークルって、今、全然ない？

C：多分そうですね。気を付けたことなかったですね。だから、どうしても病院の友だちなので、たまにお会いするとかぐらいしか、なかったですかね。

Int：K病院、例えばケースワーカー等から、そういう情報はないんですかね。

C：ちょっと聞いたことはなかったですね。

Int：それこそケースワーカーたちが把握してるっていうか。確かにそういう情報があればお互いに。

C：そうですね。お互いにこうだ、ああだって、同じ境遇のちょっと小さく生まれた子とか。

Int：今、自宅のほうに訪問というのは、どれぐらいの頻度であるんですか？

C：それもこっちから言わないと来てくれなかったの。もともと生まれて、半年後に退院してきたん

ですけど。病院のほうから、市のほうに連絡は入るそうなんですけど、結局、来てくれなくてこっちからちょっと用があったときに、こういうふうにも生まれているんですけど体重とかちょっとってことで、「あ、そういえば連絡入ってました。」みたいな感じで来てくれたような。保健師さんとかは、「何かあったら連絡くださいね」という感じで、特に頻繁には…。うちは、ちょっと来てくださってということで2回ぐらい来てもらいましたね。

Int：保健師さんですね。

C：そうです、保健師さんと栄養士さんのほうにもちょっと入っていただいたときがあったんですけど、それもこっちから連絡して。

Int：普通、1カ月訪問ってあるんですか。出産後1カ月、ただ入院されてたから1カ月訪問はなかったってことなんですか。

C：全くなかったんですね。何も来てくれなかったですね。

Int：そういうときに何か、退院後1カ月ぐらいにあれば、一番いいってこと。

C：そうですね。ちょっとしばらくは、体重のことが気になっていたんで、定期的に来てくださったほうが心強かったんですけど、こっちから連絡してって言っても前から連絡するのも、なんとなく抵抗があって、連絡できないでいました。

Int：助産師さんに来てもらえる機会ってありますか。

C：助産師さんはないですね。来ていただいたときってないですね。上の子もそうですけど。

Int：その地域の中ではやっぱり保健師さんが中心になって。

C：そうですね。保健師さんだと。

Int：あとそれ以外の支援ってというのは、どうですか。

C：とりあえず今のところ、ゆっくりながらも順調にきてるので、今は、特にこうして欲しいとかってというのは特に感じてはないです。

Int：わかりました。震災後、出産されるまで1カ月ちょっと、その間に何か実際にお変わりになったことは、ありましたか。

C：体調ですか。特に感じなかったんです。そのときにN病院にいたんですが、助産師さんから、きっと家のこととか、今後のことでいっぱいいっばいで、多分お腹の張りとかも感じれなかったんじゃないかってことを言われたの。特に調子悪いついていうのはなかったんですね、自分的には。

Int：その震災直後で一番困ったことってというのは。

C：震災直後は、産婦人科がストップしちゃって、その辺がすごい不安でした。どこで産んだらいいのかっていうのが、年齢的にも年を取ってきたので…。妊婦健診ではずっと順調にきていたんですけど、どうしようかなっていうので、その辺がすごい不安だったのは、今でも覚えてますね。

Int：もともとN病院で生んで。

C：違います。もともとは個人病院だったんですけど、そこが全部被災しちゃっているんで、石巻の個人病院は全部ストップしてるってことで、N病院さんしか妊婦を扱っていないっていうふうになって、そうやっているうちに、まもなく妊婦健診を迎える時期でもあったんですね。どうしようかなって思っているときに、個人病院でほとんど産科を扱っていなかったんですけど、この震災の状況で、そこでも妊婦健診をやってくれますよっていう情報が入ったので、そこに行って妊婦健診はとりあえず4

月の初めに受けたんです。ただ、そこはお産は扱っていないので、N 病院のほうに回しますっていうことで。ただ、週数的にもう 21 週だかになっていて、20 週までの人は、すぐ N 病院のほうに回していただけるんですけど、もう 20 週も過ぎていて、上のお子さんの話を聞いても順調にきてるようなので、28 週になったら N 病院のほうに紹介状を書きますっていう話だったんですね。そうやっているうちに破水しちゃって…。紹介状もまだ書いてもらう前の段階だったので、N 病院のほうに電話したら、たまたま電話を受けた方に、「診察かかってないので診れません」って言われたんですよ。それで、また今度不安で、どうしようどうしようってなって、結局、普通の病院、普通の科で扱えるものでもない、どうしようどうしようっていうことで、たまたま避難していたところが、W 町だったんですね。だったら、じゃあと思って、F 病院でしたっけ、そちらに電話したら、ちょうど向こうの産婦人科の先生がお話を聞いてくださって、「もともと N 病院のほうにかかる予定だったのであれば、私が連絡してみます」っていうことで、先生がコンタクトをとってくれて、それで「今連絡したので、すぐ N 病院のほうに行ってください」ってことになって、ちょっとそこでまた、間があったんですね、何時間か。なので、今後、災害があったときに、そういうことがないように…と思って、私も今回、面接を希望して来たんですけど。

Int : 確かにうまくスムーズにいければ一番よかったですね。

C : そうですね。そのあと、N 病院に行ったら、結局、週数的にも大きさ的にも、うちの病院では無理だからっていうことで、今度、またそこから S 市へ移ったので、破水してから、結構時間がたっちゃったんですね。結局、着いたら夜中になって、日にちも変わっちゃってっていうのがあったので、そこはすごい思いましたね。

Int : そのときに一番支えになってくれた方は、やっぱり…。

C : そうですね。そのときは、たまたま船が出れないでいた主人ですかね。

Int : それ以外に日常生活で困ることってありましたか。震災直後のことで。

C : 直後は、家もどうなるんだろうっていうすごい不安と、主人の仕事が船だったので生活もどうなるのかなっていう不安ですかね。

Int : その不安が、やはりかなり強かったですか。

C : そうですね。強かったですね。ただそういう精神的な状態で、多分お腹張ってるのも感じなかったのかな、なんて思って。

Int : そのときに、上にお子さん 2 人いて、お子さんの子育てかなんか。

C : 転出ですか、学校とかの。こっちに入学の準備とかいろいろ。中学校と小学校だったので、そういう準備とかも全部しなくちゃいけなかったです。あと家の手続きとかいろいろ。夫もいましたけど、一緒にこっちだこっちだっていうふうになんとかしていたので。

Int : ご自身で。やっぱり日常生活のことは学校関係とか、そういうことですかね。

C : そうですね。いろいろ。

Int2 : 上のお子さんが、震災の直後に何か不安になっている様子とか見られましたか？

C : 震災の 1 カ月ぐらいしてからですか、突然泣かれたりというのはありましたね。2 番目の息子ですかね、ちょうどスポ少と一緒に野球やっていた子が、目の前で流されちゃったのを見ているので、そういうので、思い出しちゃって突然夜にワーッと泣かれたときが一回だけありましたけど。でもその

後はないですね。逆に私がずっと泣いてばかりいたので、そういうのでちょっと不安にさせちゃっていたのかもしれないですね。そうやっているうちに、生まれちゃったのもありますし。

Int：その、ご自身で泣いていたってこと、一番大きな要因っていうのは。

C：やっぱり全部混じっていた、あの辺りは。先生に、生まれたあと、どうなるかもわからないって、半分半分ですってということもあったし、あと亡くなった子どもたちとか、いろいろこう震災のことで、突然、ご飯食べながら泣いちゃったりとかっていうのがよくあったんですね。私自身が。多分そういうのが…。

Int：そうすると、2番目のお子さんが夜に一回泣いたっていう部分がありましたけど、震災後、それ以外で上のお子さん2人のことで困ったことって何かありましたか？

C：最初、学校が変わることで、嫌だってすごい言われたんですけど、すぐなじんでくれたので、その辺は大丈夫でした。

Int：現在、子育てしている中で、上のお子さん2人と、下のお子さんの子育ての両立については何か悩みってありますか。

C：ないです。

Int：それ以外に何かこちらの面接でお話したいことや、相談したいことってどうですかね。

C：とにかく、今後、もしどこかでこういうような災害が起きたときに、妊婦の診察など、スムーズにことが進んで、私たちみたいにならないように、っていうのが一番の。

Int：そういう体制ですね。

C：その体制ですね。私は、そこですごい不安になったのを今でも…。どうしようどうしようっていうので、あのときはほんとに普通の科と違って、どこの病院でも診てもらえるわけじゃないですよ。だから、どうしようってすごい不安になったのを、今でも覚えているので、その辺の体制ですか。

Int：災害で同じような状況になったときに、混乱してる中での緊急時の対応がスムーズにできるように、前持って今から準備できるかっていうことですね。

C：そうですね。そこが一番強く思いました。

Int：今回のこのお話、生かしてそういうようなところでも、少し出せればと思っています。今日はどうもありがとうございました。

Dさん：30歳代後半 初産婦

分娩日：2011年5月中旬 分娩時週数：37週

Int：Dさんご自身は、震災のときには、妊娠のどのくらい時期だったんですか。

D：妊娠7カ月くらいですね。6カ月後半から7カ月くらいでした。

Int：そのときの被害状況は、どんな感じだったんでしょうか。住まわれているところなどは。

D：うちはアパートの2階だったので、なんの被害もなく、1階の人たちも床下で済んだようなんです。アパート自体が、土地的にちょっと高いところにあったみたいで。でも、同じ地区でも2軒隣は床上とか、3軒隣はもう1階全部とか、その建ってる家によって、地盤の状態がちょっと違うだけで、随分違ってみたいで。

Int：2軒隣でもそうなんですか。

D：そうです。W地区とか、津波がすごい来たところもそんな感じで。なので、うちのアパートは被害が少なかった。水は来たんですけど、被害は少なかったっていう感じでした。

Int：そのときは、アパートの中におられましたか？

D：いえ、実家に行っていて、弟が2人いて、それぞれ結婚して1人ずつ子どもがいるんですけども、そのすぐ下の弟の奥さんと姪っ子も実家にいて、もう雪もすごい降ってきたので、じゃあ積もらないうちに帰るかってなって。弟家族も、うちのアパートの近所の貸家に住んでいたんですね。なので、帰るべしって言って、それぞれ帰ってきて、もうすぐアパートに着くっていう頃、車の運転中にあの地震に遭って。

Int：どんなでしたか？

D：最初パニックかと思ったんですけど、なんかマンホールとかから、水とかがすごいあふれてきてたので、「あ、これ私だけじゃないな」って思って。すぐ近くのコンビニに車を止めて、震災直後は電話がつながったので、すぐ後ろを走っていた（義理の）妹に電話して、離れないほうがいいからってコンビニで待ち合わせて。それから余震があったので、ちょっとそこで待機して、私と妹とそれぞれ車に乗っていたんですけど、離れないほうがいいねって言って、私の車をそのままコンビニに置いて、妹の車で一緒に行動をすることにしました。それからまず妹の貸家に行って、妹がリュックにいろいろと子どもの物とか詰めて、もう5分ぐらいで来たんですけど。それで、次にうちのアパートに行って、私も自分の物とか母子手帳とか全部詰めて、車に乗って、すぐ近くの旦那の実家に仕事場があったので、ちょっと心配になって寄っていい？って言ったんですね。義理の妹と私と姪っ子と3人で旦那の実家に行って、呼んだら旦那がいて、お父さんたちは？って言ったら、みんな津波が来るからって逃げたよって言って、まさか自分は津波が来るとは思わないから、普通に仕事してたみたいなんです。普通って言うか実家にいたみたいなんです。とりあえず、うちの実家が山のほうなので、大丈夫だと思うから、うちらもうちの実家に行くべしって言うことになって、みんなで移動したら、津波に遭ってしまって。

Int：というのは、車の中に。

D：車に乗ってて、移動中に津波が来てしまって。

Int：車まで。

D：はい。もう水が入ってきてしまったので、車を乗り捨てて逃げたんですね、みんな。津波がきたところの近くに、ちょっと軒先が高いお家があって、もうそこのお家の人たちは逃げてて誰もいなか

ったんですけど、水がとりあえず来てないし、ちっちゃい姪っ子もいるので、とりあえずそこに逃げさせてもらおうって言って。しばらくそこに残っていたんですけど、どんどん水が上がって来てしまったので、ちょっと悪いなとは思ったんですけど、中に入らせてもらって、雪も降ってたし、中で待機させてもらっていたんですね。

Int：お家の方はどなたもいらっしゃらなかった。

D：いらっしゃらなかったです。

Int：留守のお宅で。

D：はい。緊急事態だからしょうがないよね、別になんにも盗むわけじゃないしとか言って。

Int：姪っ子さんは、何歳なんですか。

D：そのときは、3歳ですね。

Int：3歳。じゃあ、妹さんと姪っ子さんと、Dさんとご主人と、ちょうど4人で。

D：あと、ちょうど実家に旦那のほうの甥っ子が帰ってきてて、高校3年生だったかな、2年生かな。置いていくわけにはいかないからということで、一緒に行動してたら、津波に遭ってしまったので、旦那の甥っ子も一緒でしたね。

Int：なるほど。どの辺で、その水がきちゃったんですか。

D：S地区という。

Int：S地区というところ。ご実家は山手のほうにあったんですね。

D：山の岩盤の上に建ってるらしくて、地震自体の被害もそんなになくて。そんなにというか、全然ないほうで、津波も全く来なくて。旦那の実家は、1階が全部やられてしまって。

Int：ご主人の実家はどちらのほうなんですか。

D：そのS地区。

Int：同じS地区。

D：旦那は、実家に仕事場があって、毎日通っていたので。

Int：そっか。ご両親は津波が来ると思って逃げたけど、ご主人だけは残ってたってことですね。

D：残っていたんですね。いつも地震があっても、津波は1メートルとか2メートルとか、30センチとかっていう報道だったので、まさかそんなに来ると思ってなかったみたいで。でも、お父さんたちは、お母さんがちょっと半身不随で車椅子と寝たきりみたいな感じなので、それもあったのかわからないですけど、お父さんの指示でみんなで逃げたみたいなんですね。

Int：なるほど。じゃあご主人のほうは、奥さんのほうが立ち寄りなれば、そのまま居残っていた可能性ありですね。

D：実家は、2階にいれば大丈夫でしたけど。S地区は、女川とかみたいに、テレビで見るようなダークで勢いよく水が来たのではなくて、緩やかに水が浸水していったっていう感じなので。

Int：時間的には余裕が。

D：余裕があったし、水が来てちょっと高いところになれば大丈夫みたいな、持ちこたえられる感じでしたね。

Int：そのとき妊婦さんでしたよね。ご心配なことはなんでしたか。

D：結局、水に浸かってしまったので、身体が冷えてしまって、それで赤ちゃんが流れてしまわないかっていうことが心配でした。あと、妊婦健診も後々なんですけども、N病院があの通りだったので、妊婦健診が全然始まらなくて、いつから始まるのかもわかんなかったし、超音波で早く赤ちゃんを見て、無事を確かめたかったですね。

Int : そのお宅に留まったのは、どのぐらいの時間だったんですか。

D : 1時間いるかいらないかで、水がだんだん引けてきたので。

Int : そうすると、お腹まで水に浸かったんですか？

D : それは、ギリギリ大丈夫でしたね。あと夢中で歩いているうちに、股のあたりまで浸かってしまって、感染症とかになったらどうしようっていうのも心配でしたね。

Int : なるほど。そうすると、冷えと感染ですね。あとは、健診が受けられないことへの不安と、超音波で赤ちゃんの元気が確認できなかった不安ですか。それらは、どのようにして解消されてましたか。

D : そうですね。やっぱり家族ですね。3日目ぐらいに自分の実家に帰ることができたんですけど、そこでやっと安心できたんですけども。

Int : その3日間っていうのは、どちらにおられたんですか。

D : 1日目は、旦那の実家が、その避難させてもらった人の家から歩いてすぐだったので、旦那の実家に移動して、着替えとか2階でさせてもらって。

Int : その日のうちに。

D : その日のうちに。

Int : 水はすぐ引いたんですか。

D : 潮が満ちたり、引いたりするみたいに、夕方になったら、実家の階段の3段目とか4段目まで、また水が上がって来たので、1回移動して落ち着いたらもう動けなくなって。とりあえず、そこに泊まるしかなかったので、震災があった日の夜は、旦那の実家に泊まって。次の日は、すぐお向かいに4階建ての内科が建ってるんですね、そっちは水も出るし。1日目のとき水が実家の2階まで上がって来ないかどうか、すごい心配だったんですね。なので、内科は4階建てだし、じゃあそっちに移らせてもらおうということで、朝、水が膝ぐらいまでに引いたときに移動して、2日目はその内科に泊まらせてもらいました。

Int : そのときは、何人ぐらい4階建ての内科のところに。

D : 近所の人たちとか、あとちょうど受診にきてた人とか、結構居ました。30人か40人くらい居たんじゃないですかね。

Int : そこで、2日目は一晩ぐらいみなさん泊まったんですね。

D : そうですね。

Int : その時点でも水はまだ。

D : 全然引いてなくて、寝れなかったですけど。膝ぐらいまでになったり、また歩けない、出ていかれないぐらいまでになったりとか、いろいろでしたね。いつになったら、ここから出れるかなとかって話していて。

Int : そのとき、内科なので、妊婦さんとしては、なんとかなるかなというような思いはありましたか。

D : 看護婦さんとかもいたので、その点ではひとりであるよりはちょっと心強かったですけど、でもみんな結構、自分の家のこととか、自分たちのことで頭がいっぱいだったので。もし、ほんとに緊急事態になったら、なんとかしてくれたかもしれないけど、でもやっぱり自分の実家に行くまでは、あんまり安心はできなかったですね。

Int : すごいご苦労されてますよね。

D : いや、そんなことはないです。

Int : 2日目は内科におられて、そのあとは。

D : 次の日の朝に水がだいぶ引いたし、そこにいた人たちも、もうみんな避難所とかに移動するってな

ったので、じゃあ、うちらも行こうかということになって、とりあえず、うちの実家に行くことにしたんですね。

Int : その病院の中で、一晩泊まって、なかなか水が引かないというような時、皆さん方の状況っていうのは、どんなでしたか。

D : 近所に、お菓子屋さんとか商店とかやっているとところが結構多かったんで、その人たちが在庫のお菓子とかを持ち寄ってくれて、自由に食べなさいみたいな感じで。結構、物資とかも充実してたので、みんな切羽詰まっている感じはなかったですね。

Int : そうすると、隣近所の方々が、自分のお店にあるものを持って、そこに避難してこられたっていうことですね。

D : そうですね。もしくは、水が引いたときに、ちょっと行って、持ってきて、みたいな。

Int : そうか、すごいですね。じゃあ、パニックになって、わんやわんやっていうのはなかったですか？

D : なかったですね。石油ストーブとかもあったので。あと、そこは水が水道水だけじゃなく、多分上にタンクかなんかがあって、あんまり飲み水には適さないけど、とりあえず、水も出たし。

Int : そうですね。そのときは、ずっとご主人と妹さん、姪っ子さん、甥っ子さんと一緒に移動されてたんですね。何カ月ぐらいして、どのぐらいの期間で赤ちゃんの健診が受けられるようになりましたか。

D : 1 カ月後ぐらいかな。いつだったかな。

Int : その時期だと、定期的には 2 週間ごとに健診を受けなきゃいけないというのが、そもそもありますよね。だけど、そんなふうにはならなかった。

D : そうですね。来週から、毎週受けなきゃいけないのかって、思っていた時期だったんですね。

Int : じゃあ 35、6 週ぐらいのときでしたね。

D : 震災から 1 週間後ぐらいに、予約が入っている日があったので、弟夫婦に乘せていってもらって、様子を見ながら、「予約が入っているんですけど、受診はできますか」みたいな感じで言ったら、「ちょっと今緊急の患者さんでいっぱいなので、出血とか特に変わりがなければ、こちらから連絡があるまで待機してください」みたいなことを言われて。

Int : そのとき、D さんとしては、どんな感じでしたか。例えば、心配で不安で早産になるんじゃないか、あるいは、腰まで水に浸かって、感染するんじゃないかって心配したところに、健診もいつ始まるかわからない。

D : いつ始まるかわからないっていう感じ。あーそうなんだ、どうしようかなって思って、でも連絡がくるまで待っていてくださいって言うから待つしかないよなと思ってました。もちろん、他の町医者の産婦人科もやってるわけないし、ライフラインがそもそも整ってないから、どこもやってないし、ここに頼るしかないから、待つしかないんだろうなっていう感じでしたね。

Int : でも、今、私は緊急でないわっていうのは、どういうことで判断されましたか。

D : まず出血がなかったっていうことと、あと胎動が結構頻繁にあったので、元気なんだろうなっていうこと。あとは、妹たちも出産経験者だし、そういう人たちが周りに結構いたので心強かったっていうのもありますね。

Int : そうすると妹さん達、出産を経験された方々は、大丈夫よっていうような声掛けをしてくださったんですか？

D : そうですね。なんかあったら、こうこうこうで張ってきて出血したりするから、それがなければ大丈夫だよみたいな、アドバイスのことを。

Int : 具体的に、お話ししてくださった。そういうのは、いいですね。何も無いときに、安心材料になりますね。この辺りは、今後もすごく生かしていけると思いますね。そのあと、病院のほうから、連絡は来ましたか？

D : いえ、来ませんでしたね。震災から 1 カ月ぐらい経って、こちらから電話してみたら、なかなかつながりにくくて、ずっとかけてたんですけど、妊婦さんの産科だけは始まってますって言われて、やっと行けたっていう感じですね。

Int : 外来は、混んでましたか。

D : そうですね。他の町医者に通っていた人たちも来ていたので、結構居たと思います。

Int : そのあとは、順調に普通の妊婦健診の経過ですね。ご主人のほうは、仕事場が流されてますよね。水浸しになっていたりしたんですか。

D : 仕事場は 2 階だったので、ギリギリ大丈夫でした。

Int : そうでしたか、わかりました。じゃあ、あとにご出産も普通のように。

D : 自然分娩で。震災からだいたい 2 カ月後ぐらいに、出産だったんですけども、予定日より 3 週間早かったんですけど、でもその頃には、被災してない H 地区っていうところの大きいスーパーも営業していたりして。震災から 1 カ月ぐらい経ってから、通常ではないにしろ、営業時間も何時から何時って決まっていたにしろ、結構、店舗とかも開きだして、物資とかも充実してきた頃だったので、おむつとかも普通にスーパーとかで買えたし、あと、妹たちがお下がりとかをいっぱい実家に運んでくれたので、私は赤ちゃんが生まれるための準備グッズっていうのが、全然何も心配なくて。

Int : そうしますと、出産にまつわることでご心配だったのは、震災当日の健康管理と、そのあとの妊婦健診がなかなか開始されなかったっていうところですね。

D : そうですね。

Int : いざ、出産っていうことに関しては、大丈夫だったということですね。

D : はい。あとは、生鮮食品がやっぱり手に入りにくいというか、新鮮な魚とかは望めなくても、納豆とか牛乳とか、お豆腐とか、低カロリーで高タンパクだから食べるといいよってお母さん学校とかで教えてもらっていたやつが、ほとんど手に入らなかったの、カルシウムとかをどうやってとっていいのかっていうのがわからなくて。わからなくてというか、とる手段がなくて、食事から栄養がとれなかったっていうのが、不安でしたね。

Int : お子さんは予定日 3 週間前で、何グラムぐらいで生まれましたか？

D : 2486g です。

Int : 小さかったですね。

D : ちょっと小さかったですけど、ぎりぎり保育器には入らないで、健康に生まれてくれました。

Int : 今は、順調にお育ちになってますか？

D : はい。

Int : 母乳栄養でした？ミルクですか？

D : 混合です。

Int : どちらのほうが多い混合になりましたか？

D : ミルクが多かったですね。

Int : 母乳はなかなか出ませんでしたか。

D : そうですね。なかなか量が出なくて。絞れば出てくるんですけど、量が出ないから、多分子どもも出ないと思って離しちゃうのか、それでだんだんと…。3 カ月ぐらいまで母乳と混合でしたけど、その

あとは、もうミルクオンリーでしたね。

Int：そのあとは、順調に育って。お子さんは、今はもう普通の食事をされていますか？

D：はい。

Int：健康的にはどうですか？風邪引きやすかったり、下痢しやすかったりとか。

D：多分、健康なほうだと思います。

Int：そうですか。予防接種も順調にやられていますか？

D：はい、やってみました。

Int：良かったです。そうしますと、育児の支援とかそういったものは？子育てサークルとかあるじゃないですか、そういうのはご参加されているんですか？

D：月に2回、0歳児から2歳児までのやつが公民館であるので、それに行ったりとか。

Int：0から2歳児の交流があるんですね。その他は、どんなことを。

D：あとは、自分の実家と旦那の実家に週1回ずつ行っているし、あとは近所で、同じアパートに子どもがすごく多いので、アパートの下で遊んだり、友だちの子どもと遊んだり、とかですね。

Int：アパートのお子さんたちは、同じぐらいのお子さんたちがいらっしゃるんですか？

D：同じぐらいの子もいるし、ちょっとお姉さんの子もいるし。

Int：そのアパートの子育てしているお母さんで、震災のときにどんな苦労をされたとか、こんなことがひどかったよっていうようなことは聞かれていますか。

D：あんまり聞かないですね。みんな、実家が流されたとかっていうのは聞いてますけど。自分の実家は流されても、旦那の実家は山のほうで大丈夫だったから、ずっとそっちにいたとかっていうのは聞いてますけど、ひどかったとかっていうのはあんまり…。話さないだけなのか…。

Int：あんまり話したがりませんか、そういう震災時のご苦労話っていうのは。

D：そういうことでもないんですけど、ゆっくり話す暇もないっていうか、子どもを遊ばせていて、みんながケガしないように見てなきゃいけないので…。

Int：インターネットでは、今かなり、いろんな情報が飛び交って、子育て支援というか、子育ての相談とかあるようですけども、そういうのはご利用になってますか。

D：あんまり…。うちもインターネットがつながっていないので。雑誌とかも、最初のうちは見ていたんですけど、あんまり情報がありすぎても自分で迷ってしまうというのもあるので、とりあえず、生の声をすぐに聞ける母親の先輩が周りにいっぱいいるので。

Int：確かに、そのようですね。妹さんなんか特にね(笑)。あと、お父さんの協力体制なんかはどうですか？

D：そうですね。普通にやってくれているほうだと思います。

Int：そうですか。満足してますか？

D：うーん、もうちょっとやってくれてもいいかなとは思いますが。

Int：ちなみに、どんなところを？

D：やっぱり、うちの弟たちと比べてしまうっていうか。うちの旦那は、男兄弟で育っているので、ちょっと気が利かないところとかもあって。うちの弟たちはこまめにおむつを替えてあげたりとか、いっぱい遊んであげたりしてるんですけど、そういうところがあんまり…。おむつも私がないときはやっているみたいなんですけど、いるときは代えないですね、お風呂は入れてくれますけど。

Int：なるほどね。避難するのに、ご一緒に動かれていたとき、ご主人がいわゆる妊婦である奥さんに対して、何か配慮や気にかけるようなことってありましたか。

D:あんまりなかったですね。どうしたらいいかわかんないっていうのもあるのかもしれないですけど、特になかったと思います。その辺も、ちょっと不満…(笑) もっと気を使ってもいいんじゃないって思ったんですけど。

Int: そうですか。ご主人はそのこと気付いておられますか？

D: 気付いてないと思います。多分。

Int: やっぱり男兄弟だけと、女兄弟がいるっていうのとは、若干違うかしらね。

D: ちょっと空気を読めない感じですね。

Int: 男兄弟なんですね。

D: 4人男兄弟の4番目なんで。

Int: あーそうなんですか。4番目というのも、またすごいですね。

D: そうですね。

Int: それでご実家でお仕事されているんですか。

D: そうです。

Int: ご長男が継いでおられるとか、そういうことではなく。

D: 長男が家を継いでいるんですけど、うちの旦那は自分だけの自営で、仕事場を実家に作ってもらったみたいな感じ。

Int: なるほど。ちなみに、どういったお仕事なんですか。

D: 歯科技工士です。

Int: そうすると、自分のところにお仕事を持って来て、そこで作るという。

D: そうですね。契約している歯医者から仕事をもらって、作って納品してお金をもらうっていう。

Int: 医療系のことをやっても、やっぱり気が付かないですかね。妊婦さんの大きいお腹ですよ。

D: そうですね。結構、大きかったんですけど…(笑)

Int: 2,400グラムで出産されたっていうことなんですけど、ちょっと小さめだねっていうのは、ずっと言われていたんですか？震災の前の妊婦健診で。

D: 特に何も言われてなかったと思います。

Int: じゃあ、生まれてみて、びっくり。ちょっと小さめだねと。

D: 3週間早いからなんですかね。

Int: 3週間って言っても、37週でお生まれですよ。

D: 36か7か。

Int: 36週だと早産になるんですけど、37週に入ると満期産になっていくんですよ。ちょっとお子さんのことが心配かなと思ったんですけど、週数がいっているので元気であればほとんど問題ないのでね。お子さんはお嬢さんですか。

D: 女の子です。

Int: どんな感じですか。

D: 多分うるさいほうで、活発なほうだと、うちの母親には言われます。

Int: そういった、ずっと男兄弟だけで育ったご主人から、女の子さんっていうのは、どんな感じなんでしょう。面倒見がいいんでしょうか。

D: 生まれる前、女の子ってわかったときに、兄弟にも女の子いないのに、どう接していいかわかんねえ、みたいなことを言っていたんですけど。生まれてからは普通にミルクも飲ませたりしてましたけど、遊び方がわかんないみたいですね。子どもにペタンコしようって言って、ペタンコーって、こうぎゅ

って抱いたり、なんか絵本を読んでってせがまれると、読んであげたりしてるんですけど、他の遊び方がわからないみたいですね。

Int：抱っこするとか、絵本を読んでって言われたら読んであげるけど、その他のことはなかなか思いつかないというか。

D：そうですね。一緒に散歩に行ったりしてるんですけど、向き合って手遊びするとか、歌って遊ぶとか、そういうのはやっぱりわかんないみたいで。

Int：そうなんだ。そういったところを見て、Dさんはもどかしさを感じますか？

D：そうですね。やっぱりもっと遊んであげれば、もっと懐くのに…とか。今はイヤイヤの時期で、ペタンコしようってお父さんに言われると、イヤイヤって言うんです（笑）

Int：そんなときどうですか、お父さんの反応は。

D：「えっ、なんで？いいじゃん、駄目なの？」とかって言ってます。

Int：そっか。違う遊びを工夫するとかっていうことはしない。

D：しないですね。「じゃあ、いいよ」とかって言うんですね。

Int：そっか、下がっちゃう。そんなときは仲を取り持ったりはしないんですか、お母さんは。

D：そうですね。「ペタンコっていうのを、嫌がっているんだから、それ、やめたら？」って言って、「もっとうちの弟たちみたいに、こうやって遊んであげたり、積み木で遊んであげたりすれば、もっと懐くんじゃない?!」とは、最近言っているんですけど。

Int：父親業を教えてあげないと、なかなか父親になりにくいお父さんもいるんだ。特に、自分が育ってきた環境なんていうのは、関係があるかもしれない。

D：そうですね。

お二方のご実家のほうに、週1回、定期的に通われているようだけれども、関係性は、すごく順調なんですね。

D：今のところは。

Int：今のところはって（笑）。そうすると、連れて行くと、結局、おじいちゃん、おばあちゃんにお世話していただくので、楽になるっていうことはありますか。

D：うちの実家に行ったときは楽ですね。旦那の実家に行ったときは、結局、お父さんも遊んであげることはできないし、お母さんも寝たきりで、お姉さんがお世話をしているので、旦那のほうの実家には、元気に育っているよっていうのを、おじいちゃん、おばあちゃんに見せには行きますけど、私が1日用事あるから預けるとか、そういうことでは頼れない感じですね。そういうときは、うちの実家に預けたりするので、うちの実家にはすごい頼ってますね。

Int：確かにそうですね。ご主人の実家のほうは、お母さんがご病気で、お姉さんが介護されているんですね。

D：はい。そうですね。

Int：いろいろな場所が津波で流されて、今、お子さんを遊び育てるところの場所が狭いとか、そういうことはありませんか。大丈夫ですか？

D：震災直後では、結構、公園が瓦礫で埋まっていたりして、遊ぶとこないなっていうのはありましたけど、半年ぐらいうすれば道路もきれいになって、公園もきれいになって落ち着いてきたので…。今現在は、公園でも普通に遊べますし、町内散歩にも普通に安全に行けますし、不安っていうのは特にないんですね。ただ、託児所というか、保育所とか幼稚園とか、そういうところは、やっぱりまだいっぱい聞いて聞くので、実際、働きたいなって思ったときに、預けるところがあるかなという不安はあり

ますね。

Int：ご自身は働いていらっしやったんですか。

D：妊娠してから辞めました。

Int：妊娠する前までは、働いていたんですね。働き口なんかは見つけれられますか。

D：今は、どうなんですかね。ハローワークもいっぱいだって言うので、1年経ってどうなのか、今現在の状況は、ちょっとよくわかんないですけど。

Int：ハローワークは、いっぱいなんですか。

D：いっぱいみたいです、まだ。

Int：女性だけじゃなく、男性も？

D：はい。

Int：そうすると、できれば託児所に預けて働きに出たいっていう考えをお持ちなんですね。

D：思ってます。でも、2人目も欲しいかなとも思っていて、ちょっとその辺で悩んでいるところです。

Int：なるほど。どっちが強いですか。

D：今しか産めないの、もう1人欲しいです。

Int：この辺も、託児所は満杯で、なかなか入れないんですか。

D：そうですね。S市内の託児所とか保育所とかは、いっぱいみたいです。あと働いているお母さんが優先なので…。

Int：そうすると、市内は難しいんですね。お話を伺うと、育児の相談ができる方はたくさんおられるようなので、あまり心配ないですね。

D：そうですね。月に2回、公民館に遊びに行ったときに、保育士の方とかにも、相談したりできるので。

Int：そのときは、保育士さんがいらっしやるんですか。

D：保育士さんが2人来て、お遊戯とかみんなで一緒にやって、おもちゃをいっぱい持ってきてくれて、自由に遊ばせてとかっていうプログラムですね。

Int：あとは、ちょっと小さめで生まれていらっしやるので、例えば小児科とか定期健診に行かれてますよね。そういったところで病気ではないけれども、何か相談というか、そういうようなことは自由にされてますか。

D：そうですね。一回、おむつを替えるときに、子どもの足の関節が左だけコキコキと鳴っていたので、それは健診のときに聞いてみました。

Int：定期的な健診の間隔で、心配ごとは解消できてますか。

D：そうですね。だいたい解消できてると思います。

Int：こんなことを、子育て中に手伝ってもらおうとすごくいいんだけど…っていうようなことは、何かありますか。

D：なんだろう…。首がすわってない頃って、やっぱり家にこもりがちになってしまうので、そういうときに、もうちょっと訪問してくれる、ベテランの保育士の相談員の人とかが来てくれるといいかなと思いますけど。それか、もっとほんとに生まれたての子どもを連れて集まってこれる、そういうお母さんたちが集まって話ができる場所があればいいかなと思いますけど。最初の1カ月、2カ月っていうのは、やっぱり外に出られないし、寝不足もあるし、ちょっと煮詰まってくるっていうか、そういう時期に、何か支援があったらなとは思いますが。

Int：わかりました、確かにおっしやる通りだと思います。なので、私たちも、自分で来れない方の家

庭訪問、できるだけお家に出向いて行って、相談事をお尋ねするような回数を増やそうとか、果たしてそれができるかっていうようなことで考えてはいるんですけど。あとは、お子さんの発達に関して、今のところ気になるところっていうか、ご心配なところはありますか。

D：まだしゃべらないんです。早い子はしゃべったりしているみたいなので。

Int：個別性は大きいですね。

D：しゃべったりする発育っていうかが、ちょっと遅いのかなとは思ってますけど。でも自己主張もするし、みんなで楽しく遊んでいるので、個人差があるから、あんまり気にしないほうがいいよって妹たちにも言われます。

Int：そうです、そうです。結構、個人差が大きいです。

D：それが、ちょっと気になっている感じですかね。

Int：私たちもね、出産後4カ月までの間に、必ず1回は家庭訪問をして、家庭の中でどのような雰囲気です育てをされているかっていうのを、きちんと把握しましょうってことにはなっているんですけど、1回だけでは足りないですよ、きつとね。

D：そうですね。できれば月に2回とか、3回とか来てもらえると心強いかもしれない。私は、実家がすぐ近くなんで、その点はいいですけど、もし実家が県外とかで、頼るところがないっていうか、しょっちゅう行けるところがないお母さんたちは、結構大変かなと思いますね。

Int：そうですね。あと何か気になるところとかはございませんでしょうか。ぜひこういう話を。

D：忘れないうちに言っておきたいんですけど。

Int：ぜひ。

D：私は妊婦だったので、あんまり人混みとかも行かなかつたし、弟夫婦、妹夫婦がドラッグストアとかコンビニとかに何時間も並んでいろいろ物資をゲットしてくれたりして、お姉さんは家にいてくださいみたいな感じで大事にされていたんですけど、友だちとかがコンビニで並んでいるときに、すごいお腹が大きい妊婦さんがいて、赤ちゃんグッズ、出産したら使う赤ちゃんのセットとか全部流されてしまったって、妊婦パンツ買いたいとかって言っていたみたいなんです。物資とかも、定期的になんでも持って行っていいですよっていう、コミュニティセンターとか公民館とか、そういう場所が何カ所かあったんですけど、そういうところに行っても、女性用の下着とかはいっぱいあっても、妊婦パンツとかはまずないんですよ。妊婦用の下着って特殊じゃないですか。なので、もし今後、震災とかあったら、病院とかでもいいので、そういう妊婦専用の服とか下着とかを配布してくれる場所があるといいかなと思いますね。

Int：妊婦さん特有の必要物品を必要なところに配置しておいて、そこに行けば手に入るというような方法をとって。

D：行く手段がある人はいいんですけど。

Int：あー、そうですね。

D：今回の震災では、車も流されてなくなって、妊婦だからそんな長時間も歩けなくて、移動もできなくて、そこまで行く手段がない人っていうのが、ほとんどでしたよね。避難所の中でもやっぱり人数が少ないじゃないですか、妊婦とか。その中で妊婦用品とか特殊なものを持ってきてくれるなんていうことは、多分ないと思うんですよ。なので、やっぱり病院とか、医療スタッフの人とかが運んでくれたりすると助かるかな。

Int：どこに行けばそれが手に入るかっていうことと、妊婦さんや、まだ小さいお子さんの子育てしているお母さんがどこにいるかっていうことが、医療側なりがわかっているならば、そこに出向いていける

っていうことですね。

D：そうですね。

Int：そういうような体制を取ってもらえたらいいということですよ。今回もずいぶんと苦労はしたんです。まず一番最初に手に入れようとしたのは、ミルクとおむつだったんですね。ただ、それらは仙台のU病院に大量に届いたんですけども、それを運んでいく手立てがなくて、そこをなんとか試行錯誤しながら運んだんですね。あのときは、ほんとにみんな必死だったんですけども、やっぱりあとで冷静に考えてみると、事前にそういう体制を作っておかないといけないということですね。

D：結構、赤ちゃんグッズとか、赤ちゃん用の洗剤とか、シャンプーとか、そういうものは、そういう物資を配っているところにちらほらあったりして。そういった生まれてから必要なやつは、結構、充実してるっていうわけでもないんですけど、あるんです。でも、妊婦用っていうとないですよ。

Int：なるほど。そうですね。わかりました。じゃあ、妊婦用の必要な物を必要な方にいかにしたら届けることができるかっていうようなことを検討していただくことにします。その他、何かございませんですか。

D：なんかあったかな…。

Int：あとは、先ほどお伺いしたときに、若干余裕があったので、こういったアンケート等にも答えていただけたってということだったんですけども、そうじゃなくてアンケートにも答える余裕がないというお母さんたちが仮設住宅に子育て中で今入っておられるっていうような方をご存じだってお話だったんですけども、そういう方々とは一緒に子どもたちが集まる時など、そういうような話題になることはありますか。当時、こうやって欲しかったのにとか。

D：あんまりないですかね。

Int：先ほど、お子さんの安全を確保するのに目がいて、なかなかお母さんたちと話をする余裕がないっておっしゃってましたけれども。

D：実家が流されたとか、そういう話で、今実家の人たちはどここの仮設にいるとかっていう話はしますけど、それ以外のことは特に。どうやって逃げたとか、そのとき何食べてたとか、そういう細かい話はしないですね。

Int：なるほどね。でも妊婦さんにとってみれば、その妊娠期の食事は気になりましたね。

D：気を使わなきゃと思って、いろいろとやっていたときに…。うちは実家が農家なので、米とか野菜とかは、まあまあ手に入ったんですけど、やっぱりカルシウムとか、積極的に取らなきゃいけないものが手に入らなかったの、そこが気になったし。

Int：なるほどね。わかりました。じゃあ、そういったとき、妊婦さんには、例えばサプリメントなどでも、栄養面で補強したほうがいいというようなところも、もしかするとあるのかもしれないね、そういう準備も必要ですね。

D：サプリメントと下着を。上に着る服は、旦那とか男用のものを着ても、なんとでもなりますけど、下着とかはどうにもならないので。下着とかサプリメントとかがあると結構心強いというか、心配がひとつなくなるというか。

Int：わかりました。今日は、わざわざご足労いただきまして、ほんとに長い時間ありがとうございました。

D：ありがとうございました。

Eさん：30歳代後半 初産婦

分娩日：2011年3月中旬 分娩時週数：40週

Int： ちょうど遊びの好奇心も増えてきて、活発になって目が離せないですね。今日は、よろしくお願ひします。

E： もう体力あり余ってます。夏場は、暑くてあまり外に出られなかったのて、最近はできるだけ外に行ったり、なるべくサークルとかに行ったりしてます。

Int： そのサークルはどうですか、このあたりは活発なんですか？

E： 震災後に立ち上がったベビースマイルっていうサークルで、コミュニティセンターとかでやるものとか、近所にある子育て支援センターとかに、なるべく自分のために行くようにしてます。一日中この子一緒に、家族は、主人と私と3人なんで、日中ずっと2人っていうのも、やっぱりお互いに息が詰まって(笑)

Int： そうですよ。お母さんのリフレッシュのためにもね。

E： 連れて歩けば、連れて歩くだけ、最近すごく疲れるんですけど。でも、寝てもらうためにもなるべく外に…。

Int： そういうところで、お母さんのお友だちっていうのは。

E： はい、何人か。

Int： 良かったですね。お友だちができるといろいろ話ができたりとか。

E： そういうのもやっぱり、子ども同士の遊びから、色々と教えてもらったり。まだ一緒に遊ぶっていう感じではないんですけど。

Int： それは良かった。お友だちができてね。お母さんたちが仲良くなると、お子さんも安心しますしね。育児の面で行くところというか、居場所も確保してらっしゃるし。

E： 私のほうの親がもういないもので、ちょっと実家に帰るっていうか、そういうことができないのがやっぱり一番つらくて。

Int： ご両親は、今回の震災で？

E： じゃなくて。その前に、もう両親2人とも他界してまして。何かと不安なこともあって、主人の両親はいるんですけど、車で30分ちょっと離れたところだし、年齢が結構高くなってしまっているのて、なかなか預けるっていうのも、ちょっと心配だったり…。

Int： 普段、一緒にいるわけでないからね。

E： たまに一緒にいて、1時間とか2時間とかって、私がつきながら遊ぶ分には構わないんですけど、やっぱりちょっと預けるっていうのは、多分無理だと思う。なので、最近、それでちょっと苦しいなという思いがあるんですけど。

Int： そういったサークルで知り合ってお友だちなんかができたり、そういうような行き場はあるけれども、何かのときに見てもらおうっていうのが…

E： そうですね。ちょっとのときに見てもらおうとかっていうのが、今、なくて。近くのスーパーで、託児をやっているところがあるんです。サークルやっていると事前に預かってくれたり、ママ対象のサークルとかっていうのがあって、そういうときに預かりますよっていうのが。それだけじゃなく何の用事でもいいんですけど、そういうのがあって、最初に預けたときは全然良かったんですけど、最近、預けられるのが嫌になってしまって、泣かれて泣かれて。1歳半になったのて、近くの保育所で一時預

かりとかっていうのも、ちょっと利用したいなと思っていた矢先に、私から全く離れなくなってしまう。だから、今何もできなくて、私自身がちょっと…。

Int： ご自分の時間がね。結構、ストレス溜まりますよね。ちょうど、そういった正常な発達のところね。

E： みんな通るところなんだと思うんですけど、やっぱりストレス溜まりますね。

Int： そうすると、お子さんは、今後は保育園とか？まだ先かもしれないですけども。

E： できれば、私も仕事をまたしたいなという気持ちがあって、なかなか難しいなと思うんですけど。ただ保育所もなかなか…。近くのいつも支援センターで行ってる保育所が、今ちょうど申込みの時期だったし、ちょうど入る頃にはもう 2 歳になるので聞いてみたら、2 歳はもういっぱいですって言われちゃって。

Int： そういう状況なのね。でも、それは働いている人が優先ということになっちゃうから、いっぱいになっちゃうんですかね。

E： いや、どうなのでしょう。もともといっぱいだったのが、震災後に、結局、閉鎖してできなくなった保育所とかも多分いっぱいあったりして、なおさら入りにくいんじゃないかと。だんだん再開したりしてるみたいなんですけど。でも改めてというか、本格的に預けようと思って探していたわけではなくて、その一時預かりのことで、ちょっと申込みというか聞きにいったときに、ついでに聞いてみたら、そのように言われてしまって。

Int： どうしようかなってというか、今すぐに決めなければならぬことではないけれどもという。

E： 将来的には働きたいなっていう。

Int： 妊娠なさって、お仕事を辞めたんですか？

E： 違うんです。ちょうど市内の会社に勤めていたんですけど、I 市の営業所を閉めるということになって、S 市に転勤しなくてはいけなくなってしまったんですね。それで、結婚して半年ぐらいのときだったので、ちょっと S 市通ってっていうのも…。I 市は、なかなか便が悪くて、仙石線が通っていたときでも、駅まで歩いていける距離でもないし、帰ってくると 19 時過ぎとかになって、それぞれでなかなか大変で。ひとりであればそれでもいいかなと思ったんですけど。なので、それをきっかけに辞めたんです。でも 5 月に辞めて、すぐに妊娠して。そういう意味でちょうど良かったというか。どちらにしてもつわりも結構ひどかったのだから、どうせ通えなくなっていたのかなって、あとから思えばそんな感じだったんですけど。

Int： 妊娠される前にもう退職なさって、将来的には働きたいなっていうふうになってらっしゃるってことなんですね。

E： 私の年齢も年齢なんで、難しいと思うんですけど(笑)

Int： 就職事情は、どうなのでしょうかね、石巻は。

E： 厳しいっていうのは聞きますけど。もともと厳しいときですけどね。

Int： 周りの方もやっぱり同じようなことおっしゃってますね。

E： そうですね。周りのお母さん達でも、休職されている方であれば、いずれ戻るとかっていうのもあると思うんですけど、まるっきり辞めてしまうと、フルで働くっていうのもなかなか。やっぱり正社員ですら難しいですよ、こういう状況になると。小さい子どもがいると、どうしても遠慮されがちというか、休むことも多くなると思うので。できればフルで働きたい気持ちはあるんですけど、体もついていくのかな、という自分の不安もあって。

Int： そのご希望は、ある程度具体的に就職活動なさっているっていうわけではなくてですね。

E：　そうですね。頭の中でだけは、いろいろ考えてるんですけど、まだ日々追われてしまっているとか、やらなくちゃいけないこともいっぱいあるんですけど、自分が疲れてしまって、一日くたたになってしまっ。

Int：　育児も大変ですよ。寝かしつけていて、そのまま一緒に寝ちゃったり。

E：　夜中に目が覚めたときに、残りの家事をやったりとか、昼夜逆転したような生活もしていたんですけど。

Int：　出産後ですか。

E：　はい、3カ月は。3月20日に生まれて、ちょうど震災直後のときだったので、出産後、主人の実家に行くことになって。私の母親がいないので、本当は、叔母のところにお世話になる予定だったんです。産んだらおいでって、言ってもらっていたんですけど、細かいことはなんとかなるからって言われてて、産んだら考えようとか、必要だったら買えばいいとかって言って、あんまり用意もしてなくて、大丈夫大丈夫って言うから、そんなもんなのかなと思ってたんです。そうしたら、叔母のところまでひどく被災というか、全部流されてしまって。それで、主人の実家のほうは水をかぶってなかったんで、急遽とりあえず3カ月お世話になって。

Int：　ご自分のご自宅は、床上浸水になって。

E：　はい。床上、アパートなんですけど。

Int：　出産直前にそういう状況になって、すぐに身を寄せられたんですか？

E：　いいえ、身を寄せたのは、地震があって次の日に。その当日は、自宅がアパートなんですけど、主人も帰ってこなくて独りきりだったので、同じアパートの2階の方に声を掛けてもらって、その日は一晩泊めてもらったんですよ。その時点で水が来てしまっていたので。家の場合は、水がダーッと流れてきたわけではなくて、だんだん上がってくるような。

Int：　1階？

E：　1階だったんです。それで、最初のうちは、どうしていいのかわからなくて、他の人に聞けば道も渋滞してるって言うし、自分だけの体であれば、いろんな行動もできたと思うんですけど、転んだらいけないとか、そんな感じで。

Int：　初めてのお子さんですもんね。ご主人が戻れなかったというのは仕事の関係で。

E：　仕事に行っていて、その職場が海淵というか、一番ひどい川の近辺だったんです。ただ最初のうちは、お互いメールのやりとりができていて、大丈夫ということで、日和山ってあるんですけど、そこに避難したって聞いていたので、とりあえず安心していたんですけど、そのあと連絡がつかなくなってしまったので。

Int：　直後はついてはいたけれど、だんだんとね。

E：　ひどくなって、それでどうしようかなと。ずっと余震が続いていたので、妹にも、誰にも連絡つかなくて、どうしたものか…、ちょうど平日だったので、兄弟たちもみんな仕事に行っているし。

Int：　平日の午後でしたもんね。それで、同じアパートの上の階の方に。

E：　別の棟の2階の方に声をかけてもらって。最初は、近くに小学校があるんですけど、多分そこが避難所になっているってということで、そこに行こうかなと思って、そのアパートのご夫婦さんと話をしたら、すでに先に行かれたみたいで、中に行かないほうがいいよと、すでにもう校庭まで人がいっぱいになっていたみたいなんです。ちょうど雪が降っていて寒かったんですよ。人が溢れてて、かえってその体で行ったら、風邪引くし、寒いからやめたほうがいいよって。そのご夫婦さんも車に戻って、多分ラジオを聞いていたりしていたと思うんですけど。なので、私も独りで不安だったので、も

しみんが行くのであれば、そのときに一緒に連れていってもらおうかなと、とりあえず余震の合間をぬって、取れるものは全部取って、着る物と少しの着替えと、あと手に取れる食べる物、お菓子だったりとか、そういうものを全部まとめて、とりあえず自分の車に積んでおいたんです。夜まで、みんな車の中でそんな感じでいたんですけど、だんだん水が上がって来て、車の中まで水が来てしまっ。今考えれば、もっとその前に行動すべきだったと思うんですけど。

Int： あとから考えればね。

E： あとから考えればですけど、周りの人もいたっていうのもあって、みんな動いたら移動しようってどうしても思ってしまった。

Int： 同じアパートの方との情報のやりとりとか、そういったことに不都合はなかったというか。

E： そのような話をして、みんな各々車に乗ってたんですが、車に水がだんだん入りつつあったので、もう駄目だと思って、とりあえず部屋に戻ろうかなと、唯一手元に置いていた懐中電灯があったので、それをもって出たはずだったんですけど、使っているうちに壊れてしまっ…。もう灯りもなくなっってしまったので、避難所に行くにしてもなんにしても、独りじゃどうしようもないし、これからみんなどうするのかと思って、車から出たら、そのご夫婦さんたちも出て来てくれて、大丈夫ですかっ言ったら、もしよかったら、うち2階だからおいでって言ってきて、それで。

Int： 良かったですね。

E： お腹も大きい状態で心配してたんだって言ってきて。

Int： 普段からやりとりのあった方ですか。

E： いいえ、お話もしたことなくて。なので、すごく恩人ですね。

Int： それは良かった。浸水はどのくらいまで？

E： 家の中は、多分20センチまで上がらなかったと思うんですけど、道路はもう車のランプの上ぐらいまで来ていたので、車は半分ぐらいまで埋まっ。夜中、ビービーいって、カチカチ鳴っ。

Int： 水が少しずつ上がってきた段階で、皆さん車から出られて、そこで声を掛けてもらっっていう感じですか。

E： そうですね。これからどうするんですかっ聞いたら、じゃあうちにおいでよっ。

Int： 良かったですね。

E： 予定日がもうすぐとか言ったら、びっくりされて(笑)。救助が来たら、まず先に助けてもらおうねとかっ言ってもらっ。年下のご夫婦さんだったんですけど。

Int： そうでしたか。お若いご夫婦なのに。そういうふう気づかっくださっ。

E： 次の日に連絡ついてたうちの弟が、迎えに来てくれて、カヌーで。臨月の妊婦がいるんだということで、自衛隊の人に言ったみたいで、カヌーを要請してもらっ。順番だっ言われたみたいなんですけど。それで助けてもらっ、そのまま自衛隊の車でN病院に一回連れていってもらっ。

Int： 震災後何日目。2日目ですか。

E： はい。次の日に、一度N病院に行って、その時点でちょっとお腹がはっだったので、診てもらっんですけど、まだすぐ生まれるって感じではないっということ。私は、N病院がかりつけだったんですけど、そのまま、そこにいても大丈夫なような感じだったので、本来はいいですよっ表向きではなかつたんだと思うんですけど、連絡がつかなくて行くところがない人は…っという、そんな感じもあっ。なので、2日目の晩は、N病院にいたんです。

Int： なるほど。

E： その病院に行った日にうちの主人もやっと下りてきてくれて、会えて。

Int： そのあたりは、連絡はもう。

E： つかなかったんですけど、まず自宅のほうに行って、私もメモ書きを残してきたんで、それを見つけて、暗くなってから来たみたいで。もし自宅にいなければ、N病院かなと思ってって言って、N病院までやっと辿り着いたんですよ。

Int： ご主人にお会いになったのは、じゃあ震災のあと3日目？

E： いいえ、次の日です。次の日の夕方。もう腰まで水に浸かりながら、山から下りて来たって。すっかり部屋の中で生まれて、死んでると思ったとかって言われて。

Int： ご主人も気が気じゃなかったでしょうね。E自身は、体が水に浸るっていうことは。

E： 浸るっていうところまでは、なかったです。車から出て、足がちょっとじゃぼじゃぼってこいぐらいはありましたけど。

Int： そうでしたか。

E： そういう面では、よかったです。あとから病院に行ったときに、すっかり浸かってしまったって人がいて、これからどうなるんだろうと思って…。

Int： でも、水に浸らないまでも、季節柄寒くって、そのあたりは？

E： 時期も時期で寒かったのもあって、とにかく寒くするなっていうこともあって、着る物とホッカイロとかも大量に用意していたので、とりあえず、それを全部持って、それで。

Int： 準備なさっていた。

E： そういうものはあって、周りのものとかっていうのは、とりあえず持っていたから。

Int： 皆さんすごい準備状態が…。

E： たまたまだったんですけど、そういうものは持っていたので。そのあと、3日目に先生がなんでここにいるのって感じで、ここ避難所じゃないよってなって。ちょうどその日に、主人の実家のお母さんたちがN病院までやっと辿り着いてきて、それで一度は実家に行ったんですけど、ガソリンがなくて遠くに行くのがやっぱり不安で、うちの弟がN病院の近くにいたので、そこに産まれるまでいたんです。

Int： なるほどね。ご自分は身内とはいえ、出産間際ということもあって、ご自分の家でないという気をつかったり…。

E： あと私、溶連菌（GBS）があって、それで点滴しなくちゃいけなかったんですね。それをすっかり忘れていたわけじゃないんですけど、とにかく病院で産めるかどうかすらわからなかったので、病院の近くにに入れることになって、とりあえずこれで大丈夫かなと思ったんです。でもあとから考えたら、もしそうやって病院に行けなかったら、どうなっていたのかなって。

Int： 今から思うと、そのときにこういったことをして欲しかったっていうようなことって、何か浮かびますか。

E： もしそういう場合とか、病院まで行けなければしょうがないですよ。病院にいたときに、避難所で出産してきたっていう方を何人も見てきたんですけど、もしかしたら、自分もそういう状況になっていたのかもしれないなと思って。そのときに、結局、出産はできるかもしれないんですけど、抗生剤だったりとか、その用意っていうのはないわけですよ。せっかく産んだのに、もし感染するようなことになり得たのかなと思うと、ほんとにそういう状況になった場合、どうしたらいいのかなっていうのを、あとから思いました。病院に行けない状態であれば、しょうがないし、連絡もつかないし、自分の足で歩くにもやっぱり限界もあるし、周りに人がいて、どれだけの人が協力というか、来てくれるかどうかはわからないですけど、身内であればなんとかしてくれるのかもしれないですけど、そ

ういうときってほんとに、どうしたらいいのかなってあとになって、すごく怖くなりました。

Int： 想定外っていうところがあるとは思んですけど。

E： 自分でどうにかできることではないですよ。

Int： 限界がね。

E： お薬とかでもなかったんで、出産のときに点滴すれば大丈夫っていう。ただ、その経緯っていうのもよくわからなくて、検査があったときにこういう病気が見つかって、万が一、子どもが死ぬかもしれないみたいな、そういう可能性もありますとかって言われて、大丈夫なのかなって、なんだかすごく怖くなって…。でも、点滴すれば大丈夫って感じだったので、それに頼るといっか、そうすれば大丈夫なのかなと思ってたんですけど。

Int： そうですよ、震災が起きて。

E： それでなくても、初めての出産で高齢っていうこともあって、いろいろ心配で。実際、頼る人もいないし、どうなっていくのかなっていう不安の中で、震災に遭ってしまって、ますますどうしようかなと思って…。なかなか慣れない主人の実家での生活も、結局、3カ月お世話になりましたけど。

Int： 今回はお話を伺うと、ご家族の方とかご近所の方に、すごくこう…。

E： 助けられましたね。

Int： ほんとですよ。

E： 普段そういうやりとりがなくても、そういうときは助けてもらえて。そういう身体だったっていうのも多分あると思うんですけど。

Int： 今、これ（アンケート）を拝見すると、相談に乗ってくれる人が夫、そして助産師さんですね。あと兄弟姉妹となっていますね。

E： I市のスーパーに毎週水曜日に、助産師さんがいつも来てくれて、それで何かあれば、最近行ってます。

Int： それはいいですね。

E： ただ私、結局、母乳が全然出なくて、あとから、もっとあげたかったなと思ったんですけど、それどころじゃなかったんで、出なきゃ出ないものなのかなっていう。

Int： 出産後の準備とかは、どうでしたか？

E： 生まれてみないと母乳が出るか出ないかってわからないので、ミルクもサンプルの小さい缶がひとつだけはあったんですけど、あとは生まれたらでいいよっていう感じだったので、前もって全然用意してなくて、おむつも1パックしか買ってなくて、どうしようどうしようって。いつ産まれるかもわからないところで、もう買える状態でもなくて、遠くにいる友だちに、ちょっとお願いしてみたんですけど、向こうで買うことはできても物資優先なんで、一般の人は送れないって言われて、こっちに来るときに向こうで少し買って手持ちで持って来てもらったりとか、あとお店がやっと開いてから、兄妹が買いに行ってくれたりとかって感じで、あとは徐々に物資だったりとか、そういうのでなんとか私は間に合ったんですけど。ちょうど震災直後にN病院にいたときに、「売店でミルクはないですか」って、やっぱり言ってる人がいて、「子どもに3日ミルクあげてないんです」って泣いてるお母さんを見たときに、これからどうなっていくんだろうと思って。

Int： 不安ですね。生まれる前ですよ。

E： 生まれる前です。この状態がいつまで続くのかもわからないし、私は私で外に出るなって言われていたので、外の状況も全然わからなくて。いろいろ家のことも心配だったりしてたんですけど、そんな身体で何かあったら困るから、出るなって言われて。

Int： お聞きすると、すごいストレスを抱えながら、よく頑張って出産なさいましたね。

E： 予定日 1 日遅れで生まれてくれて。震災までは、「早く出て来い、早く出て来い」って、ずっと言っていたのを、「まだいい、まだいい」ってずっと言っていました。1 月の末から 2 月の中旬ぐらいまで、切迫早産で入院していたんです。

Int： この同じ N 病院にですね。では、スタッフとは、顔見知りではあったんですね。

E： そういう面でも安心だったので、あとからまた来ますとか言って、退院した後だったんですけど、結局、入院した時には、N 病院の看護師さんとも先生ともほとんど会わず、みんな外から来た先生達だったり、看護師さんや助産師さんだったりしたんです。

Int： 震災後数日は、この N 病院の方しかいなかったかもしれませんが、10 日後くらいだといっぱい色々な方が入ってきてますよね。

E： 名古屋から来た看護師さんだったりとか、秋田から来ましたとかって言われて。だから、それまで出産にあたって、「こういうのがあります、椅子がありますよ、CD 持ってきてください」とか、色々なそういう出産当日の準備というか、こういうものがあるので…と言われていたものが、全く使うことができなくて。

Int： やっぱり思い描いていた出産とは全く変わっちゃいましたよね。入院はどのぐらいされたんですか。

E： 3 日です。

E： 朝 3 時に破水して、夜 9 時頃生まれたんですけど、とにかく出産も立て込んでいて、N 病院の患者さんじゃない人も、ずいぶんいっぱい来ていたので。そういうときもあるとは言われたんですけど、最初のほうは順調だったのが、午後から陣痛が弱くなってしまって、疲れてるからって、暗くされて、独りで休んでくださいって言われて。

Int： 心細いですね。

E： それで、何かあったらナースコール押してくださいって言われたんですけど、押してもなかなか来てくれなかったりとか、そういうのもあって…。たまに独りでいきんでみてくださいとかって言われて、どうしたらいいんだろうと思って。

Int： それは、なかなか難しいですよ。今だから笑っていられますけど、当時はもう不安ですよ。初めてでいらっしゃるし。

E： 主人もそろそろ出産の準備するとかっていうので、午後、早々に出されてしまって、ずっとひとりだったので、暗いし、どうしていいのかわからなくて…。ずっとそんな状態が続いて、夕方ぐらいから促進剤使っても駄目で、20 時までに駄目だったらお手伝いをしますとかっていう話が始まりまして、「お手伝いってどういうことですか、帝王切開とかそういうことですか」って聞いたら、「違いますよ、鉗子を使って引っ張りますから」って言われて。別の病棟にいた先生に、なんでこんなになるまで、お母さんの体力がなくなるまでほっといてみたいなことをしゃべったりして、どうなるんだろうって。でも、もうどうでもいいから早く出して欲しいなとか思って。

Int： そうですよ。

E： 結局、21 時に引っ張ってもらって生まれて。

Int： 出産は、1 日かかりだったんですね。

E： だから、次の日も結構疲れちゃって…。鉗子を使うといっぱい傷ができるので、いっぱい縫わなくちゃいけないとかって言われて、我慢強いんですねって言われながら、夜も 30 分ぐらいかかって縫って。でも、我慢強いも何も、もう疲れきってしまって…。次の朝も、縫い残しがあったからって、ま

た縫われて。

Int： それは大変でしたね。

E： やっと顔なじみの看護師さんに会えたら、ごめんなさいね、何も教えてあげられなくて。色んな写真とかプリントとか、それだけ渡されて、ほんとだったら、いろいろ教えてあげたいところなんだけどって言われて。

Int： そうすると、震災前に出産に対して思い描いていたいろんなことが、ちょっと違って…。

E： 全然違いますね。ただでさえわからない、出産がどんなものなのかなと思っていたんですけど、全部バタバタって過ぎてしまって、何も覚えてないですね。どうだったのか、ああだったのかっていうことを覚えてなくて、こんなはずじゃなかったのかなっていうのは、すごく残っているんです。すごく楽しみにしていたので…。出産のときに、お祝い膳が出るって言われて、それだけを楽しみにしてたら、もちろんそういうのもなくて、ゆで卵とか缶詰とかそういうのばかり食べていたので。

Int： でも、初めてお子さんと対面したときは。

E： 可愛かったですね。

Int： プリント類を渡されただけっていうことでしたけど、入院中、母乳とかは、泣いたら自分でくわえさせてねっていう感じですか。

E： 結局、そんなに心配することもなかったのかもしれないんですけど、産んだ次の夜っていうのが、4人部屋で、子どもがいたのは私だけだったんです。みんな出産前の方ばかりで、夜泣いたら周りが起きるんじゃないかと思って、ほぼ授乳室にずっといたような…。何時間以上空けないでくださいとか言われて。でも、どんなに搾っても、これっぽっちも出なくて。

Int： 最初は、出ないのが普通なんですよ。

E： 切迫早産で余計にマッサージとかもするなっていう感じだったし、今、こんな状態だからかなって思ってたんですけど、周りを見ると出ているお母さんもいっぱいいて、私はなんで出ないんだろうなと思って。ただ、お腹すいたって泣くから、ミルクもらって、飲ませて。3日間いたんですけど、ほとんど出なかったの。

Int： その間の母乳の指導とかそういったのは。

E： 全然なかったですね。

Int： そのあたりが、もうちょっとしっかりとあったら、出たかもしれないっていうのもあるかもしれないですね。授乳室にずっといらして、頑張ってたのにね。

E： 初めてだし、だんだん出るようになるよ、とは言われていたんですけどね。主人の実家のほうに行っても、「くわえさせないと出ないだよ、飲ませろ、飲ませろ」とは言われるんだけど、向こうの状況も、ゆっくりおっぱいをあげるっていう感じでもなくて。時間がくると、「ほら、ミルク、ミルク」って言われて、ミルクを飲ませられちゃうんです。みんなやりたいのはわかるんですけど、吸わせないと出ないんだからとかって言うわりには、「はい、泣いたからミルク、ミルク」って言われてしまって、なんとなく自分のやり方があっているのか、どうかすら、わからなかったの、言われるがままにやってきてしまっていたんです。でも、あとから聞くと母乳指導の助産師さんがいたりとか、そういうのがあって、ちゃんと指導を受ければ出るようになったのかなとか、よくテレビでも出ないおっぱいはないんだって聞いて、失敗だったのかなとか…。ただ、あの状況でそういう指導をしっかりと受けることもできなかったの、仕方ないのかなとは思ったんですけど。

Int： その辺りのことで、相談する場所はなかったですか？

E： なかったです。さらに、足もなかったの、出られなかったんですね。私も主人も車が駄目にな

ってしまったので、実家にあった車をうちで借りて、主人が仕事に行ったりっていう感じだったので。生まれてすぐっていうのもあって、出られないというのもあったし。

Int： ご主人のご実家に行かれたということでしたけど、本来であれば、新生児の訪問があるんですが、そのご実家にいる間に、訪問とかそういうのはどうだったんですか。

E： I市のほうに連絡をしたら、実家がW町っていうところなんですけど、そちらの方が来てくれたんです。5月になってからだったんですけど。

Int： 1カ月健診は、I市まで来られたんですもんね。

E： はい。こちらで受けてます。

Int： 混乱の状況で出産されて、3日という短い入院期間の中で得たものだけで、急遽、ご主人のご実家に行って、そういった中で、どなたもまわりにいらっしゃらなければ、大変だったでしょうね。

E： そうなんです。向こうも向こうで、水に濡れてなかったのも、他の親戚がお風呂もらいに来たりとか、常にガヤガヤしていて。2階の主人の元使っていた部屋に入っていたんですが、朝になると連れて行かれてしまうので、自分も下りないわけにもいかないし、おっぱいのあげる時間にゆっくり引っ込んで、みたいな形もなくて。ある程度落ち着くと、お母さんが仕事に行ってしまうと、おじいちゃんと私たちだけになって、その状況でおっぱいをとてもあげづらくて。その度に、なんとなく2階に上がるというのも、すごく難しく、すごくあげづらかったんです。そういうことを言っている場合ではなかったのかもしれないんですけど、「下にいる、下にいる」ってずっと言われていて。それでも、吸って欲しくて一生懸命やるんですけど、子どもにもいらないってやられちゃうんです、ミルク早く飲みたいって。本人も拒否するようになってきたので、1カ月ぐらいで断念してしまいました。ミルクでも育つからいいんですけど…。

Int： 頑張りましたね。でも、逆に、ミルク調達の必要が多分あったと思うんですけど。

E： I市の他の店とかもやっていたので、そのあたりには。1カ月早く生まれた友だちがいるんですけど、そっちがいろいろテレビに出る機会というか、生まれてまだ1カ月にならないぐらいのときに、ミルクがないっていう、ミルク SOS を出したんです。それがテレビで取り上げられたみたいで、結構、集まったって。なので、それを分けてもらったりとかして、1カ月過ぎたあとはミルクには困らなかったんです。

Int： ミルクとかあるところにはあったみたいですよ。

E： 避難所とか、そういうところには。でも、私たちみたいに引っ込んでしまうと、情報もないし。

Int： なので、どうなされたのかなっていう。

E： そういうツテとか、生まれたというのがわかって、いただいたおむつだったり、主人の会社からの物資としていただいたのもあったので、それでなんとか。

Int： 育児に必要な物とか、そういった物で、困った物というのは。

E： 困った物というか、初めてで何がほんとに必要なかわからなくて、U市にいとこがいるんですけど、その人がこっちに帰ってくるときに、叔母が連絡をしてくれて、出産前で何もなかったからとあえげずなんか持って来てくれっていうことを言ってくれて、細かい物をほんとに用意してくれたんです。こういうものも必要だったんだっていう物がいっぱい入っていて、ミルトンだったり、肌着だったり、沐浴剤だったり、とにかくそういう細かい物を用意してもらったので、あれはすごく助かったんですよ。

Int： お知り合いやご親戚の方たちの支援がすごいですね。

E： 私のいとこも、4月の頭に出産を控えていて、私が産後に身を寄せようと思っていた叔母の娘な

んですけど、ほんとは2人でお世話になれた頃だったんですね。そっちも、まもなく生まれるということで、2人分用意してくれたんです。でも、そっちは私よりもひどくて、〇町だったんですけど、家も流されて、結局、旦那さんの仕事もできなくなって、2カ月の子どもを連れて、今、姫路の工場のあるところに転勤しているんです。そういうことを考えると、私はここにいられるだけで、まだいいほうだなと思うんですけど。

Int：　そうですか。お住まいになっていた床上浸水したところに、今も？

E：　また戻ったんですけど…。不動産屋さんにも言っても、そこも被災して、なかなかこれからどうするのかって、すぐには決まらなくて。最初のうちは、リフォームしてくれるような話だったんです。とりあえず3カ月は、別のところに仮住まいしていたので、そんなに急いでもなかったんですが、ただそのままにはしないのでって言われていたんですけど、最終的にリフォームもしてくれなくて、濡れた畳替えと水を含んで閉まらなくなったドアの修理だけして、結局、「うちも大変なんで、あとは自分で掃除してください」みたいな感じだったんですね。下に置いてたものもだし、全部下に落ちちゃったし、あと、ほとんどの電化製品は駄目になって。

Int：　すごい出費ですね。

E：　ただ、私たちはいいんですけど、生まれてすぐの子どもをそこに連れて行っていいのかと思って、うちの主人がひとりで全部掃除をしてくれて、実家にずっといるのも、私も限界だったので、7月に戻ってきたんです。もともと実家に行く予定じゃなかったの、自分たちの準備も何もなくて、とにかく最初は必死だったけど、だんだん時間が過ぎてくると、だんだん苦しくなってきました…。

Int：　最初は、無我夢中ですからね。でも、少し落ち着いてきたら、やっぱり色々思いますよね。

E：　やっぱりミルクのあげ方とかも、自分の思う通りにいかなくなってきてしまって、時間はないし。

Int：　ご主人の仕事場は、被災されたとおっしゃってましたけど、その後、ご主人のお仕事は？

E：　会社は全部流れてしまって、そこで働けなくなったので、とりあえずS市のほうに、転勤という形で通っていたんですけど、去年の9月から再開するということで、I市に戻してもらって。

Int：　ご主人の仕事場が変わって、生活していく上で結構、大変でしたか。特に生活面では、変わらなかったですか？

E：　やっぱり朝が早くなりましたね。震災で仕事をする場がなくなって待機という形で、4月の後半ぐらいまでは、ずっと家にいてくれたんで、その間は良かったんですけど、そのあと仕事が再開するということでS市通いになったので、もう朝5時までには出ていかなくちゃいけないという。それで、実家から自宅に戻ってくるってなったときに、その生活を崩さないでくれてと言われて。でも、私も3カ月間、食事の用意とかも何もしてなくて、できるのかなということだったんですけど、とにかく子どもが寝てる間にとって…。車もないし、買い物とかも出れなくて、ネットスーパーとか再開したら、利用はしていたんですけど、限界ありますよね、そういうのも。最初のうちは、慣れるまでほんとにひどかったですね。本来、みんなやってることだと思うんですけど。

Int：　そうすると、家事育児はもうお母さんが一手に引き受けて。

E：　そうですね。やらざるを得ないというか、それが普通だと思うんですけど。

Int：　でも、やっぱりストレスたまりますよね。お話の最初で言っていたように、可愛いんだけどずっと面と向かっているっていう。

E：　寝ているだけのうちは良かったんですけど、最近うるさくて。今は、会話まではいかないですけど、やりとりができるようになって、それはそれでおもしろいんですけど、それ以上にうるさくて。とても活発で、とても元気で、成長してくれて、ありがたいことなんですけどね。歩くのも、すごく

早くて9カ月ぐらいから歩かれてしまって。最近、もう走り回って、追っかけるのが大変で、私がくたくたになって。

Int：ほんと家事育児はもうエンドレスで、いつも終わりが無いのでね。お母さんのストレス発散は…？今、預けるところがないっておっしゃってましたけど。

E：今1番それが、これからどうなるのかなと思ってます。みんな、やってるんでしょうけどね。

Int：やっぱり保育園の一時預かりは、難しそうなんですかね。

E：いよいよ利用できる年齢まで来て、1歳半からできるなと思っていたんですけど、急だと困るので、ちょっと挑戦してみようかなと思って。でも、その一時預かりもいっぱいみたいで、この間友だちのお母さんに聞いたら、申し込んでもずっといっぱいだって言われて。それで、保育所に聞いてみたら、「キャンセルが出たときに、たまたまそこで申込みがあれば大丈夫。だから、こまめに電話ください」って言われたんです。用事があって申し込むのではなくて、空いている日に1日申し込んでみて、まず体験してと思っているんですけど。

Int：保育所とかでない一時預かりしてくれる団体さんとかもあるみたいですけどね。

E：他にも探してみればいいんですかね。

E：ちょっとこの間会ったお母さんに、「保育士さん次第なのかもしれないよ。そのスーパーの託児は駄目だけど、他で大丈夫だったっていうのもあって、預かるほうの人も結構重要みたいだよ」って言われて。なので、どこに預けても相性が合わなければ駄目だと思うんですけど。そういうのも、あとは慣れですからね。

Int：震災があって余計狭き門になったということもあるんでしょうね。

E：だと思います。

Int：今、その辺の支援がやっぱり必要なんですかね。

E：はい。もっともっと必要ですかね。ただでさえ、待機が多くなって聞いているので。なかなか難しいのかなと思うんですけど。

Int：今は、預かってもらえるという支援が必要ですかね。これぐらいのお子さんだと、子育てだったり、そういった相談というのは、支援センターとかでちょこちょこ聞いたりできますか。

E：小さいうちは、支援センターの先生にいろいろと聞いたりしてたんですけど、もうバタバタしちゃって、あんまりそういう時間もとれなくなってしまったんですよ。本当は、助産師のH先生のところにも行きたいんですけど、午後からなので、昼寝の時間になってしまうし。あとは、とにかく走り回って逃げられてしまうので、カートにも乗ってくれないんですよ。なので、どうしようもなくして…。今、カートに乗せようとすると泣かれるし、やっとな乗せても抱っこして泣かれて、今度、抱っこすると重たいのでずっと抱っこしているわけにもいなくて、買い物に行っても、すぐに帰ってくるような状態なので、疲れるからわざわざ行きたくなくなってくるっていうか。

Int：その辺の相談しきれないストレスとかの部分は大丈夫ですか。

E：ネットとかそういうので見たりとか。

Int：こういうのがあったらいいのに、というのは何かありますか。

E：みんな、うちもそうだよ、そうだよって言うんですけど、やっぱりお母さんと一緒に行ったりとか、おばあちゃんについてもらったとか、そういうのを聞くので、ほんとに独りで子育てしている人ってどうしてるのかなって、最近よく思います。

Int：皆さん、ほんとに悩みながらね。今、自分がやることが正しいのかもわからないしね。

E: あとになって、あー違ったなとか、こうしておけば良かったのかなって思うことの連続で…。ほんとに教えて欲しいときに、教えてもらえる環境じゃなかったの、友だちとかが、近くにいればいろいろ聞いたんですけど、それもなかなかできなくて。寝ている間とかに電話で色々聞こうと思うんですけど、そういうときに限って呼ばれたりして、実家にいてもそんな感じだったので。

Int: サークルの方のママさんとはどういうお付き合いというか、そのサークル内、以外でお友だちになったりしてますか。

E: はい。家のほうに遊びに行ったこともありますし、あとはこっちに行こうとか、あっちに行こうとか、こういうのがあるよとか、いろいろ教えてもらったりするんですけど、あんまりそんなには。

Int: まだ始まったばかりって感じで、なかなか親密になるという方は、まだいらっしやらないですかね。

E: まだないですね。ただ、去年の10月に出産した同級生がいて、そっちとは仲良く、行ったり来たりしてます。私が先に産んだもので、いろいろと教えてあげられることは教えてあげたりして。週に1回とかうちに遊びに来ているんですけど、そっちは女の子で、それを別なお母さんに話したら、「これから大きくなってくると遊びが違うから同姓のお友だちがいたほうがいいよ」とかって言われて。それはそれでいいんですけど、男の子のお母さんと、改めて仲良くしなくちゃいけないのかなって、仲良くしている同級生の子たちがみんな女の子なんです。それを聞いたら、仲良くしなくちゃいけないというか、男の子のお友だちを作ってあげなきゃいけないのかなって。今、それでどうしたらいいのかなって。そういうものなんですかね。ほんとに気を許して話せるのが、みんな女の子のお母さんたちだったので、今まで、あんまりそういうのを考えないで来たんですけど。

Int: でもそれは棲み分けじゃないですけど、いろいろ相談したりできるのは、女の子を持つお母さんだとしても、遊ばせるときは別に男女関係なく子どもも遊んだりできるだろうから。

E: よくママ友さん難しいって、まさに直面なのかなと思って。そのときだけで、とりあえずそんなに深入りしなくてもいいのかなと思ったりするんですけど、そういうのを聞くと、なんかやっぱりどうしようみたいな。そういうのも最近ちょっと生まれてて、あんまり深く考えることでもないのかなと思ってるんですけど。

Int: お子さんのことを考えるがあまりにね、そういうふうには。こういうしなきゃならないかな、という義務感でね。ほんとにお母さん一生懸命なんです。でも、お母さんがストレスというか、色々と考えながら遊ばせるよりは、女の子と一緒に遊ばせても、その場でお母さんが笑っているほうが、お子さんにとっても多分いいと思うんですよ。女の子、男の子あんまり考えずに、お母さんが楽しくいらればいいんじゃないかと。発達してきてある年齢になると、お子さんがお友だちを選ぶようになってくるし。

E: 今はまだ私が連れて歩いたりとかっていう状態だから。

Int: 将来的に保育園とかに入りたいとおっしゃってましたし、もし入れば男の子もいっぱいいますから、自然とお友だちもできてくると思うので、そこからでも遅くはないかな。

E: 今からまだ考えることはないですかね。久しぶりに同級生の人に会って、そっちも女の子なんですけど、遊びが変わってくるからって言われて。ああ、そういうものなのかなと思って、急にそういう現実が。(笑)でも、まあ保育所なり、幼稚園なりに入れば、またね。

Int: 子どもだけの世界になりますしね。

E: 親がこっちで遊ぶためとかっていうわけには、いかないですからね。

Int: 止めても、自分のほうから行くようになってきますからね。

E： 今から考えることでもないような。

Int： そうですよ。お母さんが楽しく育児なさって、他のお母さん方とコミュニケーション取ってれば、もうそれで十分だと思います。拝見するとお子さんがすごくのびのびと育てらっしゃるようだから、いい育児なさってるんだなって感じてました。経済面とかでは、どうですか？現在の生活で思うことはありますか？

E： 2人で生活することを考えて今のアパートに決めて、ゆくゆくは引っ越しとかも考えて、2人で働いているときに借りたアパートだったので、安くなくて。しかも、2部屋しかなくて、子どもが1人増えてやっぱり狭いなと感じるんですけど、ただ今、引っ越しをしたくてもほんとに物件がなくて。もっと安くて広いところがあるはずだと思うんですけど。今後、このまま生活していくには、ちょっと苦しいかなってというのがあって、今それが、一番の私の悩みというか。2人で働いていればいいんですけどね。今、暮らしていけないほどではなくて、まだなんとかなっているからいいんですけど、ずっとこのままでは苦しいかなって感じはありますね。

Int： そうですか。

E： どれぐらいで落ち着くものなのか…。まだ、仮設住宅のあるうちは、1年2年とかっていうことではないと思うので、アパート暮らしをして、家を建てたいなという話もしていたんですが、今度は土地がなかったりとか。当分、現実にはならないかなと思うんですが、できるなら年齢も年齢なので、早いうちにとりかかりたいなと、なんにしても早いほうがいいなと思ってはいるんですけど。

Int： 次のお子さんの予定などは。

E： 体力的に厳しいなとずっと思っているんですが、周りで生まれたっていうのを見ると、やっぱりいいなって思うんです。でも、現実にはこういうのが2人いたらどんなに大変かな、経済的にも苦しいかなっていう。ただ、主人のお母さんは早く早くっていう。

Int： プレッシャーになっちゃいますね。

E： 向こうにいるときから、「年なんだから、もう早く2人目を」とか言われて。それはそうなんですけどって感じなんです…。でも、実際問題として夫婦で話をして、いいなっていうところ止まりですかね、今のところは。

Int： じゃあ、お仕事するほうが方向性としては？

E： もし預けるにしても、なかなか小さいうちだと、保育所に預けても、すぐに呼び出しがかかったりして、そうなったときに、誰も預けられる人がいないってというのが、一番ネックになるんですよ。

Int： もともと身を寄せるつもりだった、叔母さまは今どちらにいますか。

E： 叔母は、私のアパートの近くというか、市内のマンションに仮住まい中です。ただ、そちらも小学生の男の子が2人いまして、預けるというのは一度もしたことないですし、遊びに行くことはあっても、預かってとお願いするのは、言いづらいし…。

Int： 迷うところですね。いろいろお母さんも周りに気をつかいながら。

E： ほんとの気持ちというか、そういうのを話せる人がなかなかなくて、そのところが辛いなっていうのがありますけど。

Int： お話できる方が、助産師さんとご友人と。

E： 育児の相談とかは、できますけど。

Int： 第三者のほうが、本音が言えますか？それとも、親族やご友人とかのほうが。

E： 今の状態だと、お父さん、お母さんには話話できないですね。なんとなく最初から引け目というか、なんていうか…。うちは、両親もいないし、私のほうが年上だったりとか、いろいろな引け目な

ところがあって、なかなか難しいですね。自分の母親がいないというのは、ちょっと辛いかなというのがあって。

Int： 出産して改めてね。

E： それまではなんとかやってきたんですけど。

Int： でも、Eさん、頑張ってるじゃないですか。

E： 親がいない人は世の中いっぱいいますけど。ちょっと買い物行ってくるからって預けられないし、ずっと離れられないっていうのは、今ちょっとつらいですね。動かないうちはよかったんですが、連れて歩くようになると。

Int： なかなか思い通りにいかないですもんね。もし、今みたいなこういう機会がたまにあれば、そういうほうが逆に思いを吐けて、ちょっといいなとか、そういうのはありますか。育児サークルに入ってしまうと、なかなかやっぱり言えないとか、ありますか。

E： いろんな人がいるので、みんなの中にいると聞かれないこともあるし、お母さん同士で話をするのと、相談とでは、また違うので。だからこういう機会があると、たまにはいいのかな。

Int： H先生のところにも行きたいとおっしゃってましたよね、そういう存在ですね、きっと。お子さん、よく眠ってますね。

E： 寝てる時だけは可愛いですよ(笑)

Int： 育児で嫌になっちゃったりはしませんか。

E： どうなのかな。だんだん疲れてきたり、いたずらばかりされるので、キーン！ってなったりして、虐待とかはしませんけど、テレビとかであるじゃないですか。なんか気持ちわからなくはないんですよ。

Int： みなさん、そうだと思いますよ。そう思ってるお母さんたちはたくさんいると思います。自分もやりかねないって思ってますからね。

E： 可愛いばかりじゃないなって。普通に私の状態が良いときであればいいんですけど、ちょっと具合が悪かったりとか、そういうときも容赦ないですからね。そういうときに限って元気だったりとかして。

Int： お母さん自身の健康状態は。時々疲れちゃったり、具合悪くなったり。

E： すごく疲れますね(笑)。最近特に、この子を遊ばせなくちゃいけないと思って、一生懸命外に行くようにしてて。本来、家にいて、なんかずっとボーッとしていたりって、時間も欲しいんですけど、なかなか今それもできなくて。好きなテレビを見るとか、レンタルをしてくるとか、そういうのも全然できないので。気持ちがあってもDVD借りて来たところで見ないし、だんだんそういう気すら起きなくなってきて、逆に早く午後から昼寝してくれないかなって、毎日それを考えてますね。

Int： ちょっと手伝いというか、いつか見ていてくれるような存在が必要ですね。

E： 出産する前に母子手帳もらうときに、市の相談というか講習会があって、家で見てくれる手伝いというか、そういう人もいますよって、そういう言葉されたなと思ったんですが、なかなかそういうのに頼るといって、それもなかなか非常に難しいかなと思って。

Int： 頑張ってるからね。抱っこしたりするとね、肩がガチガチになるんですよ。

E： すごい肩こりなんです。最近、ずっと抱っこ抱っこって、昼寝が終わると抱っこ魔になるんです。ちょうど夕食の準備をしなくちゃいけない時間になるんですけど、泣いて抱っこ抱っこって言われるもので。

Int： ゆっくりお風呂につかることも、ままならないしね。

E： 最近お風呂もつかってない。お父さんがいるときは、お風呂も入れてくれるんですけど。そのあと、寝かしつけもしないまま、自分も寝てしまったり。

Int： そうですよ。

E： それで、夜中にお風呂に入ったりとか、最近はおきらめて朝にシャワーを浴びたりすることもあるんですけど。だから、全然疲れが取れないというか、服着たままで、ちゃんと寝る準備して寝ていないので、朝起きると体中が痛かったり…。

Int： 夜中だって、お母さんは子どもに気を使いながら寝ているわけですからね。

E： 最近寒くなってきたので、布団をかけると、嫌がって泣いて起きるんですよ、足にからまったりすると。なので、夜までこれからどうしていけばいいのかなと思って。カバーオールみたいな足つきのやつで、ちょっと大きめのやつを探して、着せたほうがいいのかなとか。

Int： 今は調整が難しい時期ですね。子どもは、ちょっと薄くていいですよ、大人よりもね。いつも抱っこみたいですが、おんぶとかはされませんか。

E： おんぶを嫌がるんですよ。離せーって、手をグーッとされて。この間、あんまりにも泣くので、久しぶりにおんぶしたら、もう落ちそうなくらいにのけぞって、やっぱり駄目だと思って、しょうがないから抱っこしたままとか…。でも、抱っこしたまま火を使うっていうのは、危ないですよ。

Int： 抱っこは前が見えないからね。夕飯の支度のときなんか、ぐずりませんか？

E： ちょうどその時間で抱っこするので、最近、もうどうしようもなくなって、一度は出前に。体の限界ですね。

Int： これから毎日出前を取り続けるわけじゃないから、たまにはいいんじゃないですか。そこはちょっとお父さんに頑張ってもらって。たまにはね、お母さんも褒美をもらわないと。お母さんが壊れちゃうと大変ですから。

E： やっぱり何が困って、私が病院に行かなくちゃいけなかったりとか、いろいろ健診に行かなくちゃいけなかったりとかっていうときですね。今、1、2カ月に1回とか、婦人科通いしていて、一緒に連れて行くんですけど、病院が嫌いで、自分の病院じゃなくても、ものすごい勢いで泣かれてしまうんですよ。だから、最初のうちは連れていけないと思って、お父さんが休みのときに預けて、昼の時間とかに行ったりしていたんですけど、それだとやっぱり限界があって、休みがあわなくて、最近連れていくようにしていたんです。

Int： 土曜日もご主人は。

E： 仕事です。ちょっと前までは、日曜日は休日だったんですけど、仕事の内容が、土曜、日曜、祝日関係ない仕事に戻ってしまったので。ちょうど今忙しくて、ほとんど休みがない状態で、みんな、いっぱいいっぱいになってきて、振り回されて。

Int： そのうち、もう、待つてなさいって言ったって、親なんかどける時期がきますよ。

E： 今だけだよって、過ごしてきた人には言われる。お母さん、お母さんって言うのは、一時なんだよって言われても、確かにそうなんだろうなと思うんですけど…。

Int： そのときは必死よね。

E： どうにもならないなって。過ぎてしまえば、ねんねの頃が良かったなって、よく言うんですけど。でもその頃はその頃で、早く大きくなんないかなと思ってはいたはずで。

Int： 誰もが思っていたはずですよ。

E： 結局、楽な時間っていうのはないんだろうなって。今度、魔の2歳が来るよって、3歳過ぎるま

では大変だよって、最近よく言われるようになって、これ以上ひどくなるのかと思って…。

Int： 足が速くなりますからね、今以上に。

E： 今、すでに追いつけなくなっていて、ほんとに走って回ってるんで。かと思えば、この間久しぶりにあったお友だちでは、やっと歩くようになったっていう子もいて、個人差が激しいんですね。

Int：ほんとにね、1歳前で歩く子もいれば、ゆっくりの子もいてね。あんまり動かない子もいればね、活発の子もいて。

E： もっとゆっくりでも良かったなと思って(笑)

Int： それはそれで、多分そのお母さんも心配だと思いますよ。周りの子はもう動いているのに、うちの子は…って、また別な思いもあって、なかなか難しいですよ。

E： 歩くまで早く歩かないかなって思っていたはずなんですけど。

Int： 歩いたら歩いたで早いしね。

E： すぐ走るし。

Int： なかなかうまくはいかないですよ。

E： そうなんですよ。これっぽっちも、親の思う通りにはならない。最近、1人でこんなに大変なのに、買い物とか行くと、ひとりで3人、4人子どもを連れて歩いているお母さんとか見ると、尊敬するなって、ほんとに。大きい声で怒っているお母さんとか、生むまではそこまで言わなくても…って思っていたんですけど、今になると、自分もそうなんだろうなと思って。みんなそうになっていくんだなと、これが現実なんだなと思って。

Int： 長くいろいろとお話を伺って、貴重なお話いただきましてありがとうございます。

E： 今日の対象というのは、どれぐらいまでに出産した方が対象になるんですか。

Int： 震災1カ月前ぐらいに産んだ方から、震災があったときに妊婦さんだった方ですね。なので、出産は、10月ぐらいまでの方になっているんですよ。

E： 私はN病院だったんですけど、N病院だけじゃなくてってことですね。

Int： はい。県内の被災地の近辺にある病院に依頼してという形ですね。この辺の育児サークルには、よく来られているんですか？

E： 月2回とかそれぐらい来てます。意外とサークルも近場なので、行きやすくて。

Int： お母さんたちがやってるやつですか、それとも市のやつですか。

E： ベビースマイルです。

Int： どうですか、いろんなイベントやられてますよね。

E： 昨日は、ママ対象のパンビ体操ってあって、それに行って来たんですけど、人の集まりがあまりよくないらしくて。子どもの回はいっぱい来るんですけど、お母さん対象っていうのはそれだけで、なかなか集まらなくてとかって、やめようかっていう話もしていたんですけど、来てくれるしねって言われて。いろんなサークルには顔を出しているんですが、ママ対象っていうのが、やっぱり少なくて。結局連れていくんですけど、自分メインというのがあると、私的には嬉しいんです。預けられなくなったので、結局、昨日もほとんど抱っこしてくれとか、何もできなかったんですけど。でも、自分の時間を作りに行くっていう気持ちだけでも、あるのと、ないのとでは、やっぱり違うかなって思うので、できればこのまま続けて欲しいなと思うんですけど。

Int： これから続けていっていたら、もしかしたら、お母さんべったりじゃない日もあるかもしれないし、勝手にふらふらと歩いて遊んでいたら、自分が楽しめますもんね。自分が行動できる日っていう。

E： 自分でできないほどの運動の内容ではないんですけど、家にいたらやらないので。

Int： そんなもんですよね。自分のために出て行くってことですよね。

Int： かなり激しい運動はするんですか。

E： 激しくはないです。あまり激しい運動だとついていられない感じですが。ちょっとストレッチみたいな感じで、それぐらいの程度のものであれば。出れば疲れるんですけど。

Int： でもね、そこで、得られるものもあるし。

E： 寝てる時はほんとに…。(笑)

Int： わざわざ来ていただいて、長い時間本当にありがとうございました。これだけ寝ていたら、お家で起きちゃいますね。

Fさん：30歳代後半 経産婦

分娩日：2011年7月中旬 分娩時週数：39週

Int：2回に渡るアンケートに、お答えいただきましてありがとうございます。今回、震災前後の妊娠とご出産ということで…。お嬢ちゃんがいらして、お兄ちゃんがいらっしゃるんですね。お二人目ということですね。

F：はい。そうですね

Int：震災にあわれてから4カ月後にご出産なさった。そうすると、震災の時、お腹の中に下のお子さんがいらっしまったのが、ちょうど妊娠6カ月ぐらいですかね。安定期に入ったとはいえ大変でらっしまったでしょ。お腹が大きくて、お兄ちゃんもいらっしまった状況で。

F：そうですね。避難所の生活が、衛生面なんかですごく不安になる状況でしたね。

Int：避難所にどのぐらいの期間いらっしまったんですか？

F：震災後3日目で出たんです。やはり衛生面でちょっと耐えられなくなって。それで、お家に帰るまでに、太腿くらいまで水につからないとお家に辿りつけない…というところに家があったんですが、濡れてもいいからとにかくここを出たいという気持ちになりまして、3日目で出たという状況です。

Int：そうだったんですね。被災されたお家は床下浸水。

F：そうなんです。家は、ちょっと高くなっているんで、ギリギリ床下だったんですけど、そこに行くまでの間に太腿くらいまで、浸からないと行けないという状態で。

Int：じゃあ、お腹が大きくて、腿まで水に浸かりながら、ご自宅に戻られたんですか？

F：主人がおんぶしてくれました。(笑) ちょっと冷たいということ。

Int：ご主人、お優しいですね。お二人目のご妊娠とはいえ、やっぱり産むまでに色々にご心配なこととかもありましたよね。震災もあって。

F：避難所に行ったときには、まだ状況がわからなくてあまり不安にもならなかったんですけど、だんだん時間がたっていくにつれて、ペットも家族という方々の気持ちもわからなくなっているのですが、ズタズタに濡れたゴールデンレトリバーとか、ああいった大型犬がすぐ近くにいっぱいいたんですね。それで、うちは産まれてないからまだいいですけど、ハイハイするような赤ちゃんとかもそこにいたわけですから。そういったところがどうにかならないのかなと、だんだんと不安な気持ちにやっぱりなっていました。

Int：そうだったんですか。じゃあ、自分の家族は、ここというふうに場所を決めていて、そこにペットもみんな一緒についてきて。

F：学校に行ったんですけど、その学校の避難所には、もう廊下に座っても座りきれないぐらいの方がいっぱいいたので。でも、学校だったら教室がたくさんあるので、例えば、乳幼児とか、妊婦とかっていう人たちを、静養っていったら、なんかそんな身分でもないのはわかるんですけど、ひとつ確保してくれれば、もうちょっと不安にならずに過ごせたと思うんですけど。

Int：確かにそうですね。

F：いつもよりも神経質になっている妊婦っていうときに、不衛生な感じが露骨に出ていると、一刻も

早くここを出ないと、という気持ちになりましたね。

Int：そういう状況だったんですね。それで3日目にご自宅にお戻りになって。

F：そうです。意を決して出ました。自宅に戻っても、水がもう床上だろうけど、帰ればバスタオルでもなんでもあるからということで帰りましたら、ギリギリ床下だったんです。

Int：なるほど。それからは、ずっとご自宅にご出産までいらっしゃったんですか。

F：ちょうどその避難所を出たときに、連絡は取れてなかったんですけど、その学校の門のところに主人の兄が迎えに来てくださっていたんですね。それで、兄は県内なんですけど、一番家から近い学校にいるんじゃないかっていうことで、来てくれたのとちょうど会いまして、連れて行ってもらったという感じで。

Int：そうだったんですね。避難所は3日間ということですが、その後の生活で、出産までの3カ月くらいの期間にこういった支援があればよかったのになということはありませんか？上のお子さんでも。

F：まだ産まれる頃ではなかったので、まず産まれてから必要な物を何も買っていない状況で。

Int：出産準備品ですね。

F：そうです。それらが、もちろん市内で買える状況でもないの、今産まれたらどうしようっていう不安な気持ちと、産まれてからどうしようというのと。

Int：そうですね。ご出産はどちらの病院でしたかね。S病院。これは石巻市内？

F：そうです。かかりつけだった病院で。

Int：もともとご出産予定のところで。

F：はい。最終的に出産はできたんですけど、その病院が大きく被災してまして、そこの先生がすごく手配が早く、震災後N病院に産むまでの手続きをしておいてくださって。それで、N病院のほうに通院していたんですけど、S病院のほうは6月から復活しまして、N病院のほうから、前医に戻りますか、それともこのままここにいますか、という話をされまして…。それで、私としては一人目もS病院で産みましたし、N病院も溢れてるということを知っていたので、S先生のところに戻って産みたいですっていうことを。

Int：信頼できる先生にね。そうですか。

F：S先生のほうで了解してくださったので、出産まで。

Int：思うようなご出産ができましたか。

F：早く復興して下さっていたので、一人目のときと同じように安心して産ませていただきました。

Int：良かったですね。

F：7月が出産予定日で、7月から分娩を受け入れるということだったので、受け入れていただきまして、ありがたかったです。

Int：いろいろ出産準備品とかそういった物も揃えてなくて、当然ですよ。お産まで余裕があるし。そして、お察しするに色々と不安な中で出産までをお過ごしになって。

F：一人目のときに使った物でとっておいたものは、全部水没してしまったんですね。床下浸水とはいえ、車も被災したんです。チャイルドシートでもベビーカーでもなんでも全部が水没してしまっただけで、揃えてないうえに、あったものまでが水没して使えなくなってしまったので。住宅が床下だと一部損壊ということで、市町村からの援助がほとんどない状態なんですけど、これから生まれる子た

ちとかに対して何かないのかなというのを、すごく思いましたね。

Int：なるほどね。全壊とか一部損壊とかいう家の状況によって、いろいろな補助が違ったり…。建物自体もそうですけれども、目に見えない、さっきおっしゃったような物が色々と使えなくなってるというのがありますもんね。

F：さらに、車もなくなっているんで、病院に行く手段だったりとか、必要なものがたくさんある中で、そういう支援というのが、どうしても半壊以上にしかないんで、住宅の損壊だけで全てを決めてしまうってところに、少し疑問を感じました。

Int：なるほど。このあたりもしっかりあげていきたいと思います。確かにベビーカーとかだっってすごく高いし、ベビー用品って、安いところで買っても、色々とまとめると高いんですよね。それでは、またひと通り買いなおされたんですか。

F：そうです。買い揃えました。住宅は、下に土台があるから少し高いですけど、物置は、地面にすぐあるものなので、50センチぐらい水没してしまっていて、そこに置いていたものは、全て駄目になりました。何もなくてちょっと悲しいですね。

Int：そうですね。それもお腹が大きい時期とか、出産して間もない時期からお母さんが買いに行ったりしたんですか？ご主人のご協力も、もちろんあったでしょうけど。

F：H地区のスーパーは、割と早く再開したので、どうにか買うこともできましたし、あとは県外の主人の実家の近くのお店で買うこともできました。でも、県外とはいえ、その時期の東北はどこでも、おむつは、ひとり1袋までとか制限がありましたので、なかなかきちんと揃えることが…。

Int：経済的な面でも、非常に打撃を受けていらして、やっぱり出産間もない時期と育児で体調がまだ完全に戻らない状態で、精神的にも、すごく大変だったかと思うんですが、そういうときに、いろいろ相談にのってくださる方ってご主人とお母さまと。

F：近くにいる家族が協力的というか、暖かくしてくれているので。

Int：ご身内の方のご支援というのも非常に大切ですけども、その行政とかに対して、先ほどおっしゃってくださったようなことも含めて、物質的な面もそうですけれども、その不安とか精神的な面でも、例えば、こういう支援があればいいのに…とか思ったことってありますか。

F：まず、私も仕事はしてしまっていて、仕事の時間帯が夕方なものですから、通常の保育園とかの利用ができないんですね。18時、19時台に仕事をしてしまっていて、延長保育もあるんですけど、18時までとか19時までとかって感じなので、預けるところがなかったんですね。上の子が行っていた託児所は、被災してなくなってしまったんです。それで、産休中は良かったんですけど、産休が終わってから、そういったことで保健師さんに相談をしたんですけど、保健師さん自体、子どもを預かる時間帯とか、どこにどういうものがあるっていうのを把握してらっしゃらなくて。

Int：知らない…。地域の保健師ですか。保健福祉センターとかの？

F：そうです。じゃあ、「誰に相談すればいいの？」という。当然、市の保育園とか利用できる時間帯じゃないっていうのはわかっているのですが、市の託児室っていう、生まれてから市から配られる冊子に、無認可保育園とか託児室が一覧で載ってはいるんです。ですけど、どこが何時までとか、どれぐらい受け入れてくれそうだったっていうのを全然把握していないので、聞いても「どこかあるといいですよ」っていうような言い方なんです。それで、相談する場所がないんだっていうことをすご

く思って、短期間でも、見つけるまでの間だけでも、多分、託児所とか保育園とか被災して行くところがなくなった人ってたくさんいると思うので、そういうサポートが欲しかったですね。あとは、ベビー用品も、たまたま買いそろえることはできたのでよかったですね。S 病院から退院するときに、俳優さんが哺乳瓶を物資で置いていってくださったんですね。それを、ひと箱ずつ退院するときにもらいまして、その支援はすごくありがたかったですね。

Int : そうですか。ミルクとかのお水は大丈夫だったんですか？

F : いざ、この子が産まれるっていうときには、自分の家は、もう水道が復旧してましたし、あとは買えるときに買ったという感じですね。

Int : 先ほど、お仕事をなさっているっていうことでしたけれども、産前産後の休暇で復職なされた？

F : 産前産後をお休みして、2 カ月後から復帰しました。

Int : そうでしたか。2 カ月後というと、9 月。

F : そうですね。

Int : じゃあ、ちょうど復帰なさってから 1 年ぐらい経つんですね。お仕事をしてお子さんも育てられて、家の状況もいろいろ変わって、使える物が使えなくなったりとか、いろいろ大変でらっしゃったんじゃないですか。

F : もうそのときは、やっぱりみんな生きてるんだし、生きるか死ぬかっていうところで、まずひとつ落ち着いた感じだったので。みんな無事だったっていうことだけでも…っていう気持ちではいたんですね。ただ、もっと日にちが経っていくと、やっぱり色々と、あとから思うことはたくさん出てきますね。落ち着くと。

Int : そうすると、職場に復帰なさって約 1 年、下のお子さんが生まれてから 1 年と 3 カ月ぐらい経ちますけれども、今もそのお仕事をなさっているということで、保育園は…。

F : たまたま、受け入れてくださる保育園があって、民間でやってるところなんですけど、お仕事の時間だけ一時預かりという形で見ますよっていうことを言っていただきまして。それも、自分の足で回って探す形だったので。

Int : やはりお母さんが個別に探して。ほんとに自分から問い合わせたりなんかしないと、見つけれない。おそらく、これは被災とは関係なくって、ですよ。

F : そうですね。公立保育園とかだと、市のほうで情報がありますけど、震災後は特に、被災した地域に保育園とかがたくさんあったらしくて、今の状況がわからないっていう感じで言われたりとか、あとは、震災前は何時までやっていたけど、今は何時までしかできないとかっていう…。

Int : 繰り上げる感じが多いんですかね。

F : 変わってしまったんですね。システムが。

Int : 被災の状況によってね。

F : 市役所とかもあのよう大きい建物なので、なんかそういうサポートをするお部屋とか教えてくれないものかと、保健師さんもたくさんいるはずなのになんていうのがすごく。

Int : 実はそういった要望が、今日の面接の中でもすごく多くて。やはり、その一時預かりなり、そういったちゃんとした育児の支援体制っていうのを、すごくたくさんの方がおっしゃってらっしゃいますから、共通した問題なのかなと思っています。F さんは、いいところを見つけれられて、預け先が決

まったから、よかったですけれどもね。

F：そうですね。

Int：じゃあ、そこに辿り着くまでは、すごく大変でしたよね。だって、産後2カ月で復職なさったっていうことは、その間に、全部いろいろなさったんでしょうし。

F：そうですね。

Int：お母さんの健康状態は大丈夫ですか。

F：私は、割と産後はあまりつらい状況にはならなくて、一人目も二人目も。体のほうは大丈夫です。

Int：なにか不安なこととか、いろいろ困ったときに、ご身内に相談なさるといことですが、今は十分その体制というか、状況で満足してらっしゃいますか。こういった保育園に預けると、そのの保母さんなんかとお話をしたりっていうこともできるかと思えますけれど。(アンケートの) 同じ年ぐらいの子どもを持つ母親と話す機会がないというのは、これはやっぱり預けてる同士で会うのって、お迎えのときぐらいですものね。

F：今は、上の子が幼稚園に行っているんで、幼稚園の父兄さんで下の子がいらっしゃるお母さん方とかもおりますし、仕事柄子どもたちと接する仕事をしてるので、そのご父兄さんとお話したりとか。

Int：(職業欄に) 講師って書いてありますけれども。

F：子ども向け音楽教室の。なので、ご父兄さんっていうのは、自分の身近にお客さんがいますので。

Int：そうすると今は、順調に子育てをなさっている状況ということですね。(アンケートでは)「元気なく疲れを感じたことはたびたびあった。」ということですが。

F：やっぱり産まれて数カ月は、まとまった時間で眠れないですからね。

Int：そうですね。おむつ変えたり、おっぱいあげたり。そういうことですね。

F：疲れたなと思うときはありますけど、震災のことではないですかね。

Int：では、上のお子さんのときもそうで、一般的にある疲れっていうような解釈でよろしいですか。

F：そうですね。自分でもそういうふうな解釈をしていたので。

Int：頭痛とか頭が重いとか、これも。

F：偏頭痛はもともとあって。

Int：もともと偏頭痛がある。そうですか。

F：環境のせいではないんだろうなとは思いますが、でもやっぱり車で出て歩いたりしていると、上の子が咳き込んだりとか、その日の夜に頭痛が起きたりすると、放射能とか空気に何か問題があるのかなとちょっと思ったりしました。

Int：放射線量を毎日神経質に提示されていましたが、お子さんを持つ親御さんにしてみたら、それはもちろん気になるところで当然だと思いますけど。

F：それを気にしたら、きりがいいのかと思うんですけど、やっぱりこの子たちが大人になったときに、一体どういう病気を発症するのかっていうデータがない中で、人体に影響がないっていうふうにテレビでおっしゃっているのは、ほんとに信じられるものなのかなって思うので。食材も申し訳ないなとは思いつつ、産地で選んだり、その辺はまだ神経質になるところかなと思います。

Int：そうですね。食材選びって書いてらっしゃいますね。また、避難所でもそういった衛生面で大変な思いをするとか。

F：皆さん、いつまであの状況で暮らせたのかなと思うんですけど。トイレとか流れないのはもちろんわかっているんですけど、でも普段よりも神経質になっているので。みんな知らない方がしたものを見ながら、自分も排泄しなくちゃいけないという状況とか。あとは、廊下には大型犬がたくさんいたので、ちょっとそこは避けたいかなと思って、途中から別な階にあがって教室の中のほうに入ったんですが、そうすると今度は、家族同様に暮らしている小型犬を連れていらっしゃる方がいてですね。哺乳瓶を持っているお母さんの隣に、その小型犬を連れてお家の方がいらっしゃって、子どもたちが給食を食べる机の上でその犬を暮らさせているという、その状況はもう…。またちょっと大きな地震とか来たときに、あの状況になるのかなっていうところで、ぞっとしますね、犬も洗えない状況なのに。

Int：動物が好きな方は、不衛生とか思わないみたいですね。感覚の違いというものです。そのあとも、余震がかなり何回かあったみたいですけど、そのときもご自宅に…。

F：何度かその、主人の県外の実家と行き来していて、寒かったんで電気が通らなくても冷蔵庫の中身はあんまり心配じゃなくて、あちらから買ってくれば、発泡スチロールとかに入れておけば、食材の確保はできた。

Int：3月だったから、ちょうど気候としてはそれほど心配いらなかったんですね。

F：行ったり来たりの生活をしていて、ガソリンもなかなか手に入らなかったんですが、ありがたかったのは、その主人の実家の県外に行ったときに、石巻から来ているっていうことを言いますと、もう何キロも車が並んでいるそのガソリンスタンドの先頭に入れてくれて、満タンに入れてくれたりっていうのが。

Int：涙出ますね、その聞いただけでも。

F：そうなんです。そういうことにすごく救われましたね。

Int：最近、こういった支援があればいいのになんていうことを伺っていますが、今となって思うことで、他にもしございましたら。

F：万が一の時、生まれた子のおむつとかミルクとかがあるのであれば、ちゃんとありますよっていうことを伝えて欲しいですね。

Int：そうですね。いずれかのちゃんとしたところから。

F：その情報もないので。おむつとかミルクとかありますから、そのときは来てくださってというような情報提供ですね。

Int：ここにありますが、ここに取りにければ大丈夫です、とかの情報ですね。産後の新生児訪問で助産師は伺っていますか？

F：保健婦さんがいらっしゃったんですね。そこで質問してもうなずいてくださるだけで、アドバイスがない。もしかすると、助産師さんとかのほうで、私たちがいろいろと納得できるお話を聞けるのかなとちょっと思いますね。

Int：通常は、助産師が行くことが多いですけどね。混乱していたんでしょうかね。被災地で役所もすぐごったがえして。Fさんに、それが当てはまるかどうかは別なんですけど、応援に来ていた他県の保健師さんとか助産師さんが行ったりというような状況が発生していたので。わかりました。情報発信ということですね。今は、お子さんもすくすくと育ってらっしゃいますね。

F：下の子は、おかげさまで丈夫に生まれてくれたので、ほとんど熱を出すこともなく。どちらかと言うとお兄ちゃんのほうが、生まれたときに心臓に穴が開いていて、経過観察で小児科に通ってましたので、お兄ちゃんのほうが心配でしたね。

Int：それも手助けが必要であれば、ちゃんと受けていらっしゃいますか？

F：震災のときに、かかりつけの小児科が大きく被災したんですね。でも、ちょうどエコーの診察予約が震災後に入っていたんです。当然、病院はやっていないだろうと思っていたんですが、それでも行って見たんです。そしたら、その先生方とスタッフの方々が道具の貸し出しをしまして、お会いすることができたんですね。病院自体はお休み中だったんですけど、エコーの機械は、2階にあって大丈夫だったからってということで、その時、先生がエコーでみてくださったんですね。そしたら、穴がふさがっていて、もう大丈夫だからってということで。病院の先生の温かい支援もありまして、震災中に経過観察も終了できたという感じでしたね。

Int：わかりました。今お兄ちゃん6歳。来年小学生。

F：上のほうが1歳になるかならないかぐらいのときに、閉鎖したようだというのではあったんですけど、心雑音が残っているということで、経過観察していたんです。音のほうも大丈夫ってというのが、その震災があった、あのときに先生がみてくださって。

Int：それこそ、下のお子さんを妊娠中から、ずっと上のお子さんのことも心配でしたね。

F：心配でしたね。

Int：でも結果がね、それは良かった。

F：今回、市町村の支援というのがあまり感じられなくて。それ以外の方々とか病院の先生方とかの、物ではない支援ですね、こちらのほうがより多く感じました。

Int：わかりました。ご主人とか、ご家族も育児とか家事を手伝ってくださるんですか。

F：そうですね。

Int：それはうらやましい。おんぶしてくださったぐらいだから(笑)。

F：最初、「おんぶするからいいよ」って言われたんですけど、私のほうが躊躇して、「おんぶはちょっと…」って言っていたんですね。でも、やっぱりあの水位を見ましたら…。

Int：3月で寒いし、冷えますしね。

F：水位を見てから、「じゃあ、ちょっとお願いします」という感じでした。

Int：こんなふうにご主人に対して満足だと言って、チェック入れてらっしゃる方ってあんまりいらっしやらないんですけどね、うらやましいです(笑)

F：子どものことには協力的なんです。

Int：そうですね。いいですね。今日は、お時間を作って来ていただいて、本当にありがとうございました。

Gさん：20歳代後半 経産婦

分娩日：2011年5月中旬 分娩時週数：39週

Int：よろしくお願ひします。色々とお産にまつわることとか、子育てのときなどのご苦勞っていうのをたくさんお話しただいて、それらをそのままストレートにまとめて、きちんと国なりに、こういう支援をして欲しいと、今後、同じような震災が起きたときに、妊婦さんをこのようにサポートしてもらいたいというような声をお届けする役目をしております。まずは、震災のときの状況から教えていただいていいですか？

G：震災当日なんですが、私は第二子を妊娠してまして、N病院でもともと出産予定だったので、ちょうどそちらで妊婦健診を終えて、持病のほうの科を受けようかなって、待合室で待っていたときに地震が来たんです。

Int：差し支えなければ、そのご病気というのは。

G：私は喘息を持ってまして。

Int：喘息ですね。そうですか。そのときの状況は、お話できますか。

G：大丈夫です。何年か前にも地震の経験はしているので、そのときは、「あ、地震が来た。」というのはわかったのですが、尋常じゃないぐらい揺れまして、N病院自体がグルングルン回るような感じで、耐震装置が働いたらしくて、遠心力でとにかくグルングルン回るような感じで揺れて揺れて。その揺れてる間に、すぐに携帯で情報をチェックしまして。主人がちょうど夜勤だったので、上の子を預けて、上の子とおばあちゃんと主人をお家置いて、私ひとりで出てきたもので、主人に確認したら、被害はないということだったんですけど、栗駒という場所が震度7というのが表示されまして、また地震が来たんだなという感じでした。診察の順番が、ほんと次だったので、診察受けれるのかなと思っただんですけど、その場で帰されまして。帰るといっても結局、余震が続いてましたので、私は妊婦の勘で1時間留まったほうがいだろうということで、車のラジオを聴きながら、1時間待ったんですね。その時は、健診が終わったらご飯も食べて、ガソリンも入れようと思ってたので、手元に水も食料もなく、ガソリンも4分の1しか入ってなくて、それでは大変だということで暖房は切って、あるもの全部着込んでラジオを聴いていたら、津波が女川のほうで6メートル来るというのを聞いて。ただ、6メートルと言われてもピンと来なくて、いつもそういうふうに警報がなっているんですけど、実際に来たことがないので、6メートルの津波というイメージができなくて。でも、もしかして大きいのが来るんじゃないかなって感じでは思っていました。1時間たったあとに、16時ぐらいに、当時、石巻の鹿妻に住んでいたので、じゃあその自宅に帰りましょうということで車を走らせたんですけど、ちょうど大橋を過ぎたあと、トンネルがあって、トンネルをくぐり抜けたときに、すごい大雪が降って来たんです。それで、周りがまったく見えなくなってしまったので、これ以上先には行けないと思って、引き返して、私は(H市)Y町に実家があるので、Y町に向かったっていう経緯です。

Int：なるほど。じゃあ、Y町のほうには戻れたんですね、夕方までに。

G：夕方というか、そうですね、混んでましたけど幸い事故が起きることもなく、なんとか流れをぬって、無事にY町の実家にたどりつきました。Y町の実家のほうは、海から3キロ離れているので被害はなかったんですけど、ほんとにギリギリすぐ目の前まで津波というか、水が来たっていうのはあります。

Int : G さん自身は、それを見てますか？

G : 私は見てないんですが、仙石線の線路があるんですけど、放送で線路超えて来ましてって。ほんともう一步のところまで水が来ていたみたいなので。

Int : ご実家のすぐ目の前まで水が来ていたと。

G : そうです。私自身は見てませんが、そういうふうに、どこへ行っても水浸しという話は見回りに行った両親から聞きました。

Int : そのとき、妊娠何カ月だったんですか？

G : 妊娠 8 カ月ですね。

Int : 妊娠 8 カ月。そうすると、車を運転というのは、その 8 カ月の体で自分で運転して？

G : そうです。

Int : なるほど。自宅に戻るその大橋の先っていうのは、津波の被害に遭われたところですね。

G : そうですね。そこに、津波が来ているかどうかは、全く知らなかったんですが、もしその橋を渡ってトンネルを抜けて、また橋を渡るんですけど、その開北橋というところにさしかかっていたら、津波を見たかもしれません。

Int : そういう状況ですね。

G : そうですね。その先を過ぎると、津波で浸水した場所にあたるので。

Int : その地震のあと、多分どこの病院もなかなか健診なんかをしてくれなかったと思うんですけども、お家での生活の状態と、それからそこで不安だったこと、何かやって欲しかったっていうのがあれば教えてください。

G : そうですね。3 日間ぐらいは、自宅と連絡が全く取れなくて、上の子と夫とおばあちゃんの様子が全くわからなかったんで、私が帰ってメールで伝えて、そこで途切れてたんですね。なので、主人のほうは帰ってくるのを待っていたらしく、お互い心配していたんですけども、3 日後に主人が、浸水した場所を胸のあたりまで水に浸かりながら、私を探しに来てくれたんですね。そのときの感動と、みんな無事だったっていうのが…。私は幸い、親族や親戚で亡くなった方がひとりもいなかったんで、そこでホッとしたことを覚えています。

Int : ご主人が、水に浸りながら探しに来られたっていうのは、Y 町にいてわかりましたか？

G : それはですね、Y 町に主人が着いて、実は周りはこういうふうになっているんだって。どこで津波が来たっていうのを知ったかという、実家の近くの中学校に一時避難したので、そのときに、津波が来てかなりの方が亡くなったっていう被害があったのは耳に入って来たので。

Int : その日のうちにですか？

G : そうです。地震があった当日にその話を、人づてというか、その周りでの話が耳に入って来たので、あ、津波が来たんだなっていうのはわかりました。

Int : そのとき、お家の状況や、ご主人とか、お子さんたちの情報っていうのは、予測できましたか？

G : いいえ。全くわからなかったんですが、海からも離れているように私は感じていたので、すぐ海沿いの側って言えば、側だったんでしょうけど、家からは海が見えないので、大丈夫だろうとは思っていました。連絡が取れなかったんで、日が経つにつれて、ラジオとか聞いていて、どこまで津波が来たとか被害がだんだんわかってきたときに、もしかしたら…という思いもあって、お腹の子と 2 人で生きていくっていう決心をしたときもありました。その、主人が来る前までは。

Int : 妊婦健診をした直後で、そのときには赤ちゃんが元気だったということで安心しておられたので、多分もしかするとそのように考えられたのかもしれないですが、そのあとの健診は、全く予測も立た

なかったですよ。

G：そうですね。私は、N病院に通っていたっていうのがあるので、この次はこの時期って言われた時期は過ぎましたけれども、電話も通じたので、思い切って電話してみたら、受け付けますって言われて。震災後1カ月半ぐらい空いてから、4月30日だったと思いますけれども、よく覚えているのは確かそのあたりに、お願いしますって電話して。ライフラインがちょっと復活してきて、矢本のほうの状況が落ち着いて来た頃に、じゃあ電話をしてみましようということで電話をしたら受け入れてもらえました。

Int：そこで、安心されたっていうことですね。最初からN病院に通っていたので、なんとかなるだろうという安心感はあったということですね。

G：そうですね。

Int：あと、あのときは、全部ストップしちゃったと思うんですが、妊娠中で生活状態なんかはどうでしたか。

G：幸い私の場合は、自分の実家が残っていたので、周りにサポートしてもらって。毛布とか食べ物とか、そういうものもありましたし。

Int：食事なんかも大丈夫でしたか。

G：実家がたまたま自宅で飲食業をやっております、食べるものはあったので、当日食べれませんでしたとか、3日間食べれませんでしたっていう話を聞きますけど、うちはラッキーなことにそういう困ったということはないですね。たまたまお風呂の水も汲み置きしてあったので、そういうのを手洗いとかに使ってみたり、石油ストーブもあって、うちはプロパンガスだったので、ライフラインが止まってもなんとか生活はできたんです。

Int：なるほどね。大丈夫だったんですね。そのあと出産されたときも、普通のような出産の経緯をたどって。

G：そうですね。

Int：その後、実際にお子さんを育てていくときに、震災があつて何か気になったことっていうのはありますか？

G：上の子なんですけれども、津波ごっこをやっている、この子は津波を目の当たりにしているので、母である私が実際に津波を見ていないもどかしさと、わかってあげられないもどかしさと、いつも側にいたのに、そのときいなかった、守ってあげられなかったっていう後悔も少しあったりして。どうしてもわかってあげることができず、ずっともどかしさがあって、結構、子どもの心のケアのセミナーに参加して、こういうふうにやればいんだよっていう情報を集めたり、実際に本人を連れて行って、遊びながらケアをしたりして、気付いた頃には、それも落ち着いたので…。震災当時は1歳11カ月だったので、なかなか話ができなかったっていうのもあるんですが、話ができる歳にもなってきましたし、津波ごっこをして、ある程度整理をするんだよって、そのケアの人に教えられて。それでケアをするというか、遊びながらなんとかおさまっていったっていう感じですね。

Int：どのぐらいのときまで、津波ごっこをされましたか。

G：津波ごっこは2歳半から3歳前ぐらいまでしていて、今も上の子とそのKというところに遊びに行くんですけど、そうすると当時のことを思い出すらしく、当時の状況をこの子なりに説明するんです。唯一犠牲になったといえば、飼っていた犬で、その犬のお墓がKの家の敷地内にあるので、そこに行くたびに、ワンちゃんが津波で亡くなったんだよねっていう話はしますね。

Int：上のお子さんのことが心配で。そうしますと、下のお子さんを育てるときに、例えば物が足りな

いとか、ミルクで苦労したとか、そういうことは何かおありですか。

G: 私は、幸いなことに周りのサポートが強かったので、イベントサークルの代表者さんとお友だちで、定期的にミルクを送ってもらったり、無くなりそうだと思った頃に、自分で、困っているんですって感じで、ママ友にお願いするとミルクが集まったりして、あまり自分でおむつもミルクも買うことなく助かりました。

Int: それは、上のお子さんをお育てになっているときに、そのイベントサークルっていうところに所属されていた。

G: そのイベントサークルとしては、震災後にできたんですが、代表者の方がもともと私とママ友と呼ばれる友だちだったので、すごい心強くて、悩み事や困った事は全部そちらに情報を流して。その方も妊婦さんで、同じときに次男を出産されているんですけども、私たちは大丈夫だからってことで、出産してから忙しいのにも関わらず、同じ被災者なのに、代表者さんはそのあとすぐサークルのほうに復帰しまして、活動をしていただいたおかげで、物資が集まって来たので。そういう子育てサークルや、他のところでも石巻で遊べるよっていうところに行けば支援物資はありましたし、そこで情報交換して何か困ったことないかと言われて、ある保育士さんと出会って、その保育士さんにミルクとかおむつを持って来てもらったりして。私は幸運だったなと思います。すごく助かりました。

Int: そのサークルは、なんていうお名前なんですか。

G: 石巻ベビースマイルという。

Int: 今も活動されているんですか。

G: 今も精力的に活動されてまして、私がちょっとしたこととかも、意見を取り入れてくれて、すごく反映してくれるので、私も、もう少し子どもが育ったら、お手伝いしたいなと思っているサークルのひとつです。

Int: そうですね。イベントサークル石巻ベビースマイルさんというところですね。そういうような子育てをしているお母さんたちがすごく助かるようなことっていうのが、もっと多くの子育て中のお母さんたちに知れ渡るためには、あるいはその仲間に入ってもらうためには、どんなことが必要だと思いますか。

G: 私は、友だちがそういうサークルをしているので、スムーズに入っていけましたが、もし何もない場合であつたら、入っていけなかったかなと思います。もし、引っ越ししてきたばかりで、震災に遭われた方であつたら、ぜひその勇気を持って、サークルを調べて、電話をしてみるとか、問い合わせをしてみる、そのサークルに参加してみる。そこに行くのと支援物資をもらえたりしていたので。あとは、市の健診のときにも物資で、おむつとか、おしり拭きとか、子供服とかをもらえたので、そういう健診とかも積極的に怠らなくに行くようにすると、情報を得られるのではないかなと思います。

Int: 健診などもすぐには、定期的にやっていたものもできなかったんだろうと思うんですけど、それでの焦りとか、ご心配とかはなかったですか。

G: 幸い私は、上の子が当時1歳11カ月で次が2歳半健診でしたし、末の子に関しては、震災からだ半年はありましたので、何カ月かかったとしても、再開するだろうというのはあったので心配はなかったです。

Int: では、上のお子さんがお父さんと一緒に取り残された状態で、お母さんと離れたっていうことで、お父さんが子どもさんに対してどんなことを心配りしていたかなんていうのは、わかりますか？

G: 主人は、結構べったり側にいてあげたみたいなんですけど、まだ話もできないのに、おじいさんおばあさんも側にいたので、ちゃんと上の子に説明しないまま、私を探しに来たらしいんです。そうし

たら、独りになってしまったので、朝から晩まで泣いたらしく、今は預けても大丈夫なんですけど、ママっ子、パパっ子で、べったりだったもので、不安にかられたらしくて、もうそれでお腹をくだしたというか、うんちの色が少し赤くなったらしくて。すぐ病院に連れていってもらって精神的なものって言われたらしくて。それを聞いたときに、悪いことしたなと思って。

Int：お父さんが説明しないで、いなくなっちゃったのね。

G：パパはそう思っはなかつたでしょうけど、やっぱり話はできないけれど、理解はできる歳だつたと思うので。パパ自身も焦って、ゆっくり話ができなかったっていうのと、主人のほうの両親が揃っていたので、いつも一緒に暮らしているから大丈夫だろうと思って預けたと思うんですが、尋常じゃないときだったので、不安で仕方がなかったのではないかなと思います。

Int：Gさんから見て、ご主人の子育ての手伝い状況とか、家事の手伝い状況とか、ご夫婦関係なんてどんな感じですか。

G：そうですね。震災後、仮設に入ったときは結構お互い不満があつて、ぶつかり合つたりしたんですけども。

Int：震災の直後。

G：そうですね。結局、住むところの不安が2人とも大きかつたので、絶えず意見が対立したこともあつたんですけども、今は、落ち着いてお互いを尊重して、笑顔で暮らしていただけるから、以前に比べていいかなと思います。

Int：差し支えなければ、お住まいでぶつかり合つたっていう、それはどんな内容ですか。

G：そうですね。仮設ができるまでの4カ月間、私の実家で暮らしたんですね。私は自分の実家だったので良かったんですが、主人は、他人の家で気を使って、気を使っての暮らしだったのと、私が早産とかしないように、なかなか上の子と一緒に遊んであげられなくて、全部主人に押しつけていたというのもあつたので、主人は穏やかなほうなんですけれども、やっぱり疲れがあつたんだと思います。

Int：そういったものをダイレクトに妻に話をしたり、態度に出たりっていうのは、そのときはあつたっていうことですね。

G：そうですね。疲れたって主人が言っていたんですけど、休ませてあげられなかつた。自分は、そのときはもう、次男を産んでいる状況だったので、余裕がなくて。私も寝不足なのに、「あなたは睡眠取れているでしょう」みたいな感じで。「私は、こんなに疲れているのよ」みたいな感じでアピールしていたので、ぶつかり合つた。お互い、寝不足が一番の原因だつたと思う。

Int：それでは、震災から4カ月ぐらいして仮設に入られて、今はお子さまと4人暮らしですね。

G：そうです。

Int：津波の前はご両親がご一緒だつたわけでしょう。

G：そうですね。震災前は、私たち3人家族プラスお腹の子と、主人の両親と、あと主人の弟がいたので、結構大家族と言えば大家族。

Int：今はそうすると、ご両親とは別の仮設に入っているということになるわけですね。

G：はい。

Int：やっぱり住まいが、いろんな問題にはなりますね。お子さんの遊び場所は、今ありますか。

G：仮設団地の中では全く公園がないので、その仮設の周りを散歩することはできますが、目を離しても安心して遊べる場所はないですね。

Int：周辺には同じような年頃のお子さんたちはいらっしゃるんですか。

G：いるというのがちょっとわからなくて。上の子は、お友だちが近くにはいない状況です。

Int : お互い仮設の中だと行き来をするので、どこにどのぐらいのお子さんがいらっしやるかっていうのは？きっとたくさんいますよね。

G : いえ、ところがですね、わからないものです。

Int : そうですか。

G : そうです。団地が多すぎまして、その並びではわかりますが、一個前の列とかは全くわかりません。仮設見守り隊っていう、見回りの人がいるんですけど、その人に聞いて初めて、ここここにいるんだよ、っていうのがわかるので。散歩のときにも会いませんし、こんなに仮設があるのに子どもの数ってこんなに少ないもんなのっていうぐらい、散歩する時間や活動する時間がずれているのか、家にいないのか、それともずっと家にいるのかがわからないですね。それは、仮設に入った当時も今も、変わらないです。

Int : 今も変わらないですか。

G : そうですね。だから、さっきも言ったように自分たちでイベントに参加しない限り、孤立する可能性はあると思います。

Int : 今イベントサークルのほうに、ある程度参加できてるっていうことなんですけれども、その他に育児をするにあたって、相談するところはございますか。

G : 私は幸い、実家がY町で近く、車で30分なので、よく実母に電話したり、おばあさんに何か困ったら、頼ったり、子どもを預けたり。

Int : ご実家のほうのおばあさんね。

G : 子どもたちから見れば、ぴーちゃんにあたるんですけど、ぴーちゃんにお願いできるので。それと、やっぱりママ友が大きいですね。困ったときに相談し合える方がいて、言えば情報をもらえるのでありがたく思っています。

Int : そうすると、実際お子さんを預かったりとか、お子さんを遊びに出したりとか、そういうようなことっていうのはママ友と行っていますか。

G : そうですね。保育園とかにはまだ預けていなくて、現在は2人とも家庭で育てているので。

Int : あんまり外にはお願いはしていない。

G : 今は、お願いしていない。お願いするとしても、両家のぴーちゃんが健在なので、ぴーちゃんにちょっとだけお願いするっていう。

Int : 何歳ぐらいの方ですか。

G : 80代前半ぐらい。

Int : 80代ね。すごいな、元気ですね。どんな人たちから協力をもらうと、とても子育てには助かるんだけどっていうようなことはありますか。

G : それはボランティアの方が少し回っている時期があって、住んでいて一回だけボランティアで幼稚園の先生とか、保育園の先生が来てくださって、一時間だけ子ども達の手が離れたときがあったんですけど、それだけでもすごく助かったことを覚えています。なので、ボランティアの方でそういう信頼できる保育士さんや幼稚園経験のある人が来ていただけると、お外でちょこっと一時間ぐらいお散歩するだけでも、だいぶ助かるので。

Int : その道の専門家が、その道のことを教えていただくと一番いいと、あるいは手を助けてくれるといいということですね。

G : そうですね。専門の方じゃなくても若い大学生とかが、ボランティアで来てくれて、この子が人見知りしないで、いっぱい遊んでもらえるのであれば…。どんな方でもいいので、その当時は、誰か手

伝って欲しいと思いました。

Int：今は、津波ごっこはしませんか。

G：津波ごっこはいつからか忘れましたが、今はやってないです。理解はしているようで、「津波が来たときは、僕はおばあちゃんの背中におぶられていたんだよね」とか言うんです。さっきも言いましたけど、「津波来たときに、ワンちゃんが津波で亡くなっちゃったんだよね。だから、ここに眠っているんだよね」という話はします。

Int：時々、そのお家のほうには行かれるんですか。

G：毎週日曜日は、そのKの実家のほうに遊びに行くので。

Int：今そちらにはご両親が住んでいる？

G：そうですね。震災の後から、おばあさんも住んでいて。以前は、住んでいなかったんですけど、津波で家が全壊になって。子どもたちからみるとびーちゃん、Kのびーちゃんって呼んでいるんですけど、鹿妻のびーちゃんと両親の3人と、主人の弟がいて、4人で暮らしています。

Int：あとは、震災のときの一番大変なときと、あと今の子育て中の大きい違いってというのは何かありますか。

G：私の場合は、今は子どもたちがちょっと大きくなってきて、少し余裕ができたから、リラックスして子育てしたり、可愛く思えたりしますが、去年の今頃だと、もうおっぱいだミルクだって、下の子はやってましたので、全然余裕がなくて、きつく上の子にあたったこともあります。

Int：なるほど。今少し余裕が出てきたってということですね。

G：そうですね。

Int：今は概ね余裕を持って、ちょっとは息抜きしながら、子育てできてるかなって感じ。

G：そうですね。それは周りのサポートがあるからです。主人が今日みたいな集まりのときに、1人を見てくれたりして、1人見てもらうだけでも全然違いますので、まずは、主人のサポートが大きいことと、両家の両親、びーちゃん達のサポートが大きいことですね。それに、去年の今頃、自分が情緒不安定になりまして、心のケアみたいところに相談して、専属の保健師さんについてもらって、何かあればその保健師さんに専門的なこと、自分の心、なかなか人に言えない感情とか、その出来事を困ったときに全部伝えているので、その保健師さんが、私の中では大きいかなと。家族以外にその専門の保健師さん。

Int：同じ保健師さんがずっとつないでくれますか。

G：はい。そういうふうをお願いしています。

Int：石巻の方ですか？

G：はい、石巻の方です。

Int：去年のいつぐらいに？

G：10月17日あたりから半年間、主人が単身赴任という形になりまして、仮設での生活もまだ1年目で寒い冬も越せるかどうか、すごい不安になって、一番サポートしてくれていた主人もいなくなるということでパニックに陥りまして、そのときから相談をし始めました。

Int：なるほど。ご主人はどちらのほうに単身赴任だったんですか。

G：宮城県のI市のほうに。

Int：じゃあ、ちょっとすぐにといいわけにはいかないですね。

G：そうですね。

Int：今はもう落ち着かれていますか？

G：そうですね。主人が今年の4月に帰ってきて、半年経ったことと、今年の8月ぐらいから、保健師さんや心のケアの場所など、いろんなところで相談して、自分の中で考えをまとめた結果、心療内科にも2カ月前から通ってまして、薬をいただいているので。

Int：今の2カ月前。

G：そうです。だから、8月の末あたりから通い始めていますので、その途端調子がよくなってきて。

Int：なるほど。じゃあ今も薬を飲んでいるんですね。

G：服用しています。

Int：一番ひどいのはなんですか、眠れないこと？

G：イライラすることですね。子どもにイライラすると、もう怒鳴ってました。このままだと虐待してしまうので助けてくださいって、よく周りに訴えてました。

Int：そうです、ぜひそういうようなアピールをしてください。でも、今までお話を伺った限りでは、お子さんのわずか1歳ちょっとのときの津波を、その体験をきちんと子どもなりに整理している、津波ごっこのお話とかね、それをそのときに共有ができなかった母親としてのもどかしさとかね、そういうようなものがすごく客観的に整理されてきているので、いいお母さんですごく配慮してるんだなっていうのが、伝わってきたんですけれども。

G：ありがとうございます。

Int：この間にそういったイライラがあったっていうのは、想像できなかったですね。今お話を伺って始めて。

G：ありましたね。主人がいなくなってから、上の子どももちょうど2歳でイヤイヤ期が始まりまして、重なったんですね、ちょうど。下の子ども落ち着いてきたけれども、感情が芽生えて来たとき、上の子どももイヤイヤ期で、パパはいない、私ひとりで見なきゃいけない。結局、一時避難で、実家に半年間戻ったんですが、実家のほうが自宅でレストランをやっているんで、やっぱり子どもと一緒に住む環境ではないんです。私の父親が、気にしないでって、具合悪くしてパニック起こしたんですけれども、それを起こすよりは側にいてもらったほうが安心だしということで、甘えさせてもらったんですけれども。

Int：そうでしたか。あとは、今後は、どのようなことがご心配でしょうか。

G：それはですね。今日、こういう場を設けてもらったので、ぜひ訴えていきたいということがありまして。主人と話し合って、ぜひ誰かに伝えたいということがありまして、今回いい機会だったので、まとめたというか、メモを書いてきたんですけれども。

Int：世帯分離された方っていうのは、たくさんおられるようですか。

G：そうですね。周りはわかりませんが、母親の話とかいろいろ聞いて。うちみたいに同居していて、二世帯ではなく、同一世帯になっていて、震災が来たので、震災後、別々に暮らしましょうってなったときに、仮設はたまたまラッキーで入れさせてもらったんですけれども、義援金の話になったら、以前は同一世帯だったので、そこの分しか出ませんよと言われて。世帯分離してるのにも関わらず…。最初から全部揃えなきゃいけないって、お金もかかるんですけれども。

Int：倍になりますからね。

G：そうですね。それができなかった。そこはちょっともどかしいところがありました。

Int：わかりました。待機児童が多いってことを書かれてますけれど、これは保育園に入れたいと思っているけれども、なかなか入れられないということですか。

G：今ちょうど保育園の願書受付の時期なんですけれども、他のママ友さんとかの話を知ると、幼稚園

や保育園に結構児童が集まっています、待機児童も多いのではないかって。実際、待機している方も知ってますし、もし入れなかったら、今後どうしようというプランもたてなきゃいけないんだなっていう。

Int：お仕事しようかなというお考えのもとに、保育園に入れたいというようにお話ですか。

G：私の場合は、その精神的なものがあるので、そこにポイントをおいて、保育所には願書を提出したんですけども。それも、石巻市の保健師さんを通じて、いろんな人に様子を見に来ていただいて、アドバイスをいただいて、元保育士さんの方と巡り会えて、実は働く意志がなくても、例えばお母さんが体調不良とかでも入れるっていうのをそこで始めて聞いたので、入れるかもしれないってことで、じゃあやってみましょうってことで。なかなか、そういう情報もないですね。保育所っていうのは、働く人しか預けられないんだっていうイメージしかなかったもので。勉強不足と言われれば、勉強不足なんですけれども。

Int：そういうのを教えてくださるところがないんですよね、確かに。そうすると、定期的に保育士さんとか、あるいは保健師さんとかが関わるというのは、子育てするには、とても楽ということですか。

G：そうですね。もし悩んでいる方がいるのであれば、ちょっと話しにくい内容かもしれませんが、とにかく保健師さんに相談するというのがひとつの手ではないのかなと私は考えております。市の保健師さんに、結構冷たくされたと言って、拒絶される方も話では聞くのですが、そういう保健師さんもいるかもしれないけれども、相性が合う、合わないありますので、苦しいとか、辛いとか、しんどいと思っていることがあるのであれば、私のように状況が悪くなってパニックとか起こす前に、ぜひ保健師さんにあきらめずに相談することを、私は進めていきたいなと思います。

Int：なるほどね。診断としては、パニック障害って言われているんですか。

G：その先生は、普通っぽいのではないかっていう感じで、診断名は様子をみながらつけていきますということだったので、まだ名前はついていませんが、まあ、鬱っぽいのではないかという。

Int：今は大丈夫。

G：そうですね。そのアンケートに関しては、お薬飲む前だったので、かなり消えたいとか死にたいとかっていう気持ちは強かった時期ではあります。

Int：1回目のアンケートのときには、大丈夫だったんですね。

G：2回目のときでしたね。感情が、もうどうしようもなくなって、行き詰まってしまっただけ。

Int：そのいったときに、お書きになったっていうことですね。

G：そうですね。

Int：今は、だいぶそれが落ち着いたと。

G：そうですね。嘘のように、そのモヤモヤとしたものが晴れてきて、お薬と周りのサポートがたくさんあるんだということで。保健師さんを通して、ヘルパーさんに入ってもらって、食事の用意をお手伝いしてもらったり、心のカウンセリングを定期的に月1回やってもらったりして、整理をしているところなんです。

Int：そうですね。だいぶ整理はできているなという感じでお見受けしました。それから、やっぱりすごい心配されてますよね。

G：そうですね。今後の心配もやっぱり強いです。私たちは、その災害公営住宅とかの対象になっていないもので、今後、仮設を出たらどこに入れればいいのかなっていう不安はあります。

Int：仮設はいつまでというようなことは言われているんですか。限定はされているんですか。

G：限定は1年か2年。来年か再来年だと思いますが、結構、追加の工事をしてもらっているんで、

住めなくはないのですけれども、最後まで残る感じになってしまうのではないかなって。私達のほうで県営や市営も探しているんですけども、収入のラインでちょっと引っかけりそうなところもありまして、ちょっとギリギリなんですけど、収入が多くなってみなされた場合…というのがありますね。

Int：現在、ご主人に対してはいかがですか。

G：そうですね。とても頼りになりますね。だいたい遊んでもらったりしているのです。

Int：わかりました。長いこといろいろとお話をさせていただきましたけれども、ご自分の中ではだいぶ整理されてきているかなってというのが、わかりますね。

G：そうですね。仮設も2年目に入るので、このままだと寒いとかそういうのを考えて準備しているんですけども、準備するって言ってもお金がかかって、限界があるので。凶々しい話ですけども、お金の話になりますが、私たちみたいな人にも、1万円でも2万円でも少しでも回ってきて、戴けるのであれば、もう少し快適に暮らせるのではないかなって考えています。

Int：今朝の新聞に、震災支援の予算は、震災の支援に確実にあてるとというような記事が、一番最初に載ってましたので、今までは震災のお金がどこか違うところに使われてるなど、随分と叩かれてましたが、本当に被災した人たちのためにというように、国に対しても希望が徐々に徐々に入って来ているんだと思うんですよ。私たちも、震災のときに妊娠中だったり、産んだばかりだったりしたお母さん達から、全体でこういうような希望がありました、ということをもとめてお伝えさせていただきますので。どうもありがとうございました。

G：ありがとうございました。よろしくお願ひします。

〇さん：20歳代前半 初産婦

分娩日 2011年3月上旬 分娩時週数 39週

Int：アンケートを書いて貰ってますが、内容が重複するかも知れませんが、この研究をして、できれば生の声を集約させて、行政だとか、少し改善できればと思ってるので、色んなご意見を伺わせて頂ければと思います。〇さんは震災の時、どこに居られましたか？

〇：M病院に居たんですけど。3月11日が予定日で、その4日前の7日に産まれたんで。

Int：産まれたばかりだったんですね。

〇：はい。

Int：M病院に居て、その時、その後どうなったんですか？震災の直後…。

〇：1階まで津波が来て、その時、私達は屋上に避難してたんですね。

Int：すぐに、津波が来るって分かってたんですか？

〇：来るって分かってたんですけど、そこまでおっきいのは来ないって、看護婦さん達が言ってくれたので。

Int：最初は、3m～6mっていう話だったようですね。

〇：そうです。そう聞いて屋上に上がったら、その上にK高っていう高校があるんですけど、その上に居た人達が、「もう、10mの津波が来るよ」って言うので。そういう会話を上の高校と、その病院の屋上でやり取りしてた時に、もう津波が来た状態だったので。

Int：病院の建物は、何階建の屋上ですか？

〇：3階建ての屋上なんです。で、1階まで津波が来たので。

Int：じゃあ、建物の1階は浸かったけど、〇さんとか他の人、みんな助かったんですね。

〇：そうですね。皆さん、外来の人達も、全員上に上がってたので。

Int：そうですか。その時、産後4日目で、その後、かなり大変だったと思うんですけども。

〇：私は、出産した時の傷口が痛くて、2、3日歩けない状態の後に、この震災だったので。その後、上の学校のK高に避難して。

Int：そうか、病院は使えないから、もうK高に。

〇：そうです。上の方の学校に避難して、そこで待機するはずだったんですけど、今度は内湾火事があったんで。

Int：ずっと、火事でしたよね。

〇：そう。火事で火が危ないって事で、警察の方から避難して下さいっていう事で、安波山っていう山に登る山道があるんですけど、その山道を途中まで登って。

Int：何で登ったんですか？

〇：歩いてです。スリッパとパジャマで、子どもを毛布で包んで抱えて。

Int：何人ぐらいで？付添の人とかどなたか居るんでしょうけど。

〇：外来の人も居たし、看護師さん達も皆居たので、30人くらいと、あと、近所の避難した人達。もう、車通るとこもないので、歩いて上がって。途中から、八日町っていう市役所の方に下りる道があるんですけど、そこまで歩いて下りて。でも、下りたらもう瓦礫なんですよ。ヘドロと瓦礫、車は立ってるしっていう状態を歩いて、Wビルっていうところに、市役所の下建物あるんですけど、そちらに避難して、そこで3日間かな？

Int :そこは避難所だったんですか？

O :避難所だったんですけど、新生児がいるので、私達だけで。キッズルームみたいなところがあったんですよ。

Int :多少、特別に。

O :そうです。カーペットが敷き詰められた部屋があって、そちらの方に避難してっていうか、隔離っていうか、こちらにどうぞ。新生児が居たので、私達だけ、そちらの方に避難してっていう感じ。

Int :その時、新生児を連れてるお母さんは、そこに何人ぐらい居たんですか？

O :3人です。

Int :Oさんを含めて3人？

O :そうです。3人で、後は外来の妊娠してる方とかも一緒に、そちらの方に避難してたんですけど。

Int :その後、ミルクとかおむつ交換とか、ずっと続きますよね？

O :そうですね。一応、避難する時に、M病院の先生や看護師さん方が、幾つかミルクの缶とか持って来てくれたんですけど、それじゃ、やっぱり足りないんで、2日目だったかな？2日目に市役所の人に許可を貰って、看護師さん達だけ病院に取りに戻ったんです。取りに行つて貰って、ある程度確保して、また戻つて来て貰つてっていう感じで。

Int :一応、ミルクは途絶えずにあったとしても、少なめでしたか？それとも、十分にあげられましたか？

O :薄めてとか。

Int :ちょっと工夫しながら。いつ途絶えるか分からないですもんね。

O :いつ、どこの場面でミルクが入るかも分からないし、無くなるかも分かんないという事だったので。一応、母乳やれるなら母乳ってなったんですけど、やっぱ、そういう状況だと母乳の出も良くなって、自分も食べれないのでどんどん出なくなって。

Int :その時、Oさんの方とかの食事とか、水とかって大丈夫でしたか？

O :全然、大丈夫じゃないです。

Int :やはり、すぐには入って来なかったですか。

O :その日は入って来なくて、2日目の夜に。そこに20人くらい居たんですけど、おにぎりが4つ。それを皆さん一口ずつで分けて下さいって。なので、ほんのちょっとしか来ないんですよ。でも、看護師さんとか付添の方は、遠慮して、「お母さん達、先に食べて下さい」みたいな感じで貰って、でも、ほんの少し。

Int :その間、水どうしてましたか？水はあったのかな？

O :私達が入院してた病院の2、3階に病棟があったんですね。そこは大丈夫だったので、看護師さん達が戻った時に、冷蔵庫とか、病室から、飲み物とか、ヨーグルトとか入ってたから、とにかく持ってきたからって事で、それを分けて、皆さんで食べたり飲んだりはしたんですけど。

Int :その避難所自体で水とかは。

O :ないです。

Int :その後、ミルクとか水とかどうなったんですか？いつ頃、十分にいうか、補給できる様に？

O :私は、そこに居たのが3日目までだったんですよ。その3日目、いや、4日目か。3日目の夜に、別な避難所で大浦っていう対岸の方からヘリコプターで運ばれて来た人達が居たんですけど、そのお子さん達も増えて来て。

Int :その場所に？次々と来るんですか。

O：そうです。なので、やっぱりあの、まあ。

Int：もっと条件の良いところに移りましょうっていう訳ですか？

O：っていうか、私からしてみたら、小さいお子さんっていうっても、3歳とか4歳とかで、もう何も気にしないくらいの年齢なんですよ。

Int：バタバタと動く訳ですね。

O：そうです、わあーっと。それでもう、子供も踏まれたりとかするくらいだし。

Int：新生児とかちっちゃい子はね。

O：そうです。でも、お母さん方も何にも言わないんですよ。「ちょっと、駄目だよ」とかも言わないので、なんかもう、私も気が滅入っちゃって、次の日に。自宅は流されないであつたんですけど、まあ、もちろん。

Int：自宅は流されないであつたんですか。

O：でも、水とかは一切何もないんですけど。

Int：そうか、行っても生活自体はできない状態ですよ。

O：でも、ここに居るよりは精神的に楽なっていう事で、自宅の方に帰ったんですよ。

Int：それで、自宅で生活してたんですか？

O：そうです。

Int：自宅は、その時どなたが居たんですか？

O：私の両親と兄が居ました。もちろん、水とかも出ないので、給水所に行って、貰ってきてっていう生活をしてたんですけど。

Int：自宅のところは、少し高いところになるんですか？津波に直接は…。

O：そうですね。いや、でも、家の100mくらい前までは津波が来たんですよ。でも、ぎりぎり、橋があるので、橋で止まって大丈夫だったんですけど。

Int：自宅までは、どうやって戻ったんですか？

O：車ですね。確保したんですよ、車の道だけ。なんか1台通れるか通れないかくらい、市内は確保してあったので。

Int：誰の車で戻ったんですか？

O：迎えに来てくれたんですよ、実家に居た兄が。

Int：ちょっと立ち入った事お伺いしますが、離婚されてますよね。これは、震災と関係あるんですか？差支えなければ…。

O：ちょっと、若干関係ありますね。

Int：いつ離婚なされたんですか？

O：今年の2月です。でも、離婚を決めたのが去年の6月くらいだったので。

Int：やっぱり、震災が影響してるんですね。

O：そうですね。

Int：震災の時、ご主人はどちらに居たんですか？

O：旦那は、市内に居て、もちろん震災があつて、まあ、私の安否確認っていうかに来たんですけど、私をほったらかしっていうか。って言ったらおかしいですけど、ちょっと、別な方に行くっていうか。まあ、お前が大丈夫ならいいやっていう感じで、もう、すぐ居なくなってしまうと、あと、それっきり別に。

Int：サポートしてくれるとか。

O : そうというのは、ないので。

Int : 震災の前から、そういう傾向があったんですか？

O : いや、でも、うーん、そこまで酷くはなかったですけど。まあ、ちょっと距離感があったかなって感じはしたんですけど。震災以降、全然、連絡も途絶えた状態だったんで。

Int : そうですか。その時のお気持ちとしては、どうでしたか？もう、お子さんの事で精一杯でしたか？

O : もう、そういう人には頼ってられないかなっていうか、いつまでも、気にかけてても、離れていくなってしまうので、もう。

Int : それで、6月頃にはもう、離婚を決意して。

O : そうです。6月に離婚を決意したんですけど、連絡が全然取れなくて、結局、長引いて10月くらいにその話が。なかなか話がつかなくて、やっとついたのが10月くらいだったんですね。

Int : 話がつく、つかないって、なにか色々あったんですか？

O : 連絡が先ず取れない。連絡が取れなくて、旦那の実家にも行ったんですけど、そっちには誰も居なくて。

Int : ご主人の実家って気仙沼ですか？

O : 市内です。

Int : 10月には、法律上もう離婚は成立して、どうですか？もう気持ちの整理はつきましたか？

O : そうですね、大分。

Int : それで、むしろ良かったって感じですかね？

O : そうですね。

Int : 今、お住まいは、お父さんと、お母さんと？

O : 自宅にですね。

Int : 実のお兄さんってのは？

O : 兄は、結婚してたので、近くにアパート借りてるんですね。

Int : さっき迎えに来たっていうのは、近くに居るからなんですか？

O : いや、前から別に暮らしてたんですけど、震災あった時は、お互い、奥さんの方も自分の実家の方に行っていて、兄も自分の実家の方にいたので。

Int : ああ、そうですか。そうすると、今は、お子さん入れると、4人暮らしですか？お爺ちゃん、お婆ちゃんとOさんと…。

O : はい、4人暮らしです。私と子どもと、両親の4人で。

Int : もう1回、戻りますけど、自宅に戻って、その後の生活はどうでしたか？戻った時は、ご両親と、お兄さんが居たんですよね。

O : もう、電気も全然駄目で、避難所に物資を貰いに行っても、家がある人がなんで貰いに来るんだって言われるのが現状だった。

Int : 実際に直接言われましたか？

O : 言われました。

Int : Oさんも行った事ありますか？

O : 私と、私の父が一緒に行ったんですけど、「家族何人ですか？」って聞かれるんですね。「子ども1人と、大人3人」って言っても、2人分とか、1人分とかの、ほんと少ない量しか貰えなくて、「いや、家族このくらい居るんですけど」って言っても、「いや、家あるだけいいでしょ？」「皆、流されて何も無いから、これで我慢して下さい」みたいな感じで。うちの父も、怒って言うのはおかしいんです

けど、「いや、こっちはもう、生まれたばかりで母乳は出さなきゃいけないし、もちろんミルクも手に入らないから、母乳に頼るしかないんだ」って言っても、「いや、まあ、家あるんで…」みたいな感じで、流されるっていうか、もう貰えないんです、全然。

Int：確かに、家が流された方も、大変は大変ですけどね。そうですか。そういうことを対応した人って、どんな方ですか？行政の人ですかね？

O：行政の方です。社会福祉協議会の方とか。

Int：それは、知ってる人なんですか？

O：知ってる人っていうか、もう、そこの地区に居る方なんですよ。

Int：そこの地区の人だから、もう分かっちゃうんですね。実際、物はなかった様子だったんですか？それとも、あるのに出し惜しみして…。

O：いや、ありましたね。全然、ありました。やっぱり顔見知りとか、その人の知り合いとかには、いっぱいあげてるんですよ。

Int：それは、見えてるところですか？

O：そうです。こう並んでるじゃないですか。配給するのに並んで、例えば、その人の知り合いが来ましてってなったら、「じゃあ、これも持ってって」みたいな感じで、入れてあげて。でも私達の番になると、「もう、これで我慢して下さい」みたいな感じなので。

Int：本当。それは、酷い話ですね。お父さんが怒るのも無理ないですよ。物が無いんだったらしょうがないですけど。そんな事があるんですか、やっぱり。

O：ありましたね。

Int：じゃあ、ミルクの補給って結局、どうなったんですか？

O：おむつも、ミルクも産まれてから買おうって思ってた、最低限の量しか、用意して無かったんですよ。

Int：もう、数日分ぐらいね。

O：そうです。オムツも1、2カ月分とか、ミルクも1缶2缶ぐらいしか用意してなくて。それで、手に入らないので、「どうしよう…」ってなった時に、知り合いてっていうか、私の同級生の友達が子ども用品店で働いていて、そこの社員の方にだけ、社販っていうかしてくれたのを持って来てくれたんですよ。

Int：震災の後に？

O：震災の後に。一般の方には売れないので、会社の方にだけ売るっていう事で、その友達が私の為に買ってきてくれて。

Int：赤ちゃんに必要なやつを？

O：そうです。肌着とか、上着とか買って持って来てくれて、大分助けられて。

Int：それは、いつ頃ですか？

O：震災あって1週間後ぐらいですかね。

Int：1週間後ぐらい、そんなにすぐやってくれたんですか。それでも、ミルクとかは、そんなにもちませんよね。どれぐらいもったんですか？

O：ミルクとかは、あまり飲ませない様にして、頑張って母乳を。

Int：できるだけ母乳にして、ミルクは保存しながら。

O：そうです。いつなくなるか分かんないので。夜とかはミルク飲ませたりしてたんですけど、日中は、ほとんど母乳で頑張ろうと思って。だから、ミルクも結構もちましたね。

Int : 結果的にはもったんですね。

O : はい。2 缶ぐらい余ったんですよ。

Int : いつの時点でそのくらい余ったんですか？

O : 1 カ月くらい。

Int : 経った時に、節約した事もあったけど、2 缶ぐらい余ったと。その後は？

O : その後は、店も徐々に開いてたので、何缶までとかって買う制限はあったんですけど。

Int : 普通に購入できる様になったんですね。

O : そうです。なので、もう大丈夫かなと。

Int : お子さんを育てるのに、相談とかできる人って、身近にいますか？あるいは、行政の窓口って利用したり、知ってたりしましたか？

O : 知ってたんですけど、来る機会がやっぱないですね。

Int : 行くとすれば何処でしょう？

O : 保健センターです。子育て相談とかだと、そこぐらいしかやってないと思います。

Int : そうですか。震災直後は、確か、保健師さんが全戸訪問してるはずなんですけど、それは来ましたか？

O : 保健師さんですか？いや、来てないですね。

Int : そうですか。確か、一応、行くって事になったって聞いたんですけども。

O : 来てない。

Int : ただ、出生の時、もしかして現住所でやられてると、実家だと、もしかすると漏れてるかも知れませんが。

O : そうなんです。来てないですね。震災後は来てないです。

Int : そうでしたか。お子さんは、順調に育ってますか？

O : 育ってます。大丈夫です。

Int : そうですか、今 1 歳半くらい？

O : 1 歳 7 カ月です。

Int : 1 歳半健診は、受けましたか？何か言われましたか？

O : やりました。なにも言われてないです。

Int : そうですか。女の子さんですね。体重が 3000g ちょっとぐらい。

O : 3080g で生まれました。

Int : 普通の大きさですね。満期でしたね。お子さんは、可愛いですか？

O : 可愛いです。

Int : このアンケートの裏の方に、辛いついて感じの事が記載されてますけど、今でもそうですか？書いて頂いたのが 7 月頃でしたが、どうですか？

O : 結構、地震っていうか、津波の夢とかは見ます。

Int : 今でも見ますか？

O : 見ます。

Int : それから、昼間でもパッと思い出したりしますか？その辛かったことを…。

O : 揺れたりとかすると。

Int : 今でもちょっとあるんですね。

O : その時の恐怖心が、ワッとありますね。子どももびっくりするんですよ。地鳴りの音がすると、も

う一瞬にして小っちゃくなって、屈んじゃうんですよ。なので、なんか分かるものがあるのかなと。

Int：お子さんからすると生まれたばかりだから、震災の記憶は、あまりないかも知れないけど、余震ですかね。

O：そうなんですかね、どうなんだろう。地震の揺れとか音とかすると。

Int：少し過敏な感じしますか？

O：凄いですね。炬燵の下に潜るぐらいなんです。

Int：そうですか。お子さんは、テレビかなんかで、そういうおっかない場面になった時、凄く怖がりますか？

O：テレビは、別に普通に見てて、地震とか、津波とかの映像も普通に見てるんですけど、地震が来るともう凄く、過剰反応で凄いです。

Int：テレビの中での地震とか、津波はあまり驚かない？

O：驚かないですね。

Int：そうですか。地震以外にもなにか怖がるものはありますか？

O：ないですね。

Int：1歳7か月。今日、お子さんはどうしてますか？

O：託児所に預けてるんですよ。私が仕事してるので。

Int：そうですか。普段から、預けてるんですね。

O：そうです。

Int：今、働いてるんですね。ずっと働いてたんですか？

O：そうです。

Int：そうすると、赤ちゃん産んだ時には、いわゆる産休だったんですか？

O：そうです。産休中だったんです。

Int：産休明けて、仕事にはいつ戻りましたか？

O：その職場は、流されたので、解雇されたんですよ。

Int：会社に解雇されて。

O：解雇されて、仮設ではやってるんですけど、前の給料払えないので、前の給料払える時まで、別の職場で働いて欲しいっていう事で、今は別なところで働いてるんですよ。

Int：別のところって、その元の会社が紹介してくれたの？そうではなくて？

O：違います。自分で探して。

Int：そうですか。元の会社が、もし再建したら戻るんですか？

O：声が掛かれば戻ろうかな？

Int：どんな会社ですか？

O：飲食店ですね。

Int：再建しそうなんですか？わかんない？

O：分かんないですね。今、仮設ではやってるんですけど。

Int：仮設でやってるのね、そうですか。仮設だと、まだ雇う程の…。

O：そうです。収入とか、売り上げがないのでっていう事だったので。

Int：今のお仕事は何ですか？

O：大島っていう離島の観光業で働いてて。

Int：そうですか。船で往復するんですか？

O : そうです。

Int : 船は大丈夫なんですか？港とか。

O : 港も駄目だったんですけど、船も流されてしまって、今は、広島の方で造った船をまた持って来て、今はちゃんと運航してます。港も一応使える様にはなってます。

Int : 向こうの観光って、今、どのぐらい戻ったんですか？

O : 全然戻ってないです。

Int : そうですよね。仕事は割と早く見つかった様ですけど…。

O : 一応、今の観光協会の前は、9月までNPOのボランティアをやってたんですね。大島の方を中心とした、車の貸出の仕事をしていて、それがもう9月いっぱい終わるので、NPOの団体の方から今のところを紹介してもらって。

Int : そうですか、よかったですね。アンケートに自宅避難者の支援とか、心のケアも必要だというようなことを書かれてますが、例えば具体的にどんな事ですかね？物質的なことですか？

O : これは、やっぱり避難所に居ても、家がある人は帰れとか、ミルクもあげない状況だったので。私の知り合いでも居たんですけど、家で水とか出なかったんで、避難所に避難した方が居たんですよ。どうしようもなく、アパートもっていう事で。そしたら、やっぱり、「子どもが泣くからうるさい」とか言う方がすごい居て、そこまで差別じゃないんですけど、家があるだけで過剰にワーッと叫んでる方が居たので、なんかもうちょっと、家があっても、みんな同じって言ったらおかしいですけど。

Int : 家があるってということで、なんとなく差別っていうか、家が残ってるからまだマシだろう、という。

O : そうです。差別されちゃうんです。家があるのに、なんでここに来るのかみたいな。

Int : やっぱり避難所って、全壊とか津波の被害に遭った人の割合が多いんですかね？

O : そうです。家があるんだから、早く出て行けみたいなことを言われたっていう方も居たので。

Int : そうですか。赤ちゃんだと直接関係ないんですけども障害者の人や病気の人が入る、福祉避難所が、仙台辺りにできたらいいんですけど、そういうの聞いた事ありました？

O : そうなんですか？ないです。

Int : 気仙沼であったみたいですか？そういうの。

O : いや、聞いてないですね。

Int : 気仙沼でも恐らく、病気の人とか、介護が必要な人とか、発達障害のお子さんとか、色々大変な状況だったんだろうとは思いますが。

O : 全くそういう情報も何も入って来ないので。避難所に居れば、そういう情報も入るかも知れないんですけど、自宅だと全くそういう情報がないです。

Int : 自宅だと全くないですか。とりあえず、携帯、固定電話が駄目で、停電してれば、テレビもなんもないですね。

O : なんにもないです。なので、ラジオ。

Int : ラジオからは、情報が入って来ましたか？

O : 災害FMがあったんですけど、全くそういう情報はない。

Int : 支援物資がどこにあるとか、赤ちゃんいる人には、どうだかっていう情報はないですか？

O : ないです。

Int : 道路がどうだとか、そういう話ですかね。

O : 死体安置所とかそういう道路のこととか、そういう話が多いですけど、その他は、全然入って来な

かったですね。

Int : いわゆるママ友みたいな人とかも、最初のお子さんですし、産んですぐだからいないですかね。

O : 私の同級生のお姉ちゃんとか、お子さんが居る方も、結構、知り合いでは居たんですけど、携帯も使えないので、連絡しようもないし…。車走らせても、ガソリンも入れられる状況じゃなかったの、どこにも行けないっていうのもあって、2週間ぐらいは、全然家から出ない生活でした。外に行くのは、その給水所とか、物資の配給の時ぐらいで。

Int : その時には、情報とかってなにかありましたか？物資の配給とか、給水所とかで。

O : ないです。物資の配給してたのも、給水に行く途中に人がワーッと集まってて、あ、何してるんだろう？って思ったら、その物資配給とかだったんですね。

Int : 予め分かってたんじゃないかって、偶然分かったみたいな感じなんですか？

O : そうです。でも、行くとやっぱり、「いや、何も家あるんだから来る必要ないでしょ」みたいな。

Int : って、また言われる訳ですか？

O : そうです。どこに行っても絶対言われますね。

Int : それは別に O さんが言わなくても、周りは分かっちゃってるんですか？あなたは家があるのに、なんで来んだみたいな。

O : その、来る方向からですね。

Int : その来る方向から、あの人は家があると。避難所から来るんじゃないから、分かっちゃうんですね。もし、そういった差別のようなものがなければ、それなりに物入ってましたかね？避難所にいる皆さんは、さっき言った様に貰ってました？

O : 入ってたと思いますね。

Int : 土地柄とかそういうのは、関係ありますか？

O : 土地柄は関係ない。

Int : どこでも起こりそうですかね？気仙沼だからって事もないですかね。

O : 聞いた話では、ここだけじゃなかったみたいだし。

Int : あとは、心のケアって何でしょうね？具体的には。

O : 心のケアですか？やっぱり、話したくてもできる相手が居ないとか、聞いて貰うだけでも、多分、違うと思うし…。

Int : 聞いて貰うっていうのも、もしかしたら、専門家でなくてもいいですか？

O : 専門家じゃなくても、多分、大丈夫だったと思う。

Int : 大丈夫だったかも知れない。それこそ、ママ友とか、同じ様な赤ちゃんがいる人とか。

O : そうですね。共感できる人とか、そういう話ができる場があれば、ちょっとは違ったかなっていうのがあったと思うんですけど。

Int : その2週間、情報が閉ざされてて、配給もそんな風に嫌がらせ的な扱いを受けて、非常に苦しんでいるか、悲しい状況でしたよね。やっぱり。

O : そうですね。でも、実際、私達も津波にも遭ってる。遭ってるっていうか、病院の中に津波が入って来てるのを目の前で見てたり、人が歩いてるところに津波が来たりしてたのも見てたのって思うと…。確かに、家を流された人達の方が、一番辛いのは分かるんですけど。でも、その時、誰が一番辛くてとかっていうのは、あんまり関係ないって言ったらおかしいですけど、みんな同じ感情だったと思うんですよ。なのに、そういう風に言われると何を分かってこうやって言って来るんだろうっていうのが一番あって。

Int : そうですね。それから、よくテレビとかで、どっちかっていうと美談が出ていて、赤ちゃんが居ると、みんな優しくしてくれるとか、物をくれるっていうのがなんか出てた気がするけれど、今の話からすると逆っていうか…。

O : そんなの…。それは綺麗事っていうか、全くそんなの関係ないですね。

Int : 私、仙台に居たんですが、仙台は比較的、物資がワーっと入ってたせいもあって。

O : そうみたいです。その時、うちの次男も仙台に居たんですよ。比較的スーパーとかも、そこまで制限ないっていうか、こっちみたいに、何日もずっと閉まってたとかっていう状況もなかったって言ってたんで。

Int : 仙台だと、比較的小子どもには優しくした様な気もするんですけどね。それは、被害の大きさもですが、色々な面でちょっと余裕があったせいかも知れませんね。

O : こっちは全く無かったですね。

Int : あと、原発の問題がアンケートに書かれてますけど、今はどうですか？

O : やっぱ不安ですね。

Int : そうですね。でも、宮城県はあんまり影響ないとは、よく言われてますけど。

O : でも、言われてても、結局、なんていうんですか。今年か去年の夏に、岩手県の方の小さなお子さんの尿から、セシウムが出たとかっていうのを聞くと、宮城県は大丈夫で、岩手県で出てて、えっ！？宮城県も本当は危ないんじゃないの？っていう。

Int : やっぱそういう心配はどうしても、赤ちゃんっていうか、小っちゃい子が居るとありますよね。今、現実には、何かあるって事じゃないです。気仙沼で何か検出されてとか。

O : 出た事はないです。っていうか、そういう検査って、やっていると何かあるんですかね？検査をやってくれたり、そういうこの原発問題の放射性物質っていうか、そういうのに関して一切触れてない気がするの。

Int : 最近ね、そういえばあんまり触れてないですよ。

O : 敢えてそういう様に騒がない様にしてるだけなのかな…

Int : なるほど、そういう心配がね。今、検査っていうのは、お子さんの検査って事ですか？

O : そうです。

Int : 福島は今やってますよね、一生懸命。

O : そうですね。やっても、こっちどうなんだろう？あと、宮城県でも南の方っていうか。

Int : 接してる、例えば、丸森だとか。

O : そうです。お金とかそういう問題もあったりするのかな？って思うんですけど。こっちどうなのかな？

Int : 今んとこね、大丈夫じゃないかと言われてるようですけど、接してる丸森辺りはちょっと、放射線濃度がちょっと高いみたいなので。

O : そうなんですか。

Int : 放射線の事、心配してらっしゃる方は、周りに居ますか？

O : 何名か。やっぱり、託児所のお母さん達とかです。ただ、騒がれたくないから、皆、そういう事を口にしないだけであってって言うママさん達もいます。

Int : なるほどね。そうね、今までの政府の対応を見るとね、ちょっと疑いも出てきますよね。

O : そうですね。

Int : あと、今、すごく不安だっていうのは、地震の揺れがあった時だけですか？

O : そうです。

Int : あとは、特別ないですか？普段でも落ち着かないとか。

O : それは、あんまりないです。

Int : そうですか。今、育児に協力してくれる人は、実家のご両親になりますか？

O : そうですね。たまに兄が。近くに住んでるので。

Int : そういう協力は、大体、足りている感じしますか？

O : そうですね。大丈夫です。

Int : 今、働いてますが、託児所は、きちんと確保されてるんですね。

O : そうですね。

Int : それでは、逆にこちらに質問とか、こうして欲しいとかありますか？あと、あの時行政がこうしてくれれば良かったとか、多分、いっぱいあると思いますけどね。

O : そうですね。なんだろう…。特にはないですね。

Int : 、今日はこれで終わりますので、どうも、わざわざお忙しいところ有難うございました。

Pさん：30歳代前半 経産婦

分娩日 2011年5月下旬 分娩時週数 40週

Int1：前にご協力頂いたアンケートを元にして、お話を伺いたと思います。今、お子さんの事で何か心配事とかありますか？

P：今は特にはないですね。

Int1：特にはないですか。震災後、最近まで病気とかは？

P：特にはないです。

Int1：今は病院の方にお勤めなんですよ。そちらの方で、何かあったらすぐ対応してもらえますか？

P：できますけど。かかりつけ医は普通の開業医さんなので、そちらの方なんですけど、まあ、今のところは大丈夫ですかね。

Int1：大丈夫ですか。

P：うん。それに書いてたのちよっと分かんないんですけど、上の子の方は、今でも地震が来ると、地震だ、地震だって言うので、その辺りはちよっと気には掛けてるんですけど。

Int2：地震の時おいくつですか？

P：去年だから、2歳にまだなっていない、1歳10カ月くらいかな。

Int1：地震の時は、お子さんはどちらに居たんですか？

P：保育所に居たんですけど、昼寝の時間だったみたいなんです。でも、同じクラスの子の中で、うちの子だけが地震に気付いて起きて、収まるまで先生にしがみついていた。他の子は気付かないで寝たので、その後もそんなに話しに出てこない、会った時に聞いても別にないって感じなんですけど、うちの子は、なんでこんなに怖がるんだろうと思って、たまたま先生に聞いたら、そんな感じで起きてね、敏感だね、みたいな話だったので。

Int1：地震の揺れで起きて、恐怖感としてやっぱり少し残ったんですかね。

P：だと思いますね。大きい地震っていうのが、その2日前にも多分あったと思うんですけど、その時は自宅に居た時間帯で、今借りてるアパートが、免震になってるのか、揺れをあんまり感じないんですよ。なので、直接凄い揺れを感じたのは、それが生まれてきてから初めてだったと思うので、余計なのかなとは思いますが。

Int1：その恐怖感っていうのは、段々収まって来てそうですか？それともまだ…。

P：1、2カ月ぐらい前に震度3くらいの地震があった時も、やっぱり、「あっ、地震だ、地震だ。ママ、怖いから抱っこ」とかはあるんですけど。最近、地震自体も落ち着いてきてるので、まあ、大丈夫なのかなとは思いつつも、また結構、頻繁になってきたりしたら、ちよっと分かんないんですけど。

Int1：夜泣きとか、どうですかね？

P：夜泣きはたまにはありますけど、何が原因なのかはちよっと分からない。突発的に、1回あると2、3日続いて、また治まってという感じで。ただ、震災後から、特に夜泣きが酷かったとかっていうのはないので、多分、それじゃないんじゃないかなって思うんですけど。

Int1：日常生活で、例えば、他のお子さんとの遊びが上手くできないとか、なにかありますか？

P：多分、ないと思います。

Int1：お母さんに対しての接し方も？

P：大丈夫じゃないかなと思います。

Int1：今のところは少し様子見ながらですかね。ご自身の自宅とか、地震の被害そのものは、なにかあったんですか？

P：うちの実家は津波で被災したっていうのと。

Int2：全壊ですか？

P：大規模半壊。

Int1：じゃあ、かなりですね。

P：あと、行っていた保育園も津波で駄目になって閉園した形で、その後、子どもに関しては、妊娠したので、別の認可保育所をお願いしてみたんですけど、結局、産後休暇とか、育児休暇になると入れなくて。でも、やっぱり、ちょっと大変なものもあって、他の託児所をお願いして、今、その託児所が保育所になったので、そこにそのまま、お願いしてるっていう感じなんですけど。なので、先ずその預けてたところが被災してっていう部分の環境の変化と、今住んでる自宅が、一部損壊ですね。だから、そんなに大きくなにかがってというあれはないんですけど。

Int1：そうすると、地震後も今の自宅にそのままお住まいに。

P：自宅っていうか、借家。その辺は変わってません。

Int2：津波で保育所がって事だったんですけど、お子さんはその前にお迎えっていうか。

P：津波が来る前に、私が迎えに行き歩いて帰ってきて、荷物をまとめて車で避難して、その途中で、多分あんまり見てないと思うんですけど…。川の向かい側に実家があったので、そこに行こうとしたら、もう川が氾濫していて行けなくて、山越えて別のルート行ったら、今度は向かい側から、津波が来てUターンして戻って、旦那の実家がまた別のところにあるので、そっちだったら大丈夫じゃないかっていうので、行こうとしたら、またそっちからも津波が来てっていう感じで。もし両方駄目だったらここだって思ってたところがあったので、結局、そこに行った後、高校の方に避難したんですけど。その辺りで、もしかすると、若干見た感はあるかな？

Int2：お子さんがですね。

P：津波だとは、分かんないと思うんですけど。私も津波ってのは、はっきり言って分かんなかったんで、水道管破裂してんのかなみたいな感じで。あとは、避難所生活が1カ月ちょっと続いたので、外とかであんまり遊べないイライラ感とか、その時にはありましたね。私と子どもは、職場と保育所が近かったんで、そういう感じで避難したんですけど、旦那の方が、被害の大きかった鹿折地区で働いてて、結局、数日間連絡取れなかったんです。そういうのがあったので…。

Int1：皆さん、その心配が大きかったんですかね。

P：私も心配だったし、子どももお父さんが居ないっていうのは分かってたので。私も記憶が定かじゃないので、何か言ってたかまでは、ちょっと分かんないんですけど。そんな感じですね。

Int1：(アンケートの)ここ1カ月の社会資源っていうところで、地域の子育て支援場所の利用。これは、上のお子さん、下のお子さん一緒に連れて行かれてるんですか？

P：多分、児童館だと思います。

Int2：行ける時はそういう支援センターにも…。でも、もうお仕事されてるからなかなか難しいですかね。

P：仕事してて、土日休みだけなので。まあ、殆ど土日は家で一緒に居たりとか、イベントみたいな何かあるってなれば、児童館に連れて行ったりとか。

Int1：児童館では、何人か知り合いの母親の方と一緒にということもあるんですか？或いは、お子さ

んと遊ぶ形で。

P：どっちもあつたりなかつたり。行ってる児童館の館長さんが知り合いで、その娘さんが来ると、同級生なので一緒に遊んだりとか、2つ位上の子も居るんで、少し遊んだりはしてますけど。まあ、お互いに知ってる人が居なくても、子どもは普通に遊ぶので、子どもを通じて、話したりっていうことがあつたりします。

Int1：そうすると、色んな子育て支援とか、そういうのとは別なんですね。あくまでも遊びの方ですか。

P：そうですね。

Int1：因みに、予防接種は何を受けたんですか？今回は。

P：なんだろうな？すいません。

Int2：いっぱいあつてなかなか思い出せないですよ。ただ、順調に受けれてますか？

P：全然。上の子はいいいんですけど、下の子が全然。

Int2：それは、やっぱりお仕事をされてるからとかではなく？体調ですか？

P：1回、ヒブか肺炎球菌か、どっちかの時に、1カ月ぐらい下痢が続いたりして、それでもう予定が狂っちゃって。そうこうしてるうちに、仕事が始まって、託児所に預けると、熱出たからとかで、結構、私も休みを使ったりしてて、なかなか行く時間がないのと、子どもの体調がきちんと整わない。予約を入れても、予約を入れると感じ取るのか、体調を崩すみたい。

Int2：なかなか難しいですよ。お母さんの時間とお子さんの体調を合わせるのは。

P：そうですね。

Int1：あとですね、ご主人との関係では、満足って事ですが、具体的には、どの様な事で満足感がありますか？

P：普通に。いつもなんでも話しをするので。

Int1：そうすると、色んな相談事を聞いてくれるという事ですかね。

P：ああ、そうですね。子育てっていうか、そういう育児関係とかも。私、今3人目を妊娠してるんですけど、つわりがちょっと辛くて、そういう時も、家事をやってくれたりとか、作るのが嫌な時は、自分でどうにか手配して子どもに食べさせてくれたりとかっていうのはあるので。他のお母さんとかと話しをすると、うちの旦那は何もやらないとかっていう人が多い中で、結構やって貰ってんだなみたいな感じで。

Int2：失礼ですが、ご主人とは同じ職種ですか？

P：そうです。リハ職で、私がOTで、旦那がPTです。

Int1：お互いの仕事を理解してて、このようにやってくれてるんですかね。

P：まあ、どうなんだろう。(笑)

Int1：震災前と震災後で、そういう変わりはないですか？震災後の方がよりやってくれたりとか、震災後はちょっと忙しくて難しいとか、色んな話しを聞いてくれたりとか、或いは、子育ての方でより手伝ってくれたりとか。

P 特に変わりはないかな。

Int1：つまり、今の子育てとかその話しを聞く事に関して、あまり変わらない。

P：変わらないです。かえって、うちの人の方が、職場で津波にのまれて、生死を皆さんと彷徨ったという感じだったので、未だに津波の夢を見るって言うんで。

Int1：そういうのは大丈夫ですか？

P：まあ、大丈夫だと思う。「夢見たんだよね」みたいな感じで話してるので。まあ、今んところ大丈夫かな？ちょっと鬱々としてくる感じとか、仕事とかなにかに影響がってなったら、やっぱりちょっと考えますけど、そういうのはないの。

Int2：ご主人は、津波にのまれた中から自分でどうにか脱出したんですか？それとも、津波が来たところを上へ昇って行って逃げたとかなんですか？

P：話を聞くと、施設勤務なので、施設の利用者さんを普段は電動リフトで入れるんですけど、地震で全部が止まったので、まず浴槽から引き出して上げるところから始まって。あと、1階にいた方を2階に誘導して、そうこうしてるうちに津波が来て、自分は、ダンスっていうかの上に乗って、利用者さんも引っぱり上げて、寒い中1日ちょっと水に浸かって。あの、よくテレビでも出る、船がこう行き交うっていうか、行ったりするのを見てたりとか、利用者さんで一人流されてしまった方が居るんですけど、なんか、ベットが流されてったからあれだな…みたいな感じで見てたりっていうのを聞きました。

Int1：今は、特に問題がなければいいと思うんですけど、なにかあれば、どっかに相談した方がいいですね。

P：そうですね。一回「大丈夫なの？」って聞いた事はあるんですよ。そしたら、多分、大丈夫っていう話しはしてたの。

Int1：なにか、震災時のフラッシュバックとかそういう事はない訳ですね？

P：ないみたいです。

Int2：でも、心配でしたよね。連絡が取れなかったですからね。

P：はい。子どもを迎えに行ってなんて言って、ちょっと無理かもっていうのが最後で、その後、メールしても来ないんで。まさか、津波でそんなことになってるって思わなくて、もう水没してて連絡付かなかったみたいなんですけど。避難所に行ったら、鹿折地区はもう全滅だから希望は無いみたいな情報が入って来て。ああ、終わったなみたいな。一瞬、子どももお腹に居んのにどうすんだ、みたいな感じで。でも、その後に職場の先輩から、その施設の人達が、どこどこに避難したっていうのをラジオで聞いたよって聞いたので、もしかしたら行ったら居るかもしれないって思って、2時間くらいかけて歩いて…。

Int1：歩いたんですか？

P：私が歩いて行ったら、向こうは向こうで、なんかちょうど病院に来る人が居たから、病院に行けば死人とかの情報を得られると思って、一緒に病院に行つてという様な、結局、すれ違いで。でも、次の日に、何時にどこで待ち合わせっていう話しをして、そこで落ち合つて、やっと会えた。

Int1：そうだったんですね。先程の話では、育児に関しては、十分に協力は得られてるっていう事ですね。

P：そうですね、はい。

Int1：それはやはり、自分の支えになってるっていう事になりますね。

P：支えになってんのかな。あんまり自覚としては分かんないですけど、ずっと同じ感じなので。

Int1：やはり育児に協力してくれる方っていうと、ご主人以外にどなたになりますか？誰か、友人とかもそういう色んな相談には乗ってくれるんですか？

P：今のところは、協力っていうのは主人くらいかな。なにかあった時には、友達に聞いたりだとか、「うちでこうなんだけど、どうだった」みたいな話はしますけど。相談できる人は居ますけど、協力をあまりこっちも求めないので、そういうのは特にないですね。

Int1：今、そういう育児に関して、特に困ってる事はないですか？具体的に、相談したい事とか。

P：今はないです。

Int1：今はないですか。これまではなにかありましたか？

P：これまで育児に関してっていうか、結局、保育施設をどうするかっていう部分。今、託児所から保育園になったところに、お願いしてるんですけど。結局それも、場所が何回も変わって、また変わってっていうのも上の子が可哀そうだなって、折角、友達も出来てきたのに、って思うところがあって、下の子どももそこをお願いしてるんです。でも、そこも被災した施設で、新しく仮設の園舎は建てて貰ったんですけど、他の園の園舎とかに比べたら、やっぱり、そんなにしっかりしてない部分とかあったり、先生の数も普通のところと比べたら少ないのかなっていうところがあったりして、そのままにしててもいいのか、それとも、認可保育所をお願いした方がいいのかっていうところは悩んだりしたんですけど。

Int1：そういう選べる場所っていうのは、結構、ある事はあるんですか？

P：あんまりないですね。震災で何ヵ所閉園したのかな。閉園してる場所もだし、今はもう、下の子が1歳過ぎたからいいですけど、何ヶ月以上じゃないと預かれないとか、住んでるところから遠いとなると、仕事行く時の送迎が、結構大変だったりとかするので、結局はあんまりないですね。

Int1：ご両親なんかでは、難しいんですかね？

P：うちの両親は、まだ働いてるし、祖母は80歳を超えてるので、腰痛とか色々あって、難しい。旦那の方の家族も、父親がまだ働いてて、母親と婆ちゃんはもう亡くなってるのと、爺ちゃんはもう高齢で、面倒みれる環境ではないので。うちの実家は、仮設住宅なので狭いし。だから、環境的にも、人員というところでも、ちょっと難しい部分があるんで。そうやってみて貰える人が居れば、一番、お金もかかんないですし。

Int2：越したことはないですよ。

P：うん。わがままも言えるので、いいんですけどね。

Int2：1歳の下の子が入る時は大丈夫でしたか？結構、ハードルが高かったですか？

P：1歳の子の時は、予め、もうお兄ちゃんが行ったので、1歳過ぎたらそっちにお願いしますって事で。私、8カ月くらいの時から、もう仕事に復帰したので、そんな時は、下の子だけまた別な託児所に。前に、上の子が行った保育所の先生達が始めた託児所で、未満児でもいいっていう事で、そこに一旦お願いしてたんですけど、やっぱり2箇所の送迎はちょっと離れてるので大変だったので、下の子も移動したんですよ。だから、その辺があればいいかなと思う。

Int1：通ってる保育所の保育士の方に、育児の相談をする事ってありますか？

P：それもありますね。

Int1：あと、お父さんが、自分の事や気持ちを分かってくれたり、相談に乗ってくれたりするんですか？

P：ああ、そうですね。相談というか、今こういう感じなんだけどさ、みたいな話をずっと、お前もそうだったし、妹なんてもっと酷かったから、みたいな感じの話とかしたり。

Int2：お父さんと良い関係ですね。

P：今となると、母親とも結構、話をしますけど、どっちかっていうと、父親の方が仲良いです。自分が爺ちゃん、婆ちゃん子だったんですけど、その次はお父さん子だったので。聞くと、夜泣きしてても、起きるのはうちの父で、母は寝ててみたいな感じで。そういうところが関係するかも分かんないですけど、お父さんの方が話はし易いですね。

Int1：今、お子さんの遊び場ってのは、どこになるんですかね？

P：遊び場は、保育所がメインで、あとは家の中。最近ちょっと寒くなってきましたが、休みの日に天気が良ければ、近所を散歩したり、近くにも公園があって、やっと泥とかも大丈夫になったんで、その辺に遊びに連れてったりとかですね。

Int1：そんなに遊び場には困らないですか？

P：困ってないのかな。上の子は、外で遊ぶのも好きなんですけど、新幹線とかそういう方が好きで、家の中でプラレール走らせたりしていて、かえって下の子の方が、自分で靴履いて外に行きたいみたいな感じだけど、まだ遊具とか使える年代じゃないので。

Int1：保育士の方も居るようなんですけど、それ以外の専門家っていうか、なんかそういう人に相談する場所、或いは、人とか居ますかね？

P：仕事を休んでた時であれば、保健センターでやってる子育て相談には来てたんですけど、平日にしかやってないので、今は、特にはないんですけど。ただ、それに来てた時には、保健師さんとかに話しました。

Int1：そういうのは、結構、役に立ってましたか？

P：役に立つもんと、やっぱりねっていうのと。

Int1：そうですね。今なにか相談で、まだ少し誰か居てくれたらいいなっていう様な人は居ますか？自分が困った時に、今のサポート体制で十分なのか、或いはまた、どういう人が居ればより良いとか。

P：自分の場合は、もう保育所とかにお願いしてるので、それで殆ど満たされてる様な感じはありますよね。あと、たまに予防接種とかで行く小児科の看護師さんとか、先生とかに、子育て相談じゃないんですけど、病気の事とか、気になる様な事とか、症状があれば話して、聞いて貰ったりするので、今のところは大丈夫。

Int1：身体的な事や精神的な事で、最近、ここ数カ月のうちでいいんですけど、気になる様な事は、なにかありますか？アンケートでは、気分がちょっと悪いとか、或いは疲れた感じがあるっていう様な事に印がつけられてますが、これは特に震災後ずっと続いている訳ではないですか？それとも、ずっと前から少し続いているんですか？

Int2：お仕事をもう始められてる状況だったと思いますが。

P：疲れてる。なんでだろうな。多分、疲れはずっとじゃないと思うんですけど、保育所と託児所とまだ2箇所の送り迎えと、あとは、それぞれ持ちものが違うので、そういう準備とか。

Int1：少なくとも、震災の尾をずっと引きずってというのは、ないですね。

P：うん。あと多分、なんだろうな、この感。ストレスとかっていうのか分からないんですけど、震災後に祖父が亡くなったんですよ。震災が100%のきっかけじゃないんですけど、避難所に居て、ずっと、訪問看護師さんとか利用してたんですけど、避難所に居たし、そういうケアしか受けられなくて、そっちのが原因で入院する様になって、結局9月に亡くなってっていう様な感じで。先程もお話した通り、私は、特に爺ちゃん子だったんで、かなりそこのショックっていうのが、大きくて。この間1周忌が終わっても、未だにやっぱりちょっと駄目なので、それもあると思う。

だから、震災がなければ違ったんじゃないかっていうのも、やっぱり自分の中にもありますし、避難所とかにも行かなくて済んだので。

Int1：そういう、避難所に行かれて、高齢の方で、亡くなる方も、結構居ましたもんね。ご自身は、震災によって、例えば、ご主人の様に夢を見たりですとか、震災による直接的な影響っていうのはないですか？

P：たまに。結局、後から知った情報でっていうか、映像とかを見て、あれは津波だったんだっていうのが、自分の中に入ってきてて、また地震があった時に、んじゃ、この人達とかを抱えて、どうやって逃げればいいんだ、とか、次に地震があったら、同じくらいの津波だとしても、あの湾のところは何もないから、もっと奥まで津波が来るだろうっていう話もされるんで、そんな時、果たして自分は逃げれるのかって思うので、たまにその津波の夢とか見たりして…。自分の想像の中の津波と、あと映像で見て入って来たもので、そんな時にどうやって逃げる、本当に逃げれるのかなって考えたりとか、同級生とかもちょっと亡くなったりしてて、やっぱ、急に水圧で押し潰された感じで亡くなってるっていうのがあるから、そういう風になったらどんだけ苦しいんだろうとか、そういうのを考えると寝れなくなるっていうのはありますね。

Int1：そういうのは大体、頻度としてどのぐらいなんですか？

P：この間までは、1カ月か、2カ月に1回ぐらいかな。ほんとに、1カ月に1回ぐらいはあったんですけど、最近は大丈夫。そういう夢を最後に見たのは、半年ぐらい前かな、半年までなかったかどうか分かんないですけど。

Int2：そうですね。少しずつですね。

Int1：次に、上のお子さんと、下のお子さん、子育てをするに当たって感じる不安とかなにかありますか？震災時は、下のお子さんは、お腹の中に居らっしゃったと思うので、そういった意味で、なにか違いとかは。今の段階で。

P：違いはないとは思いますが。

Int1：震災以降でも、特に変わらなく、同じ様な感じって事ですね。

P：うん、子どもに関しては、殆ど、同じ様な感じ。ただ、上の子は、最初にお話した様に地震が来るってという部分がありますね。

Int1：そうすると、上のお子さんは、まだちょっと不安っていう面があるんですかね。

P：あるのかなって思うんですけど。どう？って聞いても、100%きちんとした答えは返って来ないので。分かんないですね。

Int1：その辺は、もう少し日常生活を見ながらですかね。

P：とか、やっぱり地震が本当に来てる時の反応を見てっていう感じですかね。普段はやっぱり、なんにも言わないので普通なんですけど、地震があると、「あ！地震だ、大きくなるから怖いよお」っていう感じにあるので。

Int1：なにか、その事に対して相談する機会とかあるんですか？またちょっと前の話しに戻りますけど。お子さんがそういう不安な時に、どこかに相談できるとか、専門家に相談できるとか。

P：親自身が、そこまで相談する必要がないと思ってるので、まだ。

Int1：母親としては、そんなに相談する事でもないから、少し様子を見てって感じですね。

P：そうですね。

Int1：分かりました。今、一番は、先程のお話からあった様に、保育施設が少ないって事ですかね。

P：保育施設は少ないですし、アンケートを記入してる時には、願っていた保育所、託児所も、本当の倉庫を間借りしてやってた様な感じで、水周りとかも全然なくて、環境的にもよくなって。その後、7月後半から、9月上旬にかけて、支援して下さる建設会社さんっていうかが居たんで、建てて頂いて、きちんと水回りとかも整備してある建物になったので。

Int1：それで、そういう整備ってとこなんですかね。今は、それは、大分良くなったんですか？

P：自分が預けてるところは、今は、大丈夫にはなりましたが。それでもやっぱり、実際にまた来年

に3人になると、今のところは認可保育所じゃないので、割引制度があるとかそういうのもなくて、負担額が大きくなるし、認可保育所を考えてるんです。そうした時に、認可保育所が果たしてあるのかなってところが…。

Int2：そうですね。またもう一人増えたらですね。

Int1：この（アンケート上での）収入面って、そういう事も含めての収入面の不安って事なんですか？

P：その収入面は、まあ落ち着いてきたのかな。その時の後に、9月くらいから落ち着いてきたと思うんですけど、旦那の行った職場が被災して、収入が半分ぐらいに減ったんですよ。私は、こん時には仕事復帰して大丈夫だったんですけど、前年度分は、ほとんど育児休暇とか取ってたからじゃない状態で、震災で旦那の方もなくてっていう、ボーナスもまだないですし、だから、かなり減って。ああ、どうしようって感じの。

Int2：旦那さんの職場は変わったんですか？結局、どこか別の。

P：施設自体は、ずっとそのままやってるんです。同じ法人の別な敷地を借りてやって、その後に、別の仮設の施設を建てて、今、新しくその近所にまた建ててるんです。震災前までは、入所の方と通所の方のリハビリっていうか、その仕事を中心だったのが、震災後は訪問する形に変わってっていうのとかがあって、仕事のその形態っていうかは変わったんですけど。

Int1：（アンケートで）この食材の安全性っていうのは、やっぱり放射線の問題ですか？

P：それはですね、今は、大分もう考えてないですけど。うちの人の方が、結構、気にしてて。

Int1：ご主人の方が、ですか？

P：うん。大丈夫だから市場に出回ってんだよって言うものの、でも、本当に大丈夫かねみたいな感じには、思いますね。

Int1：ここに書かれている事以外で、子育て、或いは、子育て以外の事で不安とか、なにか気になる事ってありますか？

P：気になる事は、今は特にないな。

Int2：ちょっと私、聞いてもいいですか？出産されたのが5月の末なんですけど、その時の状態では、育児の支援とかはどうでしたか？もうちょっと、こういう支援があったらよかったとか。今は、あんまり思い付かないって事ですけど。

P：その時には、育児に必要な物品っていうか、店も開いてない状態だったということと、店が開いても、おむつひとつ取っても、結構制限があったり、粉ミルクも何缶までとか、なんかそういうのもあって、どこでそういうのを仕入れるっていうか、手にしてったらいいのかなっていうこと。ただ、ずっと避難所に居て、妊娠してるっていうのは、周りの方も知っていたので、そこの物品を管理される方に、「ここにあんまりもう赤ちゃんとか、そういう子が居なくなってきたし、余ってるから粉ミルクあげるよ」とか、そういうので頂いたりとか。あと、おむつも避難所で中途半端に使って余ったやつを、これあげるからとかそういう感じで頂いたのとかがあったので、かなり助かりましたね。あとは、職場の人とかが、離乳食とか、そういう先々のやつとかを調達してくれたりとか、友人が持って来てくれたりとか。そういうのもあったので、助かったところはありますけど、やっぱり、そういう物をどうしたらいいかっていう部分と、生まれたはいいいけど、病気とかあった時、その時はI病院しかなかったんで、その子どもの医療っていうか、親はなんとでもできると思うんですけど、新生児の医療面とか、どうしてったらいいのかなっていう部分ですよ。他、思ってたのは、その時も、もし万が一、自分とかが体調壊したら1歳未満児をみてるところが、病院以外であるのかなとか。

Int1：そうですね。その不安っていうのは、いつ頃までありましたか？病院みてくれないとか、出

産後のどのぐらいまでそういう状態が。

P：出産後、元の。I 病院も勿論、定期健診とかは行ってましたけど、今も行ってる開業医の先生のところ、再開したのが、確か 10 月ぐらいだったと思うんです。他にも小児科あるんですけど、そこよりも I 病院とその開業医の 2 カ所を思ってたので、10 月くらいまでかな。あとは、ガソリンが安定してきてとかなってからぐらいですね。

Int2：少し前後しちゃうんですけど、避難所には行かれましたよね。その時、お腹の中に赤ちゃんが居らっしゃって、上のお子さんも居たと思うんですが、周りの皆さんはどうでしたか？妊婦さんに対してなにか、配慮なんかはありましたか？それとも、ちょっと肩身が狭いような。

P：私から言いました。寒い時期だったのもあるし、上の子と二人っていうのもあったので。毛布一つにしても、自分もですけど、やっぱりお腹の子も上の子もいたので、「すいません、譲って下さいって、こうなので」という感じで、自分からもう言わなきゃだなんて思って、自分から言って貰ったのと、あと、やっぱり周りの人も、お腹大きくて妊婦なんだねっていうので、「ここが温かいから、ここさ代われ」とか、そういう声が掛かったので、そういったところでは別に大丈夫でしたね。普通に避難所に居た時も、うちの子もなんか可愛がられる性格なのか、皆さんにおやつを貰ったりして、結構遊びまわってっていう感じだったので、かえって避難所で太ったみたいなの、子どもは。なので、そのあたりは大丈夫でした。

Int2：そうでしたか。診察とか、妊婦健診はいつ頃できましたか？

P：診察は、ちょうど 1 週間後だけに、定期健診の日だったんですよ。ですけど、そんな時には張りとかが強くなって、ひどくなければ来なくていいですって言われて、その 1 カ月後ぐらいだったかな。

Int2：それまでは何もなしですか？

P：しない。もし、おかしくなっても変化があったら…。

Int2：来てみたいなの。

P：はい。そうですね。でもやっぱりその…。

Int2：心配でしたよね？

P：心配ってよりも、清潔面が保てなかったのが、かなり、陰部不快感、痒みとかがあって、その後に、やっぱり少し感染症の気があるから、清潔にしてね、みたいな感じで、すごい話されたんで、その辺はやっぱり大変でした。

Int2：例えば避難しているところで、もうちょっと早く診て欲しかったっていうような不安というよりは、やっぱり清潔を保てるようにしたかったっていうことですね。なにかあったら行けばいいっていうくらいの気持ちで。P さんの場合、職業柄もあるのかも知れないですけど、経産婦さんなので、赤ちゃんが元気かっていう診察よりは、清潔面とかがもうちょっと確保できた方が良かったかなという感じですかね。

P：うん、私はどっちかという、そっちの方が、ですね。避難所と病院も近かったんで、なにかあればすぐ行けるっていう感じの安心感があったからいいんですけど。水がっていう部分と、お腹が大きいので、清潔にって言われても、なかなか手が届かないっていうか、なんかそういうのがあって、やっぱりちょっと大変だっていう。そっちの方がやっぱり強かったですね。

Int2：清潔面ですね。分かりました。あと、なにかおっしゃっておきたい事とかありますか？なにかこれとって限った事じゃなくても結構ですけど、最近のなんかご要望とかあれば。やっぱり保育所ですか？

P：うん、保育所関係。私の中では、そうですね。他のところは、どうにかこうにか見つくるってきた

ので。

Int2 : 分かりました。今日は、どうもありがとうございました。

Qさん：30歳代前半 経産婦

分娩日 2011年4月上旬 分娩時週数 39週

Int：Qさんは震災があったときは、2人目のお子さんを妊娠中だったんですね。そして、震災の1ヶ月後に2人目のお子さんを出産なさったんですね。

Q：そうですね、11日に破水して12日に産んだので本当にひと月後ですね。

Int：そうですね。震災前まではかかりつけ医がM病院でいらして、そこで出産なさるおつもりで…。

Q：予定でした。1人目がそこで、何も別に困ったこともなかったの、そこで産むつもりでした。

Int：今回は、震災の影響で、別の病院へ紹介されてという形で。

Q：M病院が絶対に津波でやられるだろうっていう場所にあったので、震災後、ガレキもあるし、私が見に行けないから夫に行ってもらって、そしたらM病院の玄関のところに、I病院の先生には言っているの、各自で行ってくださいっていうふうに書いてあって。それで、I病院に電話して行ってみたいっていう感じですね。

Int：I病院に移られて、そこで無事に出産なさったんですねけれども、そのときの対応について、アンケートにも書かれてますが…。

Q：それは、しょうがないことではあるけれど、でも何か言って欲しかったなって思うのがあって、結局、M病院とやり方が違うから、そこで戸惑った面があったんですね。

Int：もし差支えなければ、そのときのことを詳しくお話いただければ。

Q：研修医の人が見てたりとか。あと、そこに書いてなかったかもしれないんですけど、カンガルーケアとかってさせられて、でも別にそれも私が望んでなかったの。最初生まれてくる前とか、ちょっと子どもの心拍が下がってるみたいとか言われて、生まれてきてもすぐに泣き声を発さなかったりとかしてすごく心配だったのに、ハイハイハイハイってカンガルーケアさせられて、あとみんな居なくなって、そういうニュースをいっぱい見てたから、ここでもし黙って静かになって、このままだったらどうしようと思って、すごい心配になったりとかして。いくらなんでも、ちょっとは時間があったんだから、なんかもっとその話はしたかったなと思う。本当に緊急で行ったわけではないので。

Int：説明が不足していた感じがあるんですね。

Q：たぶんI病院では、バースプラン的なものをもっと早い段階で妊婦さんと話をして決めてたと思うので、その時点ではもう話していただろうって、出産に携わる人たちがそう思ってたと思うんですけど。

Int：今から思うと、その辺のやり取りが。

Q：なんかちょっとなって。無事に生まれたことにも罪悪感がある時期だったので、そこでなんか無事に生んでしまったっていう不思議な気持ちの中で、そういう研修医の人とかが、股の辺りでウロウロされると、本当に過敏にイライラしたりとかっていうのが、多々ありましたね。

Int：そうでしたか。すごく嫌な思いをなさって…。

Q：それが何かにつながるんだからしょうがないよなって思うんですけど。だからそれは、そこに書いてすっきりして忘れようと思って書いた感じ。

Int：そうでしたか、なるほど。あんなに大きな震災の前後に妊娠、出産っていうことがあったわけで、もちろん不安になるのは当たり前なんですけれども、眠れなくなったりとか、本当にイライラしたりとか、そういったことっていうのは、何かございましたか？震災後、特にそういったことは？

Q：イライラはなかったですけど、1 番ずっとずっとと思って、1 年ぐらい自分の中でずっと消化できなかったのは、生きててごめんなさいっていう。無事にお腹の中に生きてる命が今あって、2 つの命を自分が今持ってて、無事に生んで育てててことをごめんなさいってずっとと思ってました。

Int：今もそれは。

Q：親戚で同じ時期に妊娠して、同じ時期に出産する予定だった子がいて、その子が亡くなったんですよ、震災で。1 年経った頃に、その子のお兄さんのお嫁さんが出産したっていう噂を聞いて、それでも、私いいやって思って、その話を聞いてちょっと吹っ切れたんですけど。私が負い目をもっているもんじゃないんだ、もういいやって思って、そこからなんかあんまり…。それまでは、しょっちゅう震災のことを夢に見たりとかしてたんですけど、全く見なくなったので、自分の中で何か消化できたのかなってそのときに思って。

Int：そういう罪悪感というような、そういったお気持ちっていうのは、今から考えると震災によって…。

Q：そうですね。周りから誰が死んだ、誰が死んだって。

Int：ご親戚の方もね。

Q：何人も。友人も亡くなったし。

Int：お一人目のお子さんのときはそういった思いはなかったんですね。

Q：なかったですね。

Int：そういう経過があったということで、ずいぶんお辛かったんじゃないんですか？

Q：でも、家族を亡くしたり、家をなくした人に比べたらいいのかなって思うし、そう思わないといけないとも思うし。

Int：お家は確か一部…。

Q：一部っていっても、なんか壁紙が破れたぐらいで何か問題があるっていうふうでもなくて。

Int：そうですね。じゃあ、十分に継続してお住まいになれるような状態だったんですね。分かりました。今から思うと、こういった混乱した状況の中で、本当に生まれたばかりのお子さんと、あと上のお子さんがそのとき 2 歳でしょうかね。

Q：1 歳 8 カ月ぐらいかな。

Int：そうすると、ちょうど目が離せなくなって危ない時期ですよ。そういったときに、例えば日々の買い物ですとか、いろいろ用事があるときなんかは、どのようにされてたんですか？

Q：それは、私の場合、全部実家の母に託してました。

Int：ご実家は近いんですか？

Q：近いんです。すごく近くて、実家も無事だったので、うちも無事なのに、夫も子どももみんな、実家に行って、ちょっとでも人がかたまってた方が、何かと便利だったので。1 人目のときが、36 週で生まれてちょっと早かったんですよ。それで、次も早いかもしれないから気を付けてねって先生に言われてて、でもこんなことが起きたから、なるべく世の中が安定するまでは生まれてほしくないって私も思ったし、みんなも思ってたので、とにかく私のことは取りあえず寝せておいて、買い出しとか子どもの世話とかは全部他の人がやってくれた状態でした。

Int：そうですね。他の人というと、お母さま以外にも。

Q：お母さんがほとんどですけど、割とお祖父ちゃんもおんぶしたりして。

Int：じゃあ、ご家族、ご親戚の協力でその時期を無事に過ごしたと。今から思うと、例えばこういっ

た支援があると、もっとよかったのになってということはございますか？

Q：こういった支援っていうか、別に市役所本体自体が被災したわけでもないんだから、妊娠した人がどこにいるっていう情報はあったと思うんです。なんのために妊娠届って出すんだろうって思って、なんの情報もないまま、こっちで探して、病院行ってみたいな感じだったから、ちょっとそこからして。

Int：そこからして、ちゃんと提出すべきものは提出しているのだから、いろいろな情報をね。

Q：何のためにあるのかなって。そういうのって何の共有もなされてなかったんだって、そこにまずびっくりして。

Int：具体的には何をするのに困ったとか、例えばありますか？他に。

Q：動けないので困りましたよね。車も運転もできない状態だったし、1人で生きていけないし、私は家にいたからいいですけど、もし避難所にいたんだったらどうなっていたのかなと。お風呂はどうだったんだろうとか、トイレはどうだったんだろうとか。

Int：妊娠している人が、ここに住んでるよってというような情報が役所にあるのだから、車も動かないし、物資もってというようなことを考えて、その情報を大事にして、ちゃんとしかるべき支援をしてほしいっていうことでしょうか。

Q：私は、まだ恵まれていた方だから、そういうふうに思うのかもしれないですけど。

Int：そうですね。ご家族が近くにいらっしゃったので、いろいろとサポートを受けることができたけれども、もし…。

Q：もし本当に、夫も帰ってこなくて、親もそばになくて、子どもと2人でいたら、どうだったのかなと思うと、本当に怖いですね。

Int：ご主人は、震災の影響で戻って来れなかったりしたんですか？

Q：うちは、すぐに戻ってきました。もしそうだったらと思うと本当に。なんか、臨月のお腹で、子ども抱っこして、炊き出し並んだとかなんとかっていうのを聞くともう。

Int：お友達で？

Q：テレビとかでよく聞くじゃないですか。なんか、もし、私だったらもう無理だったなっていうか、たぶん早産とかで生まれてたんだろうとか。

Int：実際に、その被害の状況とといいますか、体験なされたのは…。

Q：私は何も見てないんです。家にいたんです。ただ揺れて、家が壊れるって思ったぐらい。壊れなかったから、ああ、よかったみたいな感じ。

Int：じゃあ、地震の揺れという体験をなされたわけですね。

Q：気を失いそうになりながら。2回ぐらいフッと意識飛んで、でもここで転んだらやばいと思って。

Int：揺れてるときですか。

Q：揺れてるときに“ふぁ〜”となって、もう駄目だ、転んだらお腹が…と思って、意識飛ばないように、なんか叫んでみたりとかして。

Int：そうでしたか、そのときに上のお子さんは？

Q：実家に1人で置いてて、私は私で自宅にいて。

Int：そうだったんですね。ご実家は近いんですか？

Q：すごく近いです。車で5分ぐらい。

Int：じゃあ、歩ける距離ですね。

Q：歩くのはちょっと、坂があるので無理かな。

Int : そうでしたか。それで出産を I 病院でなさって、何日ぐらいで退院を。

Q : 普通に 5 日ぐらいで。

Int : お戻りになってですね。今まで通りに生活は、家族でできたってということですね。今もうご出産なさって 1 年半ぐらい経ちますけども、お二人目のお子さんでしたが、例えば産後に助産師とか保健師が 1 カ月訪問みたいな形で何うと思うんですけれども、そういった支援といたしますか…。

Q : 1 回来ましたね。

Int : そのときに十分にお子さんのこととか、いろいろなこと相談できましたか。

Q : あんまり上の子ほど手が掛からなかったもので、普通にお話しして、さようならみたいな。

Int : 子育ても順調に過ごされて。今日は、お子さん達はどちらに？

Q : 実家に預けてます。時間も時間だから昼寝の時間だなと思ったので、実家に 2 人とも先に連れて行って、ご飯食べて、寝せて出てきたっていう感じです。

Int : 今もご実家の協力を得ながら、何かあるときは頼ってということなんですね。一時預かりに困っているとか、そういったことは。

Q : ないですね。

Int : ご家族のご協力が得られてるんですね。はい、分かりました。あと、他の方へのインタビューでいろいろとお聞きしたのは、避難所への支援っていうのは、結構いろいろとあるみたいなんですけれども、お家が無事だったりすると、そういった支援が薄いといいますか、そういった印象を話される方が、結構多いんですが…。

Q : 本当にはないですね。市からいただいたことなんてないです。

Int : 物資ですか、それは。

Q : 何も情報も普通の広報とか以外で来たことはないし。別にうちでもらいに行ったりとか、情報聞きに行ったりすることもないですけど。もらった人、避難所とか仮設に入ってる人がうちにちっちゃい子がいるからとかって言って、多めにもらってきてくれたりするのをもらったりとかっていうのはありますけど。

Int : 例えばこの震災によってご主人さまのお仕事に何か影響を受けたとか。

Q : ほとんどないですね、ほとんどないっていうか、会社自体は流されてしまったんですけど、2 週間ぐらいでプレハブ建てて再開したので。

Int : その分残業が増えたとか忙しくなったりとか。

Q : むしろ残業減ったので、一時何か月かは結構基本給しか出ないから、ちょっとやりくり大変だよなみたいな感じはありましたけど。

Int : でもお給料はちょこっとは下がったけれども、早く帰ってくるようになったということで。

Q : 普通にもし何もなくて生まれてたら、夫がむしろ残業でもともとすごく遅かったの。

Int : 遅いっていうのは、大体どのぐらいなんですか。

Q : 早くて 21 時とか 20 時とかで、遅いと午前様みたいな感じで。

Int : ほとんど夕飯は一緒に食べれないような感じで。

Q : お風呂入って先に寝てます。だったので、出産して退院したら、すぐに自宅に帰って子どもと夫との 4 人暮らしに戻るつもりだったので、どうやって子どもを 2 人お風呂に入れたり寝かしつけたりしようって思ってたんですけど、震災があつてまず 1 カ月は、普通に早く帰って来てくれたので、何とかお風呂のことは心配せずに済んで、それだけは震災様々だったねって言って。

Int : もともとじゃあそういった勤務体制だとご主人が育児を手伝ってくださったりとか。

Q : 意外とします。だから、私は恵まれてるんです。実家の母も側にいて手伝ってくれるし、みんなやってくれるので。

Int : そうなんです。もともとご主人からのそういった支援は。

Q : ありますね、もともと。何でもできます。

Int : ご主人に対しての満足度が「大いに満足」ということで、1 番高かったんですけど、そういうことがあるんですね。これご主人に見せてあげたいですね。奥様がこういうふうにしてらっしゃいますって言って。

Q : 大いに満足ですよ。「だべもの、おれやってるもの」って言うんじゃないですかね。

Int : そうすると、育児のこととか、今回の震災のこととか、嫌な思いなされたこととか、そういったことも、ご主人とはいろいろお話しされたり。

Q : いろいろ言って、すっきりしてっていう感じで。

Int : そうなんです。分かりました。普段、ご主人が忙しいと、育児のことはなかなか難しいですか？

Q : 私、毎日育児日記として「今日、何があった。お兄ちゃんが何をした。弟が何をした。」みたいなことを書いてるんですけど、家に夫が 0 時とか遅くに帰って来て、1 番最初にするのが、それを必ず見る事なんです。それを見るのが楽しいみたいで、子ども達の成長をちゃんと私と一緒に共有してみたい。何ができるようになったんだねとか。

Int : 2 回目のアンケートで、ちょっと気分や健康状態が悪かったっていうところに印がありますが…。

Q : その時のって書いてあったので、本当にその時のことを書きました。なんか友達とちょっとギクシヤクっていうか、もうご飯も食べたくないっていう時期があって。

Int : それでなんですかね。そういうことがあったけど、今はもう大丈夫ですか？

Q : もういいやと思って。

Int : 悩みとかそういったことがあっても、相談できる方に相談をしたり、考えたりして、クリアしていらっしゃるっていうことですね。はい、分かりました。このとき、体調も悪かったんでしょうかね。

Q : ですね。なんかこの時期、風邪もすごい引きやすかったりとか、ずっと頭痛薬飲んでたような気がしますね。でも、夏過ぎたら治って。

Int : 睡眠は、今は大丈夫でしょうか。

Q : 今はもう。

Int : この時期そういうことがあったっていうことですね。

Q : なんか人格否定されたんですね、その友人から。私っていらぬのかなって思ってしまった。

Int : ちょうどこの時期に、そういうことがあったんですね。その友人っていうのは、結構、相談相手になってくれた人なんですか？

Q : 中学校のときからの友達で、昔はすごく仲がよかったですけど、女の人って結婚して、子どもを産んでっていうふうには、だんだん立場が変わってくると、関係性も変わってきたりするんですよね。そして、あっちはお家が被災したりとかして、うちは被害が何もなく、いつも被害妄想の人で、自分の人生うまくいかないのは誰のせいだ、何のせいだっていう感じの人だったので、今回のことも誰かのせいにしたかったのかな。なんか色々言われて、「そうだね、そうだね、ごめんね、私が悪かったね、はいはいはいはい」って言って、もうこれ以上は、近づかないでおこうと思って。それで、体調を崩したっていう感じです。

Int : 長いお付き合いのお友達だったら、余計にがっかりしちゃいますよね。分かりました。今この時点で、何かお困りになってることとか、これだけは伝えておきたいみたいなことは、ありますか？ちょっと漠然としていると思いますが、今、お母さんがこうやって近くにいられて、子育ての協力を得られてると思うんですけど、それ以外にあった方がいいというようなことはありますか？例えば誰か専門家に相談できる機会とか。特にそういう必然性はないですか、今のところ。

Q : 専門家って聞いてピンと思うのは、上の子が会話がまだ全くできないんで、そういう専門家がいたらなって思うんですけど。子育て相談会とかがあるけれども、聞きに行っても別に聞くだけで答えが出ないので。あなたで分からないのならば、専門家に聞きたいんだけどもってというような趣旨で言っても、今回はちょっと様子見てみますか、みたいに言われたり。

Int : 定期的な3歳児健診とか何歳児健診とか、そういうところでは、相談できていますか。

Q : うん、その度になんとかしてます。月に1回ある子育て相談会にも何回か行って診せたりとかしてるんですけど、そんな感じなので。

Int : 上のお子さんが、その震災前後で様子が変わったなということ、お母さんの目から見てないですか？

Q : それはないです。

Int : 震災前後で、例えば寝ているときの状況とか、遊んでいるときの状況とか、そういうことの変化は感じないってことですね。そうすると、お母さんとしてみたら、はっきりとした何か答えというか、アドバイスなりがいろいろと欲しいわけですね。

Q : 答えがっていうんじゃないですけどね。なんか話が全く通じないから、全く落ち着きがなくて、まだ3歳ちょっとなので、1人では何もできないんですけど、それに対してこっちがたまに、あっちもこっちもだったりすると、すごくイライラしたりして、それで子どもとギクシャクしてしまうときがあって。それだったら、なんで喋れないのかとか、実は心配ないレベルなんだよっていうこととかを専門家なりに診てもらって安心したいし、もしも何か本当に障害的なものがあるなら対処の仕方とかも多分変わってくるんだろうし。それらを聞きたいから専門家に診てほしいんだけど、そのレベルかどうか診てもらいたいって言うてるのに、「なんでこんなにかわいいのに、ママ、なんでこんなにかわいいのに、もっとやりとりして話すればいいんだよ」って言われて帰されるんですよ。私が愛情がないように見えるんだ、私がちゃんとやり取りして会話してないようにとられてるんだと思って、なんとなく落ち込んで帰るみたいな感じで。結局、どこにそういうのがあるのかも、まず気仙沼にあるのかも分からないし、子育て相談会以外に聞くチャンスもないし、さてな〜と思いながら、子どもの成長を首を長くして待つっていう感じ。

Int : 相談してもちょっと思うような答えが返ってこなかったり、逆にちょっと攻められたりとかするような感じの対応があるっていうことでしょうかね。そういったことも、全部お母さまとかご主人とお話をできているんですね。そういうものは、どこか保健所で窓口みたいのはないんですかね。

Q : 結局、子育て相談会が窓口になってしまうんだと思うんです。だから何回も同じことを言いに行くのも、こっちも気持ちが疲れるので、取りあえず夫と話して、来年の3月にまた3歳半健診があるので、そのころまで様子を見て、駄目なようだったら、もう向こうが何と言おうと、そういうところの電話番号なりを聞いて、診せに行こうっていう話をしています。

Int : お子さんはこちらから話すことはある程度分かりそうですか？

Q : ある程度理解してるみたいだけど、他と比べると言われても比べてしまうぞっていうようなレ

ベルなので、何したいの？「何」とか、どうしたいの？「どうしたい」みたいな感じで、オウム返しが多くて。呼んでも返事はしないし。

Int：言葉のやり取りができないことがちょっともどかしいんですね、そうすると。

Q：そうですね。何もかも遅いから本当にしゃべるのも遅いだけなのかなとか思ったり。でも他のところは、他の子と大差なくできているような気もするし。

Int：言葉だけの遅れなんですかね。

Q：言葉だけなのかな。ご飯とかもいまいちちゃんと食べられてないけど、全部言葉からなのかなって感じ。まだ分かんないです。

Int：育児日記を毎日つけていらっしゃるということなので、それを追っていくと、何歳のときにこういうことをしてたとか、多分自分で覚えてるつもりでも、明確には覚えていないこともあると思います。ですから、ちゃんとしかるべきところにご相談に行くときには、それを証拠というか持って行って、1歳のお誕生日のときにはこういう状態だった、何か月のときにはこうだったっていうところをお話なさると、すごく整理されて、きちっとした情報がいくと思いますので。

Q：ありがとうございます。

Int：今、漠然とこうなんですって言っても、それまでの長い経過があるわけなので、その経過をお話になるといいと思います。今ご心配なのは、上のお子さんのそういったことでしょうかね。

Q：どちらかと言うとね。震災を超えて産まれてきて、なんか心配とかないのかなって思ってたわりに、下の子は何も手が掛からず育ってくれたので。

Int：そうでしたか。今何うと、アンケートをお答えになったときよりは、ずいぶん体調がいい感じですかね。

Q：多分そうだと思います。

Int：分かりました。こういう嫌なことがあると誰でも気分落ち込みますけれども、そんなときに対処する方法っていうのは、ご自分で身に付けていらっしゃるみたいだし、ご主人やいろんな方にご相談できるみたいなのでね。

Q：逆に彼女の方が心配になりましたね。

Int：それ以降、全く関わらないですか。

Q：全然ですね。大丈夫かなみたいな。その彼女は、なんでも人のせいみたいな感じで生きてる感じ、私から見るとですけどね。だから、いつも産後うつみたいになったりとか、子どもと一緒に家にいるだけの私のところに、誰も遊びに来てくれないとかって言ったりとかって感じだったので、今回も仮設に入って、子どもがとっかえひっかえ風邪を引き続けて治らないとか、あと娘ちゃんが仮設で子どもたちにいじめられてるとかっていう話とか。上に女の子がいるらしいんですけど、その子が同じ仮設の男の子に死ぬとか言われたりして、その子だけをいじめるみたい。そういうイライラを相談する場所って、逆に彼女はあるのかな、忙しすぎて日々のことだけ頑張らなきゃなくて、大丈夫なのかなって。それなりのところでちゃんと消化してくれれば、こっちに来なかったのになってちょっと思ったりします。そのときに妊婦とかじゃなくても、子どもがいる人はみんな、それなりに悩みがあったりとか。

Int：今ちょっと彼女のことが古いお付き合いであるし、ご友人でいらっしゃるから…。

Q：頭にはきたけど、心配ではあるから。

Int：お優しいですね。そうでしたか、分かりました。今日は、本当に貴重なお話をしていただき、あ

りがとうございました。

Q：ありがとうございました。

R さん：20 歳代後半 初産婦

分娩日 2011 年 8 月下旬 分娩時週数 38 週

Int：すでにアンケートでいただいていますけれども、お子さん生まれたのはいつでしたか？

R：平成 13 年 8 月です。

Int：震災のときは、妊娠何カ月ぐらいだったんですか？

R：4 カ月ですね。

Int：4 カ月だと割と安定してる時期でしたかね？それでもなかったですか。

R：震災の 1 週間後に切迫になって、お腹がずっと張り続けて。

Int：そうですか。じゃあ大変だったですね。震災のときどちらにいました？

R：S センターにいて、そこの職員なんです。

Int：職員なのね、そうですか。そのセンターは、津波は大丈夫だったんですか。

R：大丈夫でした。

Int：割と内陸で標高高いんですか？

R：裏に川があるんですけども、津波を一時心配したんですが、大丈夫で。

Int：地震は？

R：地震のときは、事務所の中にいました。

Int：建物は、大丈夫だったんですね。

R：でも地盤沈下がすごくて、周りもでこぼこになっちゃって。

Int：今はもうだいぶ直したんですか？

R：直しました。

Int：そうですか。そのときは、まだ産休に入っていないですよ。

R：まだですね。産休に入ったのは 7 月だったので、本当に生まれる 2 カ月前ぐらいだったので。

Int：震災のとき、お勤めしながら、S センターにいたんですね。その後、どうなりましたか？

R：その後は、センターに避難してくる方もいたので、その方たちもやっぱり川があるから危ないって
いうことで、みんなで一緒にもっと山の方の学校の体育館に逃げたんです。

Int：なんていう学校ですか？

R：N 中学校の体育館に。

Int：そこも避難所になったんですかね？

R：そうなんです。

Int：歩いて行けるといいますか？

R：歩いても行けますが、20 分ぐらいかかるのかな？で、隣は老人ホームがあるし、みんなで自分の
車に、おじいちゃんおばあちゃんを乗せたりしながら、避難者も連れて。

Int：そうか、津波がすぐに来るような場所ではないから、車で移動できたわけですね。そのときお腹
の方は大丈夫でしたか？多分、慌てたと思いますが。

R：ほとんど記憶ないです。

Int：記憶ないですか。そのときは、誰かの介護とかしてたんですか？介護っていうか、おじいちゃん
おばあちゃんの世話とか、あるいは周りの人たちの世話とか。

R：座布団を持って行ったり、毛布を持って行ったりして、取りあえず何回か体育館と移動して。

Int：職員としての働きをされてたんですね。それは大変でしたね。その後、その夜はどうなったんですか。

R：その夜は、N 中学校の体育館にいました。

Int：ご自宅は職場から近いんですか？

R：自宅は、このときはまだ田中前にお家があったので、本当に近いです。でも、道路 1 本前まで津波の波は来たんですが、ただ家はギリギリセーフだったんです。

Int：お家は、全部大丈夫だったのね。いわゆる全壊、半壊っていうのは全然なくて。

R：半壊です。地震で柱が斜めになったりとか。

Int：そういうのがいっぱいあったんですか。そちらには、戻ったんですか？

R：戻りました。おばあちゃんがいたので。

Int：どちらの？ご主人の？

R：旦那の祖母がいたので。

Int：ご主人のおばあちゃん。ということは、かなり高齢ですね。

R：70 代半ばなんですけども、お家に 1 人でいると思って 1 回戻ったんですよ。

Int：11 日に？

R：地震があつてすぐ。上司から妊婦だしここにいたら仕事で大変なことになるから、1 回家に帰れて言われたんですけど、おばあちゃんを取りあえず高台に逃げさせて、私はまた戻って来たんです、車で。

Int：仕事のために？

R：逃げるって言っても、居場所もなかったの。

Int：おばあちゃんはどこに預けたんですか？

R：おばあちゃんは、自分の兄弟がいるところがもっと高台にあったの。

Int：避難所ではなくて、親戚の方がどこかにいたんですね。家族構成は、どうなってるんですか。

R：今は、旦那と子どもと 3 人ですけども、当時は私と旦那と、旦那のお父さん、お母さんとおばあちゃんの 5 人で。

Int：5 人でね。地震のときお家にいたのは、おばあちゃん 1 人で、ご主人のお父さんとお母さんは、お勤めかなにか？

R：それぞれ仕事に行っていました。

Int：そうですか。地震があつて、避難所には何日ぐらい居たんですか？数日はそこで寝泊まりしたんですか？

R：1 日目の夜は中学校の体育館にいて、その後はセンターに戻って来たんですね。で、センターで避難してくる方とかいろいろ…。

Int：そこにも避難してくる方がいたんですか？

R：いたんです。なので、そこにずっと待機ということ。何日間居たかちょっと覚えてないんですけど、寒かったの、夜は外のバスの中で寝泊まりをして。電気もガスも水道もなかったの、取りあえず建物内にいる時間まではいて、あと誰も来ないかなと思ったら、夜はバスに行つて。バスっていうのは、市役所の公用車なんですけど。ガソリンが入ってたので、何人乗りだろう、50 人ぐらいは、30 人かな、乗れるような大きいバスの中で暖を取りながら。

Int : そこには避難者の方が寝泊まりしてるわけでは…。

R : すぐ来なかったんです。何日かして病院の方から運ばれてきた方はいたんですけど、1 週間か 10 日ぐらいは誰も避難者というかはいなくて、職員だけが昼間いろいろと…。

Int : 待機してたり、どこか手伝ったりしてたんですか。

R : 待機してたり、医療機関はどこがやってるかっていうのを、課長さんと一緒に車を運転してずっと見て回ったりとか。

Int : そうこうしてるうちに、1 週間後に切迫流産になったんですか。

R : そうなんです、1 週間後に出血があって、だんだん具合悪くなってきたので、そのまま病院まで歩いて行きました。

Int : 病院ってどこですか。

R : I 病院です。

Int : その後どうなったんですか。入院するとか、そういうことはなかったんですか？

R : 入院はしなかったです。張り止めの薬だけもらって、様子見てたんですけど、やっぱり 4 月に入ってから、ものすごくお腹の張りとかがまたひどくなってきたので、自宅安静っていうことで、仕事は休んで、お家に 1 カ月居ました。

Int : 病院には通ってたんですか。

R : 行かないです。薬を取りあえず 1 カ月分ぐらい大量にもらって。I 病院がかかりつけじゃなかったんですよ。かかりつけの産婦人科が被災してしまっ行って行けなかったの、とりあえず行ったんですよ。でも、私が最初に掛かっていた病院は、お産ができないところだったんです。妊婦健診だけ 7 カ月までは診ますよっていうところで。

Int : じゃあ、もともとは、I 病院で出産予定だった？

R : 予定はそうだったんです。ただ、まだ初診もしたことがなくて…。

Int : 薬とかはすぐ出してもらえたのかしら？

R : 薬は、はい、診察してもらって。

Int : そのときに産科の先生はいたんですか？

R : いました。今いるからすぐ診てあげるっていうことで診ていただいて。あとで、被災した病院に行って、カルテとか血液検査の結果とか、書類的なものはもらって来て、その後から、I 病院に掛かるようになりましたけど…。

Int : 産まれたとき何グラムありましたか？

R : 3,000 びったりです。

Int : 自然分娩ですか？

R : ずっと逆子だったから、帝王切開で。

Int : そうですか、普通に元気に産まれたんですね。

R : はい、大丈夫でした。

Int : その後のお子さんの成長も大体順調ですか？

R : はい、順調です。

Int : R さんは、市の職員ということで、職種は何ですか？

R : 管理栄養士です。

Int : 震災のときの情報の入り方っていうのは、何で入ってきましたか？

R：やっぱり職場ですね。職場にいるから、情報としてはすぐ。

Int：それらはどうやって入ってきましたか？電話とか何かありましたか？

R：電話はしばらくつながらなかった。自分の携帯もつながらなかったの。

Int：そうですね。そうなる、いわゆる口コミですかね。誰かが来たときに情報を知らせてくれるとか、こちらが行って見て来るとか。

R：そうですね。職員が、使える車で巡回して回ってたりしたので。

Int：やっぱり見てくるんですよね。見てきて情報を、あるいは誰かが来てっていうのはありましたか？

R：ありました。

Int：どんな人が来るんですか。

R：役所の職員です。市役所も来ましたし、県の保健所がすぐ近くにあるので。

Int：そうすると、どういう情報を教えてくれるんですか。配給や支給のもの、例えばおむつがどこにあるとか、そういう話ですか？

R：配給もあんまり覚えていないけど、どうやって来たのかな。取りあえず、おにぎりだったらおにぎりとかを何個必要かっていうのを言えば、今日届いた分はこの分だからっていうことで。

Int：それは、誰が配ってくれるんですか。

R：職員ですね。最初は職員が持ってきてました。

Int：そうですね。ここへ行けば、例えばどこどこ小学校におむつがあるとか、ミルクがあるとかっていう情報はあったんですか？

R：それは本当に職員がセンターにたまたま来たときに聞いたりとか。

Int：そういう情報はそんなに簡単に回って来てるわけではないんですね？

R：そうです。あと電話がつながれば、電話とかでも聞きましたけど。

Int：電話はやっぱり1週間後ぐらい？

R：そうですね、それぐらいはかかったかもしれないですね。3日、4日、もっとかな。

Int：センターは、特に一般より早く開通するとかって。

R：それはあったと思います。あとは自分の携帯が何日か経ってつながるようになったので、情報は自分で得てました。職員として動いていたので、物資はここに集まるとか、そういうのは分かってました。

Int：震災後の1週間は一生懸命動いてたんですね。切迫流産になる前は、自分で車運転してどこかの場所を見てきたりとか。

R：医療機関どこが被災してるかとか、被災してないかとか。

Int：そうですね。今まで聞いた方の中では、育児のことで情報を得るには、ママ友が非常に重要だと言ってましたけど、Rさんの場合、そういうような情報源ってどちらになりますか？

R：いわゆる出産・育児雑誌を見たりとか、あとはお友だちからいろいろ聞いたりとか。

Int：例えば地域でここにいい病院があるとか、なんとか相談日が月1回ここでやってますよとかっていうのは。

R：そういうのは全部、保健センターで分かってますから。

Int：職員だから分かってますよね。あとツイッターみたいな、ああいうのもいいことがあるとかっていう話がありましたけど。

R：やってなかったです。私は、第1子だったので、育児で分からないこととか何かあったときは、職

場にいる看護師とか保健師とかにすぐに聞けるので、そこから聞いたりしました。

Int：子育てに関する窓口を聞いたかと思いますが、月に1回か2回。

R：子育て相談とかやってます。広報とかで、お知らせしてるので、見てればわかってると思います。

Int：あとこの辺りでは、育児グループとか作ったりはしてないですか？自助グループって言ったら変だけど、サポートグループ、あるいは自分自身の当事者グループみたいなものとか。

R：私はそんなに把握してないですね。保健センターの場所を使ってやってるっていうのはないし、何か独自にそういうのをやってる方もいるかもしれないですけど、私はちょっと分らないです。

Int：そうですか。あと、行政に勤められてるんだけど、その行政に対する、ああしてほしいとか、あれはやめてほしいとか、震災前から産科がかなり過疎になってるところに今回の震災で、せめてこうしてほしいとかって何かありますか？

R：やっぱりお産できるところを、もうちょっと増やしてほしいですね。

Int：先ほどおっしゃったように、基本的には健診だけして産めるのはもうI病院だけ…。

R：もともと気仙沼には、産科が3カ所しかなかったんです。そのうち、お産ができるところは2カ所だけだったんです。

Int：そのお産ができないところに、まずはかかっていたわけですね。

R：はい。土曜日も診てくれるところだったので、私平日仕事だから便利だなと思って、そこに行ってたんですけど。そのお産できる病院のうちの1つが、津波で駄目になってしまったので、私が出産するときはI病院だけしかなかったんです。

Int：もう選びようないわけですね。そうすると混んでましたか？

R：混んでました。授乳室もすごいギチギチだった。お部屋もないって言われて。

Int：そうするともう何カ所かないと辛いついていう感じですかね。外来も健診に来る人で混んでるんですか？

R：23年の8月生まれがいっぱいいたみたいで、ちょうど混んでたところに当たったようなんですけど。気仙沼市で生まれる子どもの数からいったらどうなのでしょう、よく分らないですけど。

Int：そうか全体数が分らないですね。

R：年間多分400人も生まれてないと思うんですけど。月30人ぐらいでしょうか。

Int：そうですか、大体1日平均1人ぐらいですかね。そうするとI病院ともう1カ所ぐらいだけいいのかな。

R：あんまりいっぱいありすぎても、多分そんなに流行らないですし。

Int：そうですね、競争になっちゃったりね。産科はそれでいいとして、今度は小児科とか育児相談とかになると何かありますか？

R：小児科は震災後戻って、3カ所やるようにはなりましたけど。

Int：震災前は？

R：震災前は、I病院入れて4カ所。で、1カ所、震災で先生もお亡くなりになってしまったので、今は、3カ所しかないですけど。

Int：子どもの人数多いけど、3カ所で間に合うのかしら。

R：毎回混んでます。今朝も行ってきたんですけど。

Int：お子さん、調子悪いんですか。

R：風邪引いてるんです。

Int : そういうとき、お子さんはどこに預けるんですか？

R : 普段は保育所に行ってますけど、今日はおばあちゃんがちょうど休みだったので。

Int : ご主人の？

R : いえ、普段は私の母に。

Int : ご自身の実家は、どこにあるんですか？

R : 気仙沼の南郷っていうところですよ。実家も被災して、大規模半壊でまだ直してないので、今仮設にいますけど。

Int : その仮設の場所は近いんですか。

R : はい。職場のすぐ近くなんで。

Int : そこはおじいちゃんとおばあちゃんだけで住んでるんですか？

R : 私の妹もいます。

Int : そうすると 3 人で暮らしてるんですか。

R : ただ父は、仕事が遠洋漁業で、ほとんどいない状態です。

Int : ちょっと立ち入ったこと聞きますけども、ご夫婦の関係が震災前と震災後で変わったっていうことは、ありますか？絆が深まったとかっていう話なんかありましたけど。

R : でも、お互いいろいろ考えるようになったとは思いますが。

Int : そうですか。考えてどうなりましたか？

R : 震災のときに、旦那はちょうど川つぷちの老人施設に勤めてたので、そこで被災して 2 日ぐらい音信不通だったんですよ。私がお家に帰っても、みんな息子が帰って来ないっていうことで心配して、電話もつながらないし、探しに行くにも火事がすごいところだったんですよ。

Int : 火事で大変でしたよね。どの辺なんですか？

R : 鹿折で、大きい船が上がりついたところですよ。

Int : ありましたね。私のイメージでは、港のような気がしたけど、あそこは港ではないんですか。

R : あそこからもうちょっとバイパス寄りというか、本当に川、道路、施設っていう感じだったので、その施設にいて、そこで。

Int : もろに津波を受けたんですか。

R : 受けました。

Int : その施設の人は、助かった人多いんですか。

R : 亡くなった人も 50 人以上います。

Int : 入所してる人ですか？スタッフは？

R : そうです。スタッフは 1 人か 2 人。その場で亡くなったかはちょっと分からないですけども、非番だったのかな。

Int : そうですか。ご主人は、どうやって助かったんですか？建物は高かったんですか？

R : 最初、津波が 3 メートルだか 6 メートルって言ってたんで、2 階に逃げれば大丈夫と思って、みんな 2 階に居たらしいんですけども、やっぱり 2 階の窓を突き破って津波が入って来て、旦那は背が高く 180cm ぐらいあっても、もう首のどこまで全部重油まみれになるぐらい浸かったんで、お年寄り立ってない人がもう…。

Int : そうなんですか。

R : 1 回波が引いた後も、何回か 2 波 3 波って来たみたいで。周りは火事だし、みんなその施設の中

から逃げられなかったので、ずぶ濡れのまま、そのまま夜を明かして、朝、自衛隊の方に助けられたって言ってました。

Int：一般の人がもう立ち入れるどころじゃなかったんですね。ご主人が無事だっていつ分かったんですか？

R：私が職員としてたまたま避難所を回ってたときに、そこに施設の人が逃げてきてたっていう情報があって、もしかしたらいるかなと思って。

Int：偶然分かったんですか。

R：そうなんです。行ってみたら生きてた。でも、その前はほぼ市役所だったので、遺体が何体上がったとか全部、逐一情報が入ってきましたから。

Int：生きた心地しなかったですね。

R：全然もう。遺体安置所に行くことしか考えていなかった。親ももう、死んだものだと思って。

Int：もう諦めてたんですか、半分。

R：川つぶちだから、生きてないだろうって。

Int：結果としては、その施設の中では、スタッフは結構生き残ってた方が多いんですか？

R：そうですね。ただ、その身近に私と同じぐらいの妊婦の方もいたみたいなんですけど、津波の影響で体が冷え切ってしまって、やっぱり駄目になってしまったっていうのを話で聞いてて、やっぱり旦那はそのこともあるから、すごい心配してた。

Int：そうですね。ご主人は、体調大丈夫だったんですか？かなりひどい目にあっただけですけども、ケガしたとかそういうことなかったですか？

R：そういうことはなかった。

Int：今、ご主人は仕事どうしてるんですか。

R：今はまだ同じところにいるんですけど、施設自体はまだ再開していないので。

Int：経営自体はちゃんと成り立っているんですか。そこ1カ所だけやってるんですか。

R：いろいろ訪問看護ステーションとかもあります。その施設を、別のところに今ちょうど建築中なんで、そこができれば、またそこに戻れるような。だから、働いてはいますけども、そんなに忙しくもなく、お客様もあまりいないしという感じですね。

Int：それから育児に関しては、ご主人はいろいろと手伝ってくれますか？

R：そうですね、いろいろとやってくれますね。

Int：例えばどんなことをやってくれるんですか？

R：お風呂に入れる、食べさせる、全部。1人で面倒見れます。

Int：1日預けても大丈夫だ。

R：大丈夫ですね。そうやらざるを得ない状況があったので、自然とできるようになったと。

Int：今、お子さんが1歳1カ月ぐらいだと、お子さんの遊ぶ場所とかありますか？

R：ほとんど保育所ですからね。休みの日は外で遊ぶっていうことはあんまりないので、仮設住宅のアスファルトで平らな駐車場で遊ばせたりとか。

Int：ちょっとむなしい感じもしますけど、でもしょうがないですね。むしろ安全ですかね、そっちの方が。あと育児で協力してくれるのは、今回みたいに預かってくれるおばあちゃんとかですか？

R：はい。私の母も旦那のお母さんも、休みのときは。

Int：預かってくれるわけですね。仕事に復帰したのは、いつですか？

R : 5月です。4月に1カ月休んで、5月には出てきてあと2カ月働いて、また産休入りしましたけど。

Int : 去年5月に1回戻ったんですね。

R : 戻りました。1カ月だけ休んで戻ってきて、2カ月ちょっと働いてそれから産休に入ったんです。それで、また今年の4月から育休あけで。

Int : お子さんも順調だから大丈夫ですかね。先ほど言ったようなこうしてほしいっていう希望とか要望とか何かありますか？

R : 正直、私もこういうふうに話ししたのって初めてなんですよ。だから、なんか聞くこと、そういう職場にいるから、お母さんたちから聞かれることはあっても、自分のことって話すことがなかったの

で。

Int : 何か子育てに関することとか、あるいは研究自体に何かこうしてほしいとか、質問とか意見とかがありましたら何っておきたいと思いますが、いかがですか？今3人暮らしなんですよ。

R : そうです。もともと地震のあった次の日の土曜日に引っ越しをする予定だったんです。

Int : 今住んでるところに？

R : 今住んでるところに行こうと思ったんですけど、まず震災があって物も買えなかったの、すぐに引っ越しできず、旦那の実家にいました。産まれる1カ月ぐらい前には今の住所のところに行きました。

Int : そうですか。お子さん生まれるから、別に暮らそうっていう話になってたんですね。

R : はい。あと、震災のときって偏った食べ物とか、食事がとれなかったりとか、そういうのが心配でした。

Int : 心配でしたよね、当然専門家としてもね。聞くとやっぱりミルクが入ってくるかって心配したら、ミルクは結構、物資であったんだそうですね。

R : あったけど、なかなか出ていかなかったりっていうのがあったり。

Int : きっと、あれがあんなとこにあったのかっていうのもありましたよね。お子さん達のあのときの栄養状態ってどうでしたか？特に生まれてすぐのお子さん、例えば2月に生まれた子とか。お母さんたちも育児してましたよね。

R : まずお家が無事な方は家の中で、石油ストーブでお湯沸かして。あと避難所に来た方は、本当にお風呂にも入れられなくて、お尻が荒れてきたりとかっていうのもあったようなので、保健師が避難所にベビーバスを持って行って、お湯沸かして子どもを順番に入れてあげるとか、そういうふうにしてたみたいですけど。食べ物はもうあるもので、どうにかつぶして与えたりとか。

Int : そうですね。そのまま食べさせるわけにいかないから、つぶしたりとかして工夫したっていうことですね。子ども用とかじゃなくて、あるものを。

R : みんなスーパーに何時間も並んで買ったり。最初は、冷たいおにぎりしか来なかったです。

Int : それをつぶしたりとか、おかゆ状にして食べさせていたんですね。

R : そうですね。哺乳瓶もなければ、コップで…。

Int : コップで。そういった工夫を聞いた中で、いいなっていうのと、これ止めた方がいいなっていうの何かありました？

R : 洗えるところもなかったの、ちゃんと消毒もできないし、冬だったからまだよかったのかもしれないですけども、夏だったら多分ひどいことになっていたんじゃないかと思います。

Int : そうですね、みんなお腹こわしたり、食中毒がね。

R：あの時期だったから多分お風呂に入らなくても何日間も平気だったし。私が避難所にいた中では、ちっちゃい子どもを連れてるお母さんは、寒いし、おっぱいあげたくても場所もないしっていうような状況で。その場にあった毛布で隠してあげたりとか、それを掛けてあげて授乳してるような感じで、さらに泣けばその場に居づらいような…。

Int：外に出て行かなきゃいけない雰囲気なんですね。この辺りで福祉避難所のようなものはできましたか？

R：高齢者の方はできましたけども、子どもの方はできてないと思います。あとは、アレルギー食がなかなか入ってこなかった。

Int：それはテレビにも出てましたよね、アレルギー食なんとかしてくれっていうんで。

R：私もすっかりそのことが頭になかったので、たまたまお子さんがアレルギーをたくさん持つてるお母さんが保健センターにいらして、何かないですかって言われたときに、ああ、と思ったんですけど。

Int：それ何日目ごろだったんですか。

R：2週間か3週間経ってました。食べさせるものがないということで。結構、小麦から何から、7個ぐらいアレルギー持つてる子だったので、どうかしてください、他にも困ってる人がたくさんいるんですって言われて、ああ、そうか、と。

Int：それでどうしました？

R：そのときは栄養士会の方も協力に来てて、先に気仙沼に入って来てくれた方がいらっしゃったので、その方に協力を依頼して、いろいろ送っていただいたりとか。

Int：送ってもらったんですね。そういうときは、依頼したら、適切なものが適切に来てましたか？

R：やっぱりすぐは来なかったですね。あとはしばらく経ってから、アレルギーの会とかがあったりして、そこから物資が送られてきたりとか、あと何か困ってることがあったら言ってくださいって書いてきてくださった方もいたので、お電話して送っていただいたりとか。

Int：そうですね。アレルギー食は、ずいぶん問題になってましたね。

R：あの時は、すごく困りましたね。

Int：わかりました。最後は職業的な話になっちゃいましたけど、今日は本当にありがとうございました。

S さん：30 歳代後半 経産婦

分娩日：2011 年 5 月下旬 分娩時週数：34 週

Int1：アンケートにお答えいただいている、また改めて同じことを聞く形になってしまうかもしれませんが、生の声をお話していただければと思います。お話できる範囲で構いませんので、震災時の状況を教えていただければと思いますが、お伺いしてもよろしいですか？

S：はい。

Int1：震災時、搬送されて U 病院に来られたということだったんですけれども、気仙沼の病院に入院してらしたんですね。そのときいかがでしたか？

S：思い出すと涙が出そうに…。震災のとき、結構入院生活が長かったんですね。つわりのときから入院して、1 回帰ったんですけど、1 カ月ぐらいですぐ、切迫でまた入院したので。つわりの時点で、切迫で入院してる人たちの様子を見て、こういうふうに入院したら、もう生まれるまで入院するよなんだからずっと思ってたから、入院って言われた時に、1 人当時中学校 2 年生の子がいるんですけど、ちょうど誕生日だったんです。それで、誕生日をお祝いしてから、次の日に入院したんです。息子はもともと、じいちゃん、ばあちゃんここにしょっちゅう泊まりに行っていて、実家とうちが近いので預ける面では不安はなかったんですけど、そのとき旦那のことでちょっとゴタゴタっていうのがあって、自分の精神状態があんまりよくなかったっていうか。でも、子どももいるし、とにかく気をしっかりもたないってところと、その点滴の薬が合わなくて、なんか違う薬に変えたら、血管痛っていうか、もうすごいひどくて、それが 1 週間ぐらいどうにもなんなくて、そんなのでゴチャゴチャして、やっと落ち着いたのが水曜日だったんです。ああ、やっと落ち着いた入院生活を送れるっていうか、まだまだ長いから。1 カ月前の予定日だった友達が先についていうか、もう U 病院に搬送されてたし、周りの切迫で入院してた人が臨月に入るからって退院してって、ずっと私大部屋に 1 人だったんです。出産の人がいっぱい来てぎゅうぎゅうなのに、そういう入院患者さんだけの部屋っていうのが 1 つ確保してあったんですけど、私 1 人で、なんかすみません、なんて冗談で言いながら、結局いっぱいになってきたから、じゃあ 3 人の部屋に移りましょうって言って 3 人の部屋に移っても、ずっと 1 人で…。震災の週の月曜日に、中国人の人が入院してきたんですけど、日本語があまり分からなくて、コミュニケーションもとれなくて、あっちも旦那さんしか頼る人がいなくて寂しい思いをしてたから、ちょっと力になってあげようみたいなところがあって、中国語から日本語に変換できるサイトに登録して、ちょっと会話をし始めた頃で、その点滴も落ち着いて、ちょうど韓流ドラマにはまって、その 1 時間を楽しみに見て、トイレ我慢できなくて、最後の CM で急いでトイレに行ったときに地震がきた。トイレの中で地震がきて、ちょっと大きかったけどトイレは安全だっていうのがあったから、落ち着いてはいたんだけど、取りあえず落ちてきそうなものを見て。

Int1：点滴されてたんですね？

S：はい。揺れが 1 回落ち着いたなと思ったら、また始まって。これでは多分その中国人の人が、1 人で怖がってるだろうと思って、トイレを流さず、拭くのも多分忘れて、もう急いで走ってたんですね。そうしたら、やっぱり動揺してたから抱き合っ、大丈夫大丈夫って言いながら、ずっと地震を耐えて。なんかキンコンカンとか鳴ってたし、絶対津波が来るなって思って。

Int1：そのときに思ったんですか。

S：思いました、すぐ。絶対津波が来るって。そんな大きいのは考えてなかったし、どれぐらいのとか

思ってたんですけど、すぐ津波がくると思って、そこまでくるのはよっぽどなんですけど、なんか気になって、見えるかなみたいな感じで、ベランダから何回も見てたら、もう煙が上がってるところがあって、火事だなんてこう行ったり来たりしてるうちに、なんか安心してたから子どものこと忘れてたわけじゃないんですけど、あつて思って、ちょうど携帯を見たら息子からメールが入ってて、大丈夫？って、そうメールが来たっていうことは、ちょうど学校の時間だったから、大丈夫なんだと思ってメールをしたら、今実家のすぐ目の前に施設があるんですけど、そこにいたっていうのが最後だったんです、息子とは。

【インタビュー者交代】

Int2：こんにちは。最近、どうですか？

S：お久しぶりです。精神的なところの負担は、ちょっと大きいところがありますね。

Int2：お仕事は変わらず、普通に。

S：しました。

Int2：少しずつ、お父さんお母さんがお仕事に出たりってということがあって、お子さんを預けるところが、なかなかなくて、大変だということをよくお聞きしたりしますが…。今、子育ての際に困ってるというか、仮設だとわりと同じような世代の方がいらして、いろんな支援があったり、子育ての出会いの場がいろいろ設定されてたりということは結構あるんだけど、そうではなくて、今までと同じような生活をされている方々には、なかなかそういうものがないから、あればいいなっていう話もお聞きしましたが、やっぱり、今でもそういった思いはありますか？

S：ですね。なんか話だけでも聞いてもらって、すっきりできる場所があればいいんでしょうけど。常に、旦那が仕事でいないから、その点では、気にしないで、私の母親を面倒みるっていうか、精神的に支えてあげられるのはいいんですけど。でも、お母さんも、娘だから当たり前じゃないけど、お兄ちゃんは当てにならないから、結局、私と孫たち、息子と今回生まれた子が、今は、1番支えになってるんです。それで、お母さんが1人になったから、24時間っていうか、私が仕事に行ってる間以外は、今はずっと一緒にいて、それがずっと続くんだろうけど、これからどうすっべ…とか、なんかそういう…。私も一応、嫁に行ってるけど、旦那の実家も大島なので、別に暮らしてて目がないから、しょっちゅう会ってる。だから、そういう面でもすごく恵まれてるんですけど、お母さんは、これからどうやってこの家を守って行って、仏壇がどうのとか言うから、そうなってくると、私は、お兄ちゃんの方に後を継いでもらってって言うんですけど。

Int2：そういうことって、お家では話されるんですか？お母さんと。

S：私とお母さんと2人で。

Int2：話はしてるんですね。

S：最終的にどうするのかっていうのは、もちろん息子の気持ち次第だけでも、うちのお母さんからしてみると、お父さんが死ぬ前から息子のことをすごいかわいがってて、自分たちが育てたようなものだからって、自分のものみたいなところがあって、とにかく自分は息子に後を継いでもらって、そういうプランが、もうできあがってるんですよね。とにかくそういう点で先々が不安っていう、常にずっとこういうの続くんだろうなって。

Int2：その続くことも不安なわけですね。急にそういう状況になったから。

S：どうなっていくんだろうって。旦那の実家も、すぐ近くまで津波がきてて、結局、船しか交通手段がないので、1カ月ぐらい孤立してたんですよ、大島。震災が来る前は、いずれは大島に行くっていう

約束だったけど、そういうところを考えると、私も嫌だし、子どもたちがこれからそこに住所を移すとか、そういうのもすごく抵抗があるっていうか、今、悩んで。なんか悩みがすごいっばい。

Int2：それはその通りですよ。

S：ただ、旦那は割りと頭はやわらかいけど、旦那の実家からしてみれば、そこで生まれ育って、その生活が当たり前で、実際、船で行き来したりっていうのも、常に生活の一部だったから、抵抗はないんですよ。こういうふうに震災があっても、自分たちの生活も、今は落ち着いてきているから、このまま、そこに居続けるとか、そんなに抵抗がないと思うんですよ。今度、津波が来たらこの家も駄目だべなって、さらっと言うんですけど、こっちからしてみたら、それはすごい大きなことで…。

Int2：それは、やっぱり生まれてからの生活文化っていうかを含めてなかなか…。

S：そこなんです。私、ここにいたから、そのギャップがすごい大きくて。

Int2：お互い夫婦であっても、埋められないところは誰でもありますけど。住んでる地域ごとで、浜の方であったり山の方であったりで、いろんなコミュニティがもともとあるところで、そこはなかなか埋められないものがあって、非常に困ってるということもお聞きしたんですよ。だから、僕らが何かよかれと思ってやったとしても、私たちには分からないような、そういうこともあるんで、少し配慮してほしいということもお聞きしました。Sさん、体調はどうですか？

S：最近風邪を引いたけど治りつつあります。

Int2：夜は寝れていますか？

S：夜は、何回も起きます。子どもも、いまだに何回か起きるので、それで起きると、私が今週の日曜日に試験があるので。

Int2：何の試験ですか？

S：ケアマネの試験があるので、その勉強をしないと…。

Int2：そうですか。チャレンジですね、すごい。それは何かきっかけとか、あったんですか？

S：もともと高校を卒業してから、ずっと福祉の仕事をして、子どもの成長段階で何回か退職したり、職場を変えたりとかはしてたんですけど、なんとなく受けるかなみたい感じで2回ぐらい受けて、自分の気持ちも適当だったから、やっぱり落ちて…。今回3回目なんですけど、いろんな状況があるし、チビっ子も去年はちょっと預けられる状態じゃなかったからやめて、今年はちょっと頑張れるかなっていうので、気合を入れて。

Int2：少し前を向いてきたっていう感じですかね、自分の心の中で。そんな簡単なことじゃないけれども、お子さんも少し大きくなってきたから、少し気持ち的にもっていうことで。

S：わりとクヨクヨするんですけど、1回切り替わると、結構平気なんです。U病院に居たときも、結構、うちのお母さんのことでゴタゴタあって、すごい気持ちも不安定だったけど、こっちに来て、お母さんのそういう落ちてるところとか、結局1人になったから、認知っばいような精神的に微妙なところで、これは自分が母親を支えなきゃいけないってそのとき思ったから、そういう面でも資格を取らなくちゃいけないとか。

Int2：Sさん、頑張りすぎてないですか？

S：頑張り過ぎてます。分かってるんです。分かってるんですけど、私、もともとそういう性格なんですよ。何回か精神科に通ったりとかもあったんですけど、すごい頑張ってた自分が、ガタンって落ちるまで気を張ってしまうっていうか。

Int2：その精神科に行ったっていうのは、なんかこう急に元気がなくなっちゃったりっていうことが、

あったんですか？

S：その震災の前から、ちっちゃいときからの自分の成長過程で、本当にドラマみたいな、小説書けるぐらいのことがいっぱいあって、精神科の先生とかにも、先生が変わるたびに、Sさんで強いねって必ず言われるんですよ。ただ、強いんだけど、本当は強いわけじゃなくてみたいな、そういう風に気を張ってないっていうところがあるから。

【再度、インタビュー者交代】

Int1：下のお子さんは、保育所には、すんなり預けることができたんですか？

S：待機期間がなくなっただけのことですかね。お兄ちゃんを預けてた保育所が震災で流されて、その先生が立ち上げた保育所に、私が仕事に行き始めてから。うちの父親が亡くなったんで、本当はお母さんの精神的なところで、簡単に言うと、何か役割を与えることでそれをこう…。

Int1：生きがいですかね。

S：生きがいになると思って。結局、私的にも時間の無駄じゃないけど余裕があるから、お母さん頼むから、私仕事するからっていうのでお母さんに頼んで、そうしてるうちに子どもも大きくなってきて、体が痛いとかやっぱり…。

Int1：動き回るようになってきますからね。

S：そう。やっぱりお母さんも疲れるし、ちょっと時間が長いようなときは、保育所に預けるからっていうので、一時保育を頼んでるうちに、あんまりポツンポツンって行くと、今度は子どもにとってストレスになるから、だったら、ばあちゃんとずっと一緒にいるよりは、例えば午前中だけでも別の子どもと交わることで、子どもも楽しいっていうか成長していくし、私も勉強になるし、お母さんもちよっとリフレッシュできる時間もあるしっていうので、頼もうって言ってたんですね。保育所も何軒か流されて、ちゃんと預けますっていうのができなくて、私はどうしてもお兄ちゃんが通ってた保育所に預けたかったから、取りあえずどここの保育所ができるまではいっばいだけ、そこができれば何人かそっちに移るからそのときになって言われて、10月から行ってますけど。でも行ったら行ったらで、今度風邪引いたのなんなのって言って。

Int1：熱出したりとかっていうことでね。今日は、保育所に行ってるんですか？

S：本当は、仕事がお休みの日は、保育所を休ませてほしいっていう、結構スキンシップを大事にしているんで預けることになってるんですけど、テストが近いからお願いしますって言って、先生も頑張ってるって感じなので。

Int1：実母との関係、旦那さんのほうのご実家との関係、そして子育てと自分のこれからっていうところ、いろいろと挑戦しなければならないっていうところで、悩みはあるからっておっしゃってましたね。

S：多分、私は今、仕事に逃げてるんだと思うんです。逃げてるっていうか、そこにちょっと気持ちを向けることで、私も保ってられるというか。だから今、テスト頑張らなきゃっていうので。

Int1：逃げてるという言葉でおっしゃったけれども、いい方向で転換して、ご自分の気持ちを向けていらっしゃるといっていいところですね。頑張りすぎてしまうことを、ご自分でも自覚なさってるみたいですが、その辺の頑張りすぎてガタンとなっちゃいそうなところは大丈夫ですか。

S：紙一重。

Int1：試験もあと数日ですものね。それまでは頑張るとして。

S：そうですね。でも、取りあえず、今せつかく勉強してるんで、ついでにもう1つ受けようかと思っ

て。

Int1：何をですか。

S：認知症ケア専門士、認知症ケア管理士って言ったかな。12月に試験があるんですけど、ケアマネの合格発表が12月10日とかその辺りで、ちょうどそれまでの間、時間が空くので、せっかく今頑張ってるし、これがポツとなくなると、なんかポカンみたいになるから、もうちょっと、どうせだったらこの勢いによって、取れるか取れないかは別として、取り組むっていうことがいいんじゃないかなと思って。

Int1：なるほどね。それは、国家試験ではなく、自治体の資格ですかね。

S：だと思います。私もあんまり聞いたことがなくて、最近、ケアマネを受ける人たちのネットのサークルで、何の資格を持っているかという書き込みを見て、なんだこいつと思って調べたら、たまたま2、3日後ぐらいが応募締切だったから、「駄目だ、申し込む」って言って、勢いで。

Int1：そうなんです。ぽっかり穴が空いちゃいそうというところを認識したうえで、そういうチャレンジを。そういったご本人の前向きなチャレンジに対して、ご主人とかお母さまとか、周りの方のサポートや理解という辺りは、いかがですか。

S：私の母親は分かってないんです。お母さんは自分のことしか考えられないっていうところもあるし、もともと性格的にそこまで気がまわらない。自分の感情のままというか、自分では多分コントロールしてるつもりなんだけど、やっぱり年を重ねていくにつれて、そういう個性っていうところが、結構強く出てくるんですよ。そういう面でうちの息子も、「何だよ、うるせえな、祖母ちゃん」みたいな。うちのお母さんは、分かってないから。逆に私がサポートしなくちゃいけないような関係で。私の旦那は分かっているけど。

Int1：気持ちを分かってくれてる。

S：そういう頑張りすぎるっていうところを分かかって、口では言ってるんだけどみたいな。ただ、仕事上、運転手なので、週末しか帰って来れないし、自分も仕事してて。旦那が、あんまり我慢強くない性格なの。我慢強なくて、いつも愚痴を言ってすっきりしてるんだろうけど、私は、いつもそれを聞かされるとイライラして、男のくせにみたいな。逆にあっちが女で、私が男、立場的に、性格的に。だから、分かっているけど、あちは口だけ。多分、私が本当にガタってなればすごい心配するんでしょうけど、今は大丈夫だと思ってるから。でも口では、「おめえ、親のこととかでも、勉強とかでも、一生懸命やってるの、見て分かっているから」って、たまにポロっと言ってますけど。

Int1：それは、あまり男の人言わないものですけど、ご主人は、そういうふうにおっしゃる。

S：結構言うんですよ、気利いたこととか。

Int1：そういうことを言われると、ご主人に対して、どんな気持ちになるんですか？なんでかというところ、アンケートのご主人のところ、夫は妻をよく理解してくれているっていうところで、ややあてはまらないっていうところに丸があったのでね。

S：口では分かっているんですよ、頭では多分分かっているんですけど、分かってないと思う。表面的には分かっているけど、深いところまで、本当は分かってないと思います。

Int1：それは、ご結婚されてご夫婦で生活してるときからですか？別に、最近からっていうわけではなく、もともとですか？

S：もともと。

Int1：震災が起きたことによって、それは変化したりしましたか？

S: 頼りになるか、ならないか?

Int1: だったり、あとはお子さんに対することだったりとか、お家の中でのお子さんに対する接し方だったりとか、例えばお子さんの面倒をよく見るようになったとか、何か特別変わったことっていうのは特になく、前と同じような感じですか?

S: 前から常に気にかけてはくれるの。うるさいぐらい電話よこしたりとかして。多分寂しいのかな、暇なんだ、運転してるだけだから、口が暇なのかも分かんないけれど、でも運転してるからあれこれ考えたりもするだろうけど、自分は仕事してるから仕事のことで頭はいっぱいだろうし、運転してると、「なんだ、この車邪魔だな」とかってよく言ってるから。でもいろいろ考えてるときには、すごくよく考えてくれてると思うんですけど、でもそんなもんですよ。

Int1: 実際、行動ってなると。

S: 帰ってくるといろいろやってくれて、たまに進んでやってくれたりするんだけど、そうすると「おれっていい旦那だよな」みたいに。だから、それをやったことで自分は満足してるわけ。自分は「ああ、おれってすごい協力的なイクメンだ」みたいな。私とか子どもに対して、心配はしてるんだけど、何かするとかなんとかってなると、それをやったことで自分が満足してるっていう。本当に悪い言い方をすると、気持ちを持って、こうやってとかっていうのをやってるわけじゃないのかな。自分では、やってるんだろうけど、「おれっていい旦那だよな」って必ず言うから、私はそれを「ちょっとそいつは他の人が評価することであって、自分が言うことじゃないよね」みたいにたまに言うんです。「それを言うのは面倒くさいからやめない?」って言うんですよ。一生懸命やってるのは分かるけど、自分で自分をあまりにも高く評価しすぎると、周りでああ頑張ってるなって思っても、おれってすごい頑張ってるよなってなると、その差がなんかちょっとおかしいから言わないでって。

Int1: ご主人が、お仕事の関係で週末だけ帰っていらっしゃるのは、震災とは関係ないんですね。

S: 関係ない。

Int1: 震災の前から。じゃあ、震災によってご主人のお仕事の時間が伸びたとか、生活が変わったっていうことではないんですね。

S: 居なきゃ居ないで楽なんで、帰ってきたら逆に面倒くさいんですけど。

Int1: やることが増えますしね。Sさんが入院されてるときや、お子さんが34週でお生まれになっているので、NICUに入院しているとき、ご主人は気仙沼にいらっしゃったかと思うんですけど、そのときはどんなでしたか?震災後すぐ、Sさんは搬送されてしまって、全く気仙沼の状況とか、多分わからなかったと思うので、それに対して、入院中いろいろな思いがあったかとは思いますが、そのときのご主人っていかがでしたか?そのお子さんとかに対しても。

S: 忙しくて、病院に来たのって1回だけでないべか。出産のときはタイミングよく来れましたけど、その前は確か1回しか来れなかったね。それは仕事上なんですけど、高速を何回も行ったり来たりしてるから、向こうは仕事で悪いけど行けないからって。でも、口では「次行きたいな、行きたいな」って言われるとこっちは期待するんですよ。でも、来ないから、そこでも結構イライラしてた。とにかく過酷な生活でしたね、精神的に。本当にいろいろなことがあって。

Int1: U病院にご入院中、上のお子さんは?

S: またややこしいんですけど、震災で父親が亡くなって、お母さんが普通じゃないっていうか。私の息子もじいちゃん、ばあちゃん子だけれども、どっちかっていったらじいちゃん子。天秤にかけるわけじゃないけど、じいちゃんが好きだったんですよ。じいちゃんも息子をすごい溺愛してたので、

そういうのをお互いを感じてる関係だったんですよね。口では「なんだ、じいちゃんうるせえな」とかじいちゃんには歯向かうんです。それでも、それを許してくれるから、私にはそうは言わないんだけど、すごくいい関係だったんでしょうね。孫としてもだし、友人関係っぽいやなすごくいい感じだった。でも、地震があつて、うちのお父さんが実家の様子を見に来て、たまたま一緒にいたお母さんと私の息子を見て安心して、職場で3時にどこどこ集合って集合がかかったから、もうすごく時間は経ってて、多分焦ってたと思われるんですね、そこに行かなくちゃいけないって。お父さんも自分がその仕事をしてるってということに対して、誇りを持って仕事をしてたので、お母さんと息子を見て、行ってくるからって言ったのが、最後だったんです。それをうちのお母さんも、もう少し引き留めてればっていう悔いがあるし、私の息子も、行ってくるからっていった人がその後…とか。息子も、津波の来る場面がテレビで映ると、いまだに居なくなるんですよ、見たくないって。それぐらい、いまだに精神的にトラウマっていうか持ってて、とにかくばあちゃんはおかしいし、じいちゃんは亡くなってると、うちの息子はその間に挟まれてっていうか、ばあちゃんが「ばあちゃんここに一緒にいてね、ばあちゃん1人にしないでね」って言うから、もう泣けなくなってしまったんですよね。

Int1：自分がしっかりしないとっていうね、お母さんも入院してますしね。

S：っていうのを、私は入院してて聞いてて、多分想像してる以上に息子は大変だったから、これではいけないなと思って…。ちょうど学校も休みだったし、ちょっとお母さんとの距離を離さない、逆に息子がつぶれてしまうと思ったから、息子を旦那の妹が仙台に居るんですけど、そこにちょっと泊まりに行かせて、私の友人が横浜に住んでて、ずっと心配して「大丈夫か大丈夫か」って言ってたから、そこに2週間ぐらいかな、泊まりに行かせてたんですよ。だから、うちの息子はそこで現実逃避をできる期間があつて、学校が始まるからって戻ってくることになったんだけど。そういうので、U病院に入院中に、いろいろもめててっていうか、私も母親から「あんた、今までこんなに面倒見てきたのに、こんなときにお母さんのそばにいないで」とか「子どもなんかつくんなければ良かったのに」とか「火葬に参加できないなんて」とか「周りの人たちも親不孝だとか、私がこれからいい人生を送っていけねえんだからってみんな語ってる」とか、なんかすごかったんです。とにかく普通じゃなくて、冷静に考えれば、誰だってなるんだけど、多分あっちもいっばいいいっばいだし、こっちもしてあげたくてもしてあげられる状況じゃなくて、どうにもできない。息子のこともどうにもできないし、母親のこともどうにもできないし。私、切迫で入院するときに、お父さんに送ってもらったのが、最後だったんです。震災前の2月3日にお父さんに会ったのが最後だったから、入院してて火葬とか、もちろん葬儀とかにも行けなくて、そういう冷たい風っていうか、風当たりがすごいひどくて。お母さんのお姉さんっていうのが仙台に住んでいるんですけど、そのお姉さんのところにお母さんが身を寄せて、みんなで私のお見舞いに来るんです。お見舞いだと思って来るんだけど、言うことはすごい風当たりが強くて、なんか、母親からもいろいろ聞いているし、それで、もうどうにもなんなくて、U病院入院中は、来ても受け付けなくてくださいっていうことになってたんです。そういうので、息子はお母さんに預けられないから、結局、旦那の両親に家に来てもらって、2週間ぐらい見てもらったんですけど、向こうは大島だから、お母さんも仕事してたし、毎日通わなくちゃいけないって、一生懸命やってくれてるんだけど、うちの旦那の言い方も悪いから、そこでケンカになったりして。孫がかわいそうだからいいんだ、退院してくるまでとか、そういう感覚じゃなくて「やってやってんのに」っていう気持ちだから、結局、言葉の端はしにいろいろ言われて、そうしてるうちに今度は、旦那の元の奥さんとの間に子どもがいるんですけど、その子どもが半年に1回ぐらいのペースで、泣きなが

らこっちに来たいっていうのが何回かあって。

Int1：電話寄越すんですか。

S：はい。その母親も寄越すんですよ、こんな子ども要らないから持ってけとか。

Int1：震災とかは関係なく連絡があったんですね。

S：入院中にまたその騒動があって、「要らねえから持ってけ」ってなって。私もそういうところで育ってるのは、かわいそうだから「もう、いい。あともう成人までっていうか 18 まで、あと何年しかないし、来たいって言うんだったら、いいから来て」って言ってたんです、私ずっと。その入院中のゴタゴタしてる間に、またそのゴタゴタがあって「いいから、いいから」って言って、入院中に、その子どもがうちに来て、そこで微妙な関係の生活が始まって…。まあ、子どもたちは仲がいいんですけど。

Int1：義理のご両親と。

S：なんかすごかったですね。私が退院してから、その引き取った子どもが一関市の定時制高校に通ってたんで、その気仙沼駅まで送り迎えしなくちゃいけない。だから、私は、子どもはちっちゃいけど、その時間に合わせて、夕方送ってって、帰り 10 時半ごろに、それこそやっと寝たのにみたいな子どもを抱っこして、へたするとギャンギャン泣いてるのを、おっぱいを飲ませながら、運転して迎えに行ってお飯食べさせて、また寝せてとか、そういう生活が今年の 2 月まで続いた。

Int1：そうすると正味何か月ぐらい。

S：一緒に住んだのは、下の子どもが退院したのが 6 月 20 日だったので、6、7、8、9、10、11、12、1、2 って 8 カ月。

Int1：8 カ月そういう生活ですか。よくやりましたね。そうするとご自身のお仕事っていうのは、そのときはもう…。

S：子育てもだし、もういっぱいいっばいで、してなかった。その子っていうのが、なかなか問題児で、お勉強も掛け算とかもできなくて、要は塾も行けるレベルじゃないから、私が毎日家庭教師みたいに、掛け算、足し算、引き算とこから始まって、学校の勉強のやり方とか、英語とか数学とかそういうのを教えて。でも、その子どもが手癖が悪くて、あれって思ったら、うちの息子のお金を盗ってたりとか、ウソ言っていたりとか、とにかく自分の都合のいいようにいいようにダラダラダラって暮らしてきたから、最初は多分緊張してたんだけど、だんだん地が出てきて、結局は、うちに居られなくなって。私の息子ともすごい仲がよかったんだけど、うちの息子は、他人のお金を盗ったりとか、そういうのを一切受け入れられなくて「あんな人と一緒に暮らすなんて考えられない」とかすごくて、これはちょっとねってなって。なんか猶予期間のようなものは作ったんですけど、「もう居られないよ」「悪いけども、居させてあげたいけど、何回言っても、結局こういう結果になるから居られないよ」って。なんか本当のお母さんとも、会ったりとかして交流があったみたいで、お母さんも戻ってこいって言ってるとか都合がいいんです。最初、ワーって言うんだけど、結局ほとぼりが覚めると離さないとか。だから、そんなだったらいつもの家族げんか、親子げんかがちょっと大きくなったのに巻き込まれたんだなっていうことにして、「うちであったことは言わなくていいから、おれ、なんか帰りてえから帰るかな」って、そういうふうに言ってみたらって帰えしたんだけど、今度、帰ったら帰ったで、私にいじめられたとかなんか。結局、あっちにはいいことを言って、こっちにもいい顔をしてっていう感じで。

Int1：今は、帰ってるんですね。入院中にゴタゴタしたことになったって冒頭におっしゃったから、

こういうことだったんですね、いろんなことがね。実の子でない方を預かることになったりとか、息子さんを親戚とかのところに身を寄せさせたりとか、そういったことの判断っていうのは、ご主人と相談して2人で決めるんですか？

S：2人で。2人でっていうか、決定権は私なんですけど、一応話し合っ

Int1：ご主人とね、それで決めるような感じ。

S：これでは、息子がかわいそうだって。私もそういう話の状況をいろいろ聞いて、お母さんの性格上とか、周りでだいたい想像して。息子もかわいかわいって育ってるから、そんなに気が強くなって、本当にお坊ちゃんお坊ちゃんていいいいってみんなに言われ、私もみんなも本当にそんな感じで。この震災を機に、だいぶ男らしくっていうか、かわいそうなところもあるけど、結構しっかりしてんだって思ったりね。それまでは本当にお坊ちゃまだったから。

Int1：その震災のときに、実のお母さんからいろいろ言われたりして、上のお兄ちゃんに、いろんな思いをさせたっていうようなお気持ちがあったと思うんですけど、その後1年ちょっと経ちましたが、上のお子さんに関して心配なことっていうのは、今は特別ないですか？

S：将来のことは、もちろん親だから心配だけど、震災があつてとか、じいちゃんが亡くなってとか、そういう面では今は心配してないかな。かえって逆に息子の方が、じいちゃんが亡くなったから、将来は消防士になって人の役に立ちたいなんて、気持ちに…。

Int1：おじいちゃんが消防士さんですか？

S：電気関係の会社に勤めてたんですけど、要はその震災のときに、自衛隊の人とか消防士の人とかが活動してて、そういうのを目の当たりにして、消防士になって人の力になりたいとか。なんか卒業式のお手紙で、じいちゃんの分まで笑って過ごせるようにとか何だかとか言って、ああこんなに強くなったんだなって…。

Int1：今年の3月に中学校を卒業して、そのときのやつに、そう書いてあったんですね。

S：やっぱり1番は、チビッ子ちゃんが生まれて、家に帰ってきたっていうのが、息子にとってはすごい癒されたっていうかなんて言うんだろうかね、自分の兄弟ができたって。お腹に赤ちゃんできたよって言ったときも、すごい喜んでたんですよ。微妙な年だから、どうやったらいいのかなと思って、でも割りと素直に育って、本当に幼稚っぽいような感じだったから「お兄ちゃんもね、こうやってなったんだよ、ああやってなったんだよ」なんてアルバムを引っ張り出して見せたりとか、ビデオ見せたりとか、動いたときも「ほら、お兄ちゃんもこうだったんだよ」とかって言いながらやってたから、生まれてきたときに、もうかわいくてかわいくて、今も溺愛なんですけど、「ああ、かわいいね、かわいいね、お兄ちゃんにそっくり」って、私が必ず最後に言うんです。そうすると「本当に自分にそっくりだ」って、本当にそっくりなんです。ただ性格は違うんですけど。性格はお兄ちゃんの方がのんびりっていうかまったりだったんだけど、下はヤンチャっていうか、すごい生き生きして子どもっぽい感じで。「だからお兄ちゃんときは、こういう性格ではなかったけども」なんて言ったりとか「お兄ちゃんもね、こうだったんだよ」って言いながら。

Int1：いいお兄ちゃんですね。

【一旦、中断】

Int1：いろいろなことがあってU病院でご出産なさって、それでお家に帰ってきたら、お兄ちゃんがすごく喜んで、そういうお話をさつき伺わせいただきましたけれど、出産後戻られたのはもともと住

んでいらっしやっただお家ですか？また繰り返すのも申し訳ないのですが、震災後 U 病院へ搬送されて、そのままずっといらして、出産されて…。

S：気仙沼の病院は、臨月にならないと対応できないって言われてずっと入院してて、その間に帰りたいとか、やっぱり帰らせてあげたいけど無理だったとか、なんかそういうのが何回かあって。それで、「来週の金曜日、帰れるね、よかったね」って、みんなで「決まったね」って言ってたんです。その日の朝にちゃんと決まって、私もみんなに金曜日帰るって、なんてメールしようかなと思って、当時は私がすごい古株になって、みんなもう出産したりで居なくなっていたので。おう思いながらお昼を食べて、下膳したときにタラッとなって、あれ？って思ったら、タラッ、ダラッってなったんですよ。ダラッってなったから、あっと思ってトイレに行ったら、すごい出血してて、びっくりっていうよりちょっと笑えたんですよ。あっ、ここで来たの？って思って。せつかく退院が決まったのにハイハイと思って、仕事柄そういうの動揺しない方なんですけど、処置室っていうか行ったら、先生がすごい深刻な顔をして、今、金曜日に退院ってパソコンに入れたんだよねって言いながら。そしたら高位破水っていうんですか、もう破水もしてるし、陣痛もきてるねって言われて。

Int1：それは、出産のどのぐらい前ですか？

S：前日ですね。いつも張ってるとかは言ってたんですけど、この時期は多少ねって言われてたから、この時期はそうなんだって、私も思って、多分それが予兆だったのか何なのか、張ってるよって言われても、分かんなかったって。相談したらそのまま産んじゃいましょうって、あっさりと。何か月も相棒のようにつながってた点滴が、ヒュッと抜けて、あつみたいな感じ。(笑) 心境的には、常に一緒にヘリコプターにも乗ってだったのが、あつけなく外され、ああ、これが最後だったんだみたいな感じで。

Int1：そういうエピソードがあったんですね。それで、翌日ご出産なさって、お家に戻られたのはいつ頃ですか？

S：結局、子どもが早産で入院しなくちゃいけなかったんで、3週間ぐらいかな K 病院の近くに、子どもに付き添ってるお母さんたちが、寝泊まりできる、1日 1,000 円だったか 2,000 円だかで、お風呂も付いて、布団とかもあって、台所と食堂は共同で、あとは自分でつくって食べてみたいな感じの施設があるんです。私も何か月も入院してたし、筋力もかなり落ちてて、しばらく自分の体を支えるのがいっぱいいっぱい。産んだから退院しなくちゃいけなくて、その施設から U 病院まで、バスで 20～30 分かけて通って。

Int1：そのくらいバスに乗って通ったんですね？

S：体が動かないから、目の前にバス停があるのに、何でこんなに遠いんだろって。気持ちは前に進んでるのに、体が動かなくて、バスのステップを降りるのもカクンみたいな。でもたまたま一緒に入院してた人が、同じく NICU に子どもが入院してたから、車に乗せるよって言ってくれて、バスでは何回か通ったかな、あとはそのお友だちが、その施設近くから拾ってくれて、それで行って、帰りも一緒に帰って来て。

Int1：あら本当ですか。お友だちに助けられて一緒にその期間通ったんですね。そうすると、産後すぐには、お家に帰れなかったけれども、その期間中は…？

S：親が来て、どうにかこうにかその場をつないで。

Int1：産後には、上のお兄ちゃんはお家に戻られて、義理のご両親の方に見てもらって、それで中学校に通っていたんですよ。その辺りの対処としては、頼る人も居たしってところで、整

理がついてたんでしょうかね？

S：ばあちゃんっていっても、旦那と私が再婚したから、ばあちゃんなのであって、向こうも「血がつながってないとか、そういうの気にしないよ」なんて言うんですけど、でもやっぱり生活となると気使うんですね、お互いに。気使わないからって言ってるけど、気は使ってるし、うちの子どもも落ち着いてるような落ち着いてないような。大丈夫だよって言ってるけど、我慢してるんだろうなみたいいな。

Int1：頭の整理ができてないんですけど、引き取ったお子さんっていうのは、今のご主人の前の奥さんとの間にできたお子さんですよ。それで、今のご自身の長男さんは？

S：今の主人の子どもではないんです。

Int1：そうなんです。再婚の方同士で、今回ご出産なさった赤ちゃんが今のご主人のお子さん、そういうことなんです。そういうことで、義理のおじいちゃん、おばあちゃんは、子どもの面倒を見には来たけれどもってところで、長男さんにしてみると、実際の血縁上のおじいちゃん、おばあちゃんではないと。

S：そうですね。たまに行く分にはいいけども。

Int1：そういうことなんです。なるほどなるほど。今いろんな形態の家族の方がいらっしゃるし。今回は震災もあって、出産前の入院とか、お子さんが早産で生まれたこともあって、病院に拘束される時間が思ったよりも長いというか、いろいろ状況があって、そういう面でいろんな方の手を借りて。

S：それで、「来週帰れる！やった！」って言ってるときに、生まれてまた帰れないんだあって…。子どもの入院もあと何週間かかっていうので、またガクッていうもんですよ。

Int1：朝そういう話ししてたのに。

S：エーッみたいな。また？じゃないけど、向こうの親からしてみれば、エーッていう感じですよ。うちの子どもからしてみると、やっと帰ってくるって思ったのが、あぁ、また帰って来れないのか…っていう。

Int1：ストレスですね。両方からね。だけど帰ってきたら、お兄ちゃんは喜んでってところで、義理のお父さん、お母さんも喜んでくださってますか？帳消しみたいになったんでしょうかね。

S：でも、私が入院中、面倒見てるときに、旦那ともめたりとかして、そんなわだかまりとかっていうのも…。

Int1：遠く離れてれば起きないようなケンカが生活すると起きたりですね。でも、義理のおじいちゃん、おばあちゃんとは現在はどうですか？その後1年ぐらい経ちましたけども、つながりは？

S：ちょうど島と本土じゃないけど、その距離がうまい具合に作用して、悪いんだけど、いいような悪いような、適度な距離を保ちつつ…。

Int1：ご主人のご両親との関係っていうのは、そういうことだってことですね。実のお母さんとの関係は、現在はどうなんでしょうかね？さっきもすごく心配で、仕事もこのまま続けるということもおっしゃってましたけれども、その辺りは整理中なのかな。

S：このまま、お母さんの面倒みるっていうのはおかしいけど、支えていけなくちゃいけないのは、自分なんだよなって。

Int1：その辺、ご主人も同意している感じですか？

S：してないと思いますね、そこは。そこんどこ同意してないっていうか、今、自分の子どもをお母さんに面倒みてもらってるから、頭が上がらないけども、自分は長男だし、最終的には大島に行かなく

ちゃいけないしっていう、まずそこは違った問題が。でも私、そっちの大島の親も、こっちからやってあげるっていう気持ちではやってないですけど、こうやるのが当然だっていう気持ちで常にやっていたんですけど、逆にあっちからしてみると、やってもらって当然だぐらいに思ってるって、このごろ思うんです。例えば、逆にあっちから、下の子どもに会いに来るとか、わざわざ何か用があって来るんだから、ついででいいからちょこっと顔見に来るとか、そういうのが全くないので、だから、だんだんこっちがバカらしくなってきた、それを旦那に言ったんですね。「こっちではこうやるべきだと思ってるけど、あっちからは何もない。ただ、今は別々に暮らしているけど、今後一緒に暮らすのであれば、そういうところも気使うのが当然なんじゃないの。こっちからお母さん、お母さん、お父さんって行くだけじゃなくて、あっちからもどうだ？っていうのが、別に暮らしても家族なんじゃないの」って。ただ、そういうのもないから、それはおかしいと思うし、今まで黙ってたけども、子どもを自分のうちの孫だ孫だと言ってのに、うちの母親に面倒みてもらってる立場なのに、「見てもらって申し訳ないと思うし、お世話さます」の一言もないんです。それもどうなの？って。だって、自分のうちの孫を見て、同じ孫にしても、内孫とか外孫とかややこしいんです、田舎だから余計に。

Int1：ご主人にそういうふうにお話された？

S：もう知らないよって。例えば、節目節目で泊まりに行ったりとかそういうのは、もちろん嫁だからするけども、それ以外のことは、私は知らないよってなるからねって。

Int1：そうすると、ご主人はなんておっしゃるんですか？

S：そうだよな、お前の言ってることはもっともだって。

Int1：ご主人は、話は聞いてくれるんですね。

S：だから、深刻になって言えば聞く。

Int1：週末にご主人は、夫としてご自分なりにいろいろ手伝ってくれるっていうこともあるみたいだし、話も聞いてくれるっていうこともあるようですが、逆にご主人が、家族調整も含め、なんかこういうことをやってくれればもっといいのにみたいな、そういったご希望みたいなものってありますか？私が伺っても、どうしてもさしあげられないんですけども…。

S：旦那ね、取りあえず一生懸命、外で仕事してればいいかな。亭主元気で留守がいいじゃないけどって自分でも言ってるし、私もそんなことないよって言うけど、実際問題はそうですよね。

Int1：いろいろと用事が増えますのでね、居ると居ないとでは。

S：そうなんですよ、帰ってくると本当に忙しいんですよ。勉強もやっていいぞって言うけど、居るからできないのって。

Int1：その存在がね。

S：そうなんですよ。落ち着いたらコーヒー作ってとか、自分で作ればいいじゃん、コーヒーぐらいって思うけど、だって俺が入れるとおいしくないからとか。(笑)

Int1：現在は、今週のケアマネの試験に向けて頑張っているわけですけども、下のお子さんのことですか、あとその他のことでも、今なんか気になってらっしゃることとか、ご心配なこととかって何かありますか？ご自身の健康のことでも、いろいろなことがあると思うんですけども。もう、お兄ちゃんは大丈夫そうなので。

S：本当は、内心は仕事をしないで、子どもの側にいたいんです。

Int1：下の子の側にいたい？

S: 本当は。例えば、せめて幼稚園になるまでは一緒にいたいんだけど、やっぱり経済的な面もあるし、どうにかやりくりすればできるんだろうけど、その仕事の面に対して、なんか一步踏み出したから後には引けないみたいなどころもあるし。仕事に行くときとか、本当は、一緒にいたいっていうのはありますね。例えば、今回風邪を引いたときに、それをお母さんに預けるって…、どこの親もそうだと思うんですけどね。旦那も、「本当は幼稚園に上がるまでは一緒にいさせてあげたかったんだけど、ごめん」とは言うんですけど、できれば子どもと一緒にいたい。今回は、なおさら、過酷な状況を一心同体にお腹の中で一緒に過ごしてきて、大変な思いを背負いながら生まれて、やっと一緒に気仙沼の地を踏んで。ヘリコプターで搬送されたときは、本当にもう二度と家族と会えないかもしれないって思いながら行ったんですよ、号泣しながら。街並みが、津波のヘドロとか、車もこんなになってたりとか、列になってみんなが店の開店をすごい行列になって立って待ってるのとかを、今まではワンセグで点滴のコンセントに差しして隠れて見てたんですよ、布団の中で。そうやって情報を収集してたんだけど、実際話とかでも聞いてたけど、初めて病院から外に出て、実際目の当たりにして、そこでまたショックで、家族と離れたショックと実際を見てのショックと、もうわけわかんなくなってる。仙台に行って、同じ被災地なんだけど、向こうの病院は暖かいし、温かいご飯も来るし、布団に寝てって、みんなが大変な思いをしてるのに、私はそこを離れて何をやってるんだって。逃げてきたわけじゃないんだけど、私だけこんな何事もなくご飯も食べてって。公衆電話がそのとき無料で使えたので、それまではこっちも全然電話もつながらなかったから、ヘリコプターの中で、あとはもうとにかく病院に着いたらみんなに連絡をしなくちゃいけないと思って、そこで初めて携帯の電波が入って、ハッと行って、結構メールとかも入ってたから、その電話をしたり、お父さんがそのとき見つかってなかったから、お父さんが帰って来ないんですっていうのを、身内の人に電話で連絡したりとか、何か私なりにできることをしなくちゃいけないと思って。自分の今の1番上のお兄ちゃんも、要は本当のお父さんと引き離してしまったし、そういう面とか結構苦労させてきたところがいっぱいあるから、負い目じゃないけどなんかそういうのもあるから、この子にはそういう思いをさせないようにっていうところもあるし、それで余計に離れたくないっていうか。

Int1: 上のお兄ちゃんがお父さんと離れたのは何歳のときだったんですか？

S: 本当に産まれてすぐです。

Int1: じゃあ、もう分からない？ 会ったりは？

S: してないですね。

Int1: いろんな思いがあって、今この子と一緒に居たいっていう気持ちなんですね。ケアマネの試験は受けるんだけど、次の就職先が確定していて、いつから仕事っていうところはないんですよ。

S: ないです。今のところに勤めてて、もしそこで役立てばそこでケアマネの仕事そのまましたいけども、もし非常勤でいいところがあれば、そこに行って、できれば自分の時間っていうか…。でも、仕事始めてから、今この現在までの仕事で妥協できないんですよ、仕事もともと好きだからそうなんです。好きだから、上の子のときもそうだったけど、仕事にワッてなりすぎて、子どもをそっこのけじゃないけど、自分は仕事を一生懸命やって、じいちゃん、ばあちゃんに預けてたから。多分、みんなそうなんだろうけども、私もちっちゃいときに両親が仕事をしてて、寂しいって思ったときも何回もあったし、上にお兄ちゃんがいて、私よりもお兄ちゃんの方がかわいいんだとか、いろんな感情が子どもなりにあったから、そういうのと自分の子どもを照らし合わせると、なんかね…。

Int1: そうすると、いま本当は、下の子と居たいと。でも、いろんな思いや事情があって、ちょっと

そこのところで。

S：いろいろ葛藤が。仕事は一生懸命やりたいし、でも、仕事を一生懸命やりますってなると、今度は子どもと離れてる時間も多くなるし、最初の頃は、取りあえず午前中 2 時間とか、午後 3 時間とか、その間に子どもと交わってる時間があったんですけど、今はもう仕事が 1 日中とかそんな感じだから。

Int1：なるほど、今、子育てのそういった葛藤があるんですね。保育所や身内の方のご協力ですぐいぶん助けられたりして、現在に至ると思うんですけども、今こういう行政の支援があればいいとかありますか？まあ、今でなくても例えば大変な思いで入院なさってた期間も含めて、こういう支援ほしいよなっていうところ、思ったこととかありますか？

S：どうだろう、日々いっぱいいっぱい。前にも言ったし、今さっきも言ったんですけど、こうやって話をすることによって、ちょっと気分も変わるから。

Int1：ご自身のことをね。お友だちとかそういう方に話すっていうのと、また違いますかね。

S：友だちだと、あんまり込み入った話ができない。逆に、今日みたいなこういう関係だと専門的なので精神面とかそういうのとかでも、自分がしゃべっても安全なんですよ。友だちに話してしまうと、それが後々まで続いたりする内容だったり、知られたくないこととかもあるし。

Int1：U 病院に行かれて、お家の中がすごくいろんな意味でギクシャクしているときに、例えば専門家と話ができる、そういった窓口みたいのがあったとしたら、今回はそういった体制も多分なかったと思うんですけども、そういう支援なんかがあったらずいぶんご相談に行ったりしたでしょうかね。

S：多分そこまで行き着けないと思いますね。だから本当にそんなときは、同じ病室の友だちにそういうのを中に秘めつつも、しゃべってることでなんかボソボソって言えば、ボソボソって返ってくるから、そこで愚痴の言い合いっこしたりとか、その関係もすごいよかったし。あと、臨床…、カウンセラーの人とかにも。

Int1：そういう方も入って、いろいろ話をしたりされてたんですね。

S：多分、その震災前から居たと思うんです。そのお産する人でいろんな病状で入院している人たちの悩みを聞く立場だと思うんですけど、その方にもいろいろ聞いてもらって。みんなが居たから話せない部分もあったけど、4 人部屋だったので、聞かれては困ることがあるときは、違うところで話とかした。その方にも、そういう面ではすごく助けられたし、あと病棟の看護師さんたちにもすごい話を聞いてもらって助けられたので、そういう面で本当に支えてもらって、すごく感謝してますね。

Int1：入院しているときは、それ以上、専門家に何かあっていうところは、特になくてっていうところなんですね。ご出産後はどうですかね。

S：出産後、うちに帰って来てから？

Int1：そうですね、例えば何か心の支援でもいいですし、他のこういった支援がほしかったなっていうような、今から思えばでも、現在でもいいですし。保育園に入るのは、簡単に見つかったんですよ。

S：一時保育で何回か預けてて、10 月から大丈夫だよって言われてすぐ入れたので。

Int1：そこはわりかしスムーズなんですね。どうですか、お友だちの話なんかでも、保育園とか預かってくれるところなんていうのは、わりかし皆さんスムーズにいく印象ですかね。

S：結構、ばあちゃんとかに見てもらったりとか。私の周りでは待機待ちっていう人は居ないですけど。あとは自分でみれるとかね。

Int1：なんでお聞きするかというと、その土地によって、その辺の事情がどうも違うらしくて、その

辺の支援はどうかかなと思ってるんですけど。

S：ただ、自分の親も例えば定年して働いてなければ、甘えられるけど、親もみんな働いてて、自分も働きたいけど、その預けるところがとか、例えば親も働いてて、居ないときとかに子どもが熱を出してとか、そういうところがね。でもみんなそれは同じなんですよね。

Int1：そのいろいろな背景、状況によって、みなさん困ってる内容とかが違う。今例え話で、保育園に入所とかはどうですかってお聞きしたんですが、そうすると、この支援は絶対というところはなんですかね、今のところは。退院後にご不自由はなかったでしたかね、物資の面とか。

S：物資はわりと、仮設とかそういうところに優先されてて、うちにいる人たちにはあんまり。みんなが要らなくなったような、物資でもらったもので余ったからあげるとかっていうので、回ってきたのが助かったかな。

Int1：具体的にどういった品物ですか？

S：紙おむつですね。おむつとか、あとうちではミルクやらなかったけど、ミルクとか。

Int1：母乳は順調でしたか？

S：うん、今も出ます。安定して。

Int1：今なんか卒乳って言って、ずっと飲ますそうですね。今もそうですか？

S：だから、お迎えに行ったら車に乗ったらベロリとか、寝る前とか、あと夜中泣いたときとか。

Int1：なるほど。お乳のトラブルなんかは、お仕事なさってても、その辺、大丈夫なんですね。

S：ほどよく。

Int1：それはよかったですね。分かりました。入院中はいろいろ話を聞くスタッフがいたけれども、こちらに戻って来た後、友だちとは違って、カウンセリングを受けるほどの問題があるわけではないけども、心の整理をしたいときとか、そういうときに話す人っていうのは。

S：多分、仮設だと回って来たりとかしてるんでしょうけど、やっぱりうちに住んでるとそういう面ではないですよ。

Int1：例えば、保健師さんなりそういう人たちが、出産後、家庭訪問に来るじゃないですか。あんなふうにお仕事の日でないときとかに、様子を伺いにでも来てくれるとどうなんですかね。でも保育園にも行ってらっしゃるから、そこで用事が足りるのかしらね、先生たちにいろいろ聞いたりして。

S：でも先生はあくまでも先生なので、そういうとこの話まではしないから。

Int1：そうですね、お子さんの成長に関することでもね。

S：だから、旦那の子どもをちょうど向こうから引き取って大変なときで、どこにも話しようがないときに、保健婦さんが出産後の訪問で来て、話をしたときには、子どもよりもそっちの話をいっぱいしたんです。もし何かあったら来てください、連絡くださいと言われてたけど、それを改まってこっちから連絡して、愚痴っていかを言うところまではいなくて。だから多分、連絡くださいって言われると、遠慮じゃないけど我慢するんですよ。だから、例えば定期的に来てくれれば…。

Int1：回ってきますっていうことであればね。

S：強制的にじゃないけど、もうこの人は大丈夫だなんていうところまでは、しばらくかかると思うんですけど…。そこかな。

Int1：産後の訪問のときに話したことで、心は軽くなりましたか？

S：同調してくれる人がいるだけでも、すっきりするんですよ。「そうだね、大変だね、お母さん頑張ってるね」って言われるだけで、ちょっとすっきりするんですよ。それまでは、自分が頑張んな

くちやとか、あっちもやって、こっちもやってとか思ってるのを、頑張ってるって認められるじゃないけど、そう言われれば、子どもみたいに、褒められればまた頑張れる。

Int1：そうですね、分かりますよ。

S：それが仮設ではあるけれど。

Int1：定期的にあるけれども、お家が影響受けてない方なんかは、そういったところのケアがね。

S：ましてや子どもが小さいと、外にも出れないっていうか。

Int1：そうですね、分かりました。ありがとうございます。今日はちょっと長い時間、お話を伺っちゃいましたけれども、ご負担にはならなかったでしょうか。

S：私もしゃべったことですっきり。役に立ったのか、立たないのかわからないけど。

Int1：恐縮です。これをいろいろまとめさせていただいて、少しでも妊産婦の方が健康的に過ごせるように、今後のいろんな活動に役立たせていきたいと思います。今日は、本当に貴重な時間をありがとうございました。

Uさん：30歳代前半 経産婦

分娩日：2011年3月中旬 分娩時週数：39週

Int：2回のアンケートにお答えいただきまして、誠にありがとうございました。もしお答えしたくないこととかございましたら、遠慮なくおっしゃっていただいて結構ですし、今回、お聞きした情報で行政のほうに何か伝えられることがあればということでお話しを伺っていきたいと思いますので、何かあればどんどんおっしゃって下さい。よろしくお願ひします。下のお子さんが、震災のときにお生まれになったお子さんですよ。

U：そうです。

Int：3月13日、大変なときにお生まれになって、お子さんの成長自体はどうですか。

U：順調です。

Int：この股関節の受診ということアンケートに書かれていますが、何か指摘されましたか？

U：大丈夫って言われました。

Int：大丈夫でしたか。よかったですね。お母さんの方は、体調とかはどうですか、子育てされていて。

U：そうですね、今、妊娠してるので、それもあってちょっと。

Int：あと1カ月ぐらいですかね。

U：そうですね。

Int：じゃあ、もうそろそろですね。もう36週ぐらいですか。

U：35週ぐらいかな。

Int：35週か36週になるところぐらいですかね。大変ですね。4人目のお子さんですね。

U：4人目です。予定外だったんですけど。

Int：1番上のお子さんは？

U：中1です。

Int：男の子ですか。

U：男です。みんな男。

Int：お腹の中の赤ちゃんも？

U：お腹はまだ聞いてない。

Int：じゃあ、楽しみですね。本当、大変なところ来ていただいて、ありがとうございます。震災のときのことをお伺いしても大丈夫ですか。

U：覚えてる範囲で、ですけど。

Int：3月13日にご出産されたということですけども、震災のときは自宅の方にいらっしゃったんですか？

U：はい。家にいて、2番目の子と2人だけでいたんです。で、地震きて、外に出るに出れなくて、おさまってからとりあえず1回外に出て、隣の家のお婆さんと、しばらくおさまるまで外で待ってたら、近所の人が津波来るからって回って歩いてたんで、小学校にお兄ちゃんがいたんで、とりあえず学校に行って。そうしたら、もう津波がきてしまったんですよ。学校に着いた時には、もう津波が来てるから早く上に上がってって言われた状態だったんですよ。

Int：その津波から避難したのは、学校の屋上とかっていうことなんですか？

U：学校の3階かな。

Int：その学校自体は、水がどの辺りまで…。

U：1階は全部って言ってました。1階の屋根っていうか。

Int：じゃあ、迎えに行ってもそのまま学校で。

U：そうですね。みんなで騒いでいたんで。上から見てる人が、もう津波が来てるのが見えたから、もう上がるようになって言われて。最初に学校に逃げてた人が体育館にいたんだけど、体育館にいた人もみんな教室に入るように言われて、とりあえず逃げて。その前に旦那と連絡を取っていたので、旦那の会社に行った方がいいのかと思って、行こうと思ってたんですけど、そうすると津波に向かっていく方向だったらしくて。とりあえずお兄ちゃん乗せてから行くからっていう話をしてたら、もう動かない方がいいって言われたので、そのまま学校に残って。

Int：じゃあ、そのときは、2番目のお子さんと1番上のお子さんと3人でいらっしやったんですね。旦那さんとの連絡は、ずっと取れてましたか？

U：とりあえず、地震の最中は、ずっと電話をつないでる状態で、揺れてからすぐずっとつないでて、切ったら多分つながらなくなると思って。連絡取って、旦那は仙台新港にいたので、本当に海にいたので、とりあえず今から逃げるっていう話をして、会社の人と一緒に逃げるからっていうので、電源もなくなるし、とりあえず学校にいるからっていう話だけして、電話を切って、あとはもう、次の日までずっと連絡取れなくて。お腹も大きいし、予定日が15日だったので、周りの人がお腹大きいから連絡取れるようになって、充電させてくれてたんですよ。それで、旦那に連絡してたら、連絡つかないから、とりあえず来れたからって言って、次の日に旦那が直接学校に来てくれたんですよ。で、もうそのまま保健センターの方に移動させてもらって。そのときも、旦那はもう1回会社に行かないかならないからって行って、子どもたちと夜まで待ってたら、陣痛がきて、翌日12日の夜中に。近所の病院は、通ったことないからっていうので聞いてもらって、Z病院には1回も行ったことがなかったんです。

Int：もともとは、T病院だったんですね。

U：T病院にも連絡が入られないから、しょうがないから後から連絡するしかないっていう状態で保健師さんとかにいろいろしてもらって、Z病院にも連絡してもらって。

Int：保健センターが避難所になっていたってということですか。

U：お年寄りとか、調子の悪い人とかが、運ばれてっていう感じ。

Int：学校から水が引いたのはどのぐらいしてからだったんですか？

U：次の日にはもうなくなってた。

Int：1晩は学校で過ごされたんですね。

U：そうですね、1晩学校で。

Int：翌日動いたっていうか、保健センターの方まで移動して。それは、どういうふうに移動されたんですか？

U：それも車は、浸かってしまってたんで、旦那が運転手で、会社からトラックで来てくれて、そのまま。トラックだからちょっとぐらい波あっても、水が残ってても大丈夫だからっていうので、それで子どもたちもみんな乗せて移動して。

Int：そうだったんですね。その保健センターに行ったときには、妊婦さんだし、予定日とか聞いて、もうそろそろだっっていうことで、保健師さんとかいろいろと。

U: いつ生まれるか分からないっていうので、とりあえず病院の近く、まあまあ近いといったら近いところだし、いざとなれば救急車とかで運べるからって、それで保健センターにきて、学校では大変だからというので。

Int: じゃあ保健センターで Z 病院の方と連絡を取り合ってくれた形ですかね？

U: そうですね、学校に回って来てた人が、最初は連絡取ってくれた。看護師さんみたいな人と保健師さんみたいな人が回って来て、調子悪い人を聞いて歩いてて、一応言った方がいいよって言われて言ってる。

Int: そうだったんですね。学校の中から先に移動という形で、まず保健センターに行って、そこでまた連絡取ってもらってっていう形ですかね。もともと T 病院で産むつもりだったということですよ。

U: 地震の日に実家に帰ろうとしていたんです。

Int: ご実家が向こうなんですか？

U: そうなんです、東松島で。実家に帰る帰らないっていう連絡をちょうど午前中にしてて、車で帰っていいか、迎えに来てもらうかっていう話をしてるときに、地震がきたんで。

Int: T 病院で健診も受けてたんですか？

U: はい、通ってたんです。上も全員 T 病院で。

Int: そうだったんですね。それもすごいですね。今回もずいぶんギリギリまでこちらにいらっしたんですね。

U: そうですね、上の子のときも 1 週間前ぐらいにとりあえず帰るからって言って帰って、あと退院したらしばらくそっちに、少しだけいるようになっていうのでいたんで。今回も T 病院に行くからって言ってかかってたんで、金額的にもだいぶ安いし。Z 病院は高いよっていうのばかり聞いてたので、この辺知らないから Z 病院しかないと思って、費用が高いところに行って手出しがいっぱいあるのもひどいよねっていう話で、ずっと T 病院に。

Int: 急に Z 病院に行って、状況が状況で、初めてのところで、だいぶ不安とかそういうのもありましたよね？

U: そうですね、病院の中自体、入ったことない状態だったから。

Int: 病院自体はどうでしたか？

U: ほとんど人がいなくて、みんな退院させられてたんですよ。救援物資が届かないからっていう理由で、入院してた人もみんな、ほとんど出されてたみたいで。

Int: 当日にもう退院されたってアンケートには書いてありますけど、産んで翌日ですか？

U: それも、食べ物が何もないから避難所に行ってくれて、退院させられたんです。避難所に新生児連れて行くのも…って言ってたら、妹に「アパートに居ていいよ」って、「私は実家に帰るからあそこに居ていいよ」って言われて。家の中がゴチャゴチャするぐらいの揺れじゃなくて、時計が落っこったぐらいだからっていう話で。「ただ、ガスも電気もまだつかないけど、避難所にいるよりはいいと思うよって、赤ちゃんだしね」って言われて。最初は、もし病院に行けなかったら、おばあちゃんたちで助産師さんやってた人とか居るから、ここで産めって、学校で。なんとでもなるって近所の人に言われて、あの人は前やってた人とかいろいろ言われて。みんなで布団とかも運んできてくれるからって言うので、濡れてない布団使うようになって言われて。一応、地区ごとに分けられてたので、だからいざとなったら、そのままここで産んでいいからとかって言われてました。

Int: 避難されているときから、妊婦さんでお腹も大きかったと思うので、周りの皆さんが配慮して

下さって。

U: 逃げるときも何も持たずに逃げてしまったので、おむつとか持って来てくれた人とか、袋ごと 2 袋 3 袋持ってきた人とかもいたので、いっぱい子どもいる人が持ってきてて。

Int: 翌日に退院しますよね。赤ちゃんも連れて帰るっていうことで、Z 病院さんの方からは普通に近くの避難所に行ってくださいっていう感じだけですか。

U: どこに行くとかじゃなくて、もう避難所とかじゃないと食べ物とかも届かないから、病院ではどうにもできないので、退院してくださいって。

Int: どことこのところが、例えばお母さんたちが居れそうなところだよとかっていうこともなく、近くの避難所に行ってくださいっていうような。

U: 元のところに戻るとかしてくださいって。

Int: 戻るのも自分で戻ってくださいみたいな感じで。

U: そうですね。

Int: 妹さんのところに赤ちゃん連れて帰って、お一人目ではないので、ある程度赤ちゃんの育児に関しては大丈夫だったと思うんですけど、おむつとかそういった物は。

U: おむつは、とりあえず妹のところに残ってるのと、病院で退院のときに少し貰いましたね。ちっちゃいの 1 袋かな? 貰って、それを持って帰って。あと寒いのはしょうがないから、布団でもうなんとか。

Int: 母乳ですか?

U: 最初はちょっと出なかったんですけど、でもなんとか大丈夫だったので、母乳とかは大丈夫だった。

Int: ミルクとかはなくても、なんとか母乳で。

U: そうなんですけど、その後に家の方の片付けとかしなくちゃいけなくて。旦那のお母さんが何もいない人なので、しょうがないから、子ども達を預けて行くしかないってなって、水汲みも旦那と私しか行く人がいないからっていうことで、別にどこが悪いとかじゃないんですけど、できない人なので。とりあえず学校休みだから、お兄ちゃんがいるからっていうので、下の子たちを預けてても大丈夫かなと思って。お母さんは、ただ家にいるだけだから、見ててもらっていても、ミルクとかも作れないとかって言うので、全部それもお兄ちゃんに言って、こうしてこうして作ってって頼んで。

Int: お兄ちゃんは、そのとき小学校 6 年生ですか?

U: そうですね。ちょうど 2 番目のときも手伝っていたので、その辺は大丈夫だった。

Int: そのときは、妹さんのアパートにお母さんも一緒に行っていたんですか?

U: お母さんは、避難所にいたから、2 日後ぐらいに旦那が迎えに行ったんです。避難所に居てもよかったんだろうけど、帰りたい帰りたいって言うから。ガソリンもないけど、しょうがないから行くからって言って迎えに行って。

Int: それで、一緒にいらっちゃった。お家の方は、津波で全壊ということですか?

U: 大規模半壊。平屋だったので、半分以上浸かって、中はもうグチャグチャ。古い家だったから、底から抜けて水入ってしまって、ちょうど家のあったところが広がってたんですね。なので、波が集まってうちに来ちゃったんで。

Int: 物はもう全部…、出産のときのものは病院からですか。

U: でも、辛うじて押入れの上の方は大丈夫で、入院準備してたものは、全部高いところに上げてたんで、それを次の日に旦那が引きずり出して、引っ張って持って来て、それを持って保健センターに行った

んで、それなりのものは。

Int : 一通り、とりあえずのものはあったんですね。

U : ありました。入院するものは。

Int : そうだったんですね、よかったですね。それは、保健センターに行く前にお家に寄って、取って行ったって感じですかね。

U : そうです。入っていけないぐらいすごかったんですけど、一応、見に行かないと心配だからって見に行って、大丈夫なのだけ持って来たからって。子どもたちの上に着るものとかも、ちょうど洗濯で掛かっていたのが大丈夫だったから、寒かったんで、そういうものを持って来て。

Int : いつまで妹さんのアパートにいらっしゃったんですか？

U : 妹の家のアパートの2階がちょうど空いてたんで、そこをお母さんが借りるって聞かなくて、2階の真上を、すぐ借りるからすぐ借りるからって言って借りたんで、そのまま上に移動した。だから今、お母さんそこにいるんですよ、1人で。仮設に入れって周りの親戚の人とか来て、いっぱい言われて、でもお母さんは嫌だって言うから、でも私が今度言われるから。でも、お母さん名義でアパートを借りたから、お母さんは仮設に入れませんって言われて、お母さんだけ残して、みんなで移動して。

Int : どのぐらいいたんですか？

U : 仮設に入るまでは、お母さんとことかのアパートにいたんで、仮設に入ったのは5月、ゴールデンウィークぐらいだったんで2カ月ぐらい。

Int : その間、物はどうされていたんですか？おむつもおそらく限界があったと思うんですけど。

U : 秋田に親戚がいて、旦那のおばちゃんがちょうど薬局をやってて、ほとんど買われてなくなったけど、在庫で取っておいたっていうやつを車で運んで来てくれたんですよ。産まれたばかりだって聞いたからっていうので、おむつとかいっぱい持って来てくれました。あと食べ物とかも持って来てくれたんです。とりあえず、米とかは妹のどこにあるのを食べていいからって言われて。あとはもう、お店開いたころには水汲みに行きながらお店に寄って、買い物してっていうのをやってたんですけど。それも産後すぐだったのに、市役所まで遠いから、しょうがない自転車に乗って、市役所まで行って水汲んでっていうのをやってた。車じゃ、ガソリン使うしって。自転車乗っていいのかな？とか言いながら。

Int : 大変でしたね。

U : 家の片付けに行ったら、近所の人とかに、生まれたばかりじゃないの？何やってるの？とかって言われて、産後なのにつて言われた。お母さんがしないのを分かっている人達だから、「でも、あのお母さんだし、しょうがないね。無理しないんだよ。」とかって言われながら。

Int : 赤ちゃんのお風呂とかは、もちろん入れられなかったですよ。

U : お風呂も何日目かな？でも浄水器を旦那のお兄ちゃん家で付けてて、それでお湯が出るし、水もあるからっていうので沸かして、赤ちゃんだけなら入れられるから連れてこいって言われて。お兄さんとも、ちょっと前に子どもが生まれてたんですよ。その子も入れるし、2人だけだったら入れられるから連れて来ていいよって言われて、初めてそこでお風呂に入れて。生まれて3日か4日してからかな？生まれてそのままだから、もう頭カピカピで、すごくベタツとなっていて。

Int : そうですね。

U : 全く入れない状態だったんで、1回でも入れてもらえれば、カピカピの頭が落ち着くよって言って、入れてもらって。あとは、ガスが出るまでどうしてたのかな？ああ、ガスコンロでお湯沸かして

拭く程度ですね。タオルを濡らして、拭いたりとかっていうのをやって。

Int : お母さんのほうもその辺りは1番気になったんじゃないですか、産後すぐですし。

U : そうですね、洗浄綿があったからよかったけど。

Int : ナプキンとかは？

U : ナプキンとかも、とりあえず、入院の時の出産準備で結構それなりに用意してて、あとは病院でお産セットの中に入ってたのでなんとか。そのあとはもう、お店開いたときに買って。

Int : Z病院で赤ちゃんを生んだばかりの人がっていうことで、すぐ誰かが回って来たっていうことは一切なかったですか。

U : ないです。

Int : その後、1カ月とか経ってからも全く？

U : 退院して次の日とかに、検査とかするので病院に来てくださって、何日後に来てくださってっていうのはあって、それで行って、普通に病院で、本当は入院中にあることだけできないからっていうので調べてもらったりとかはしたんですけど。特別はない。

Int : 特別、市の保健師さんとかそういった人が来るとかっていうことはなかったんですね。

U : なかったと思います。

Int : 本来、新生児訪問とかあると思うんですけど、そういう形でも来てないですか。

U : すぐじゃなかったです、しばらくしてから。

Int : 結構、経ってから？

U : 状況が状況なのでっていう連絡は来ました。

Int : 連絡は来たんですね。大丈夫ですかみたいな？

U : はがきを出したので。すぐは行けない状態なので、落ち着いてから回る形なんですとは言われました。

Int : それだけで、震災後すぐの3月に生まれているので、保健師さんや助産師さんが大丈夫かなっていうので回って来たりとかそういったことは、すぐには全くなかったっていうことですね。

U : そうですね。

Int : 避難所にいた方では、そういうことがあったって話とかを聞いたりしましたか、あんまり聞かないですかね。

U : 避難所…。

Int : あんまり関わってないですか。

U : うん。学校に避難していた人たちは、ビックアリーナに移動したって出てたんですよ。しばらくしてから、なんか連絡が来て行かなきゃいけないって、そこに行ったんですね。大丈夫？って言われて、とりあえず大丈夫だけって話をしてたら、ここにいたらみんな風邪引いてたりするから早く帰った方がいいって言われて。風邪引いてる人が多いけど、隔離できなくて、その地区はそこって、場所が決まってるから、そこから出れなくて、端っこの方にいるだけしかないから、赤ちゃんにうつると困るよって。

Int : 周りの方のそういった話とか聞いて、避難所にいるよりは、こっこのアパートにいた方が断然いいとご自分で判断されたんですね。

U : なんか早かったんですね、ガスとかつのが、確か。アパートのある方は、そんなに被害もなくて、津波とかじゃないから、結構すぐついたんでしょうね。何日目だったか覚えてないけど。Int : 1カ月

弱ぐらいなのかな？大体 20 日目って（アンケートに）書いてありますね。

U：そうですね、結構すぐついたから。それまでの間は、大変だったけど。

Int：いろんな面に関して、自力で何とかしたという感じですか？

U：そうですね。最初のうちは、妹の友だちでどこの人が分かんないけど、心配して水とかを持って来てくれたんですよ。飲み水程度だけどって持って来てくれて、それをチョコチョコチョココ使いながら。全然知らない人だけどやってくれた。妹のとは旦那さんの家が農家でいろいろとあるから、うちは大丈夫なんだって言われて、そっちに持って来たりしたら、そのまま受け取って、全部使っているからって言われたんで、とりあえず大丈夫だなと思って。

Int：やっぱり周りの方の助けもあってという感じですかね。

U：そうですね。食べ物とかはそうですね。

Int：1 番あったらよかった支援では、給水とか、避難所にいなくても支援が受けられるような体制と書かれてますね。

U：給水も回ってくるものなのかなと思ったけど、そんなにそんなに来るものでもないし、指定されてるところがすごい遠いところだけだったんです。

Int：そうだったんですね。

U：1 番近いとどこ？って聞いたら、ハナトピアかどこかだったんですよ。ハナトピアに行くにも結構遠いから、自転車ですて役所に行くのも変わりないし、ハナトピアの方に行ってしまうとお店とかがなく、いざというときにお店入って買い物するっていうことができないから、それなら市役所に行った方がいいよねってことで、市役所に行ってたんですけど。

Int：震災の後、すぐ出産されてますよね。出産後、すぐに退院させられて、1 番はその後の生活っていう面で、支援がもうちょっとあったらよかったなっていう感じですかね？1 番怒涛のときだとは思ってますけど。

U：バタバタしすぎてね。産んだとき出血が多かったんですけど、それだけだったんでとりあえず退院もすぐできたんですけど、退院した後に、貧血気味で、調子がよくなかったんで。最初、出血がひどすぎて、このまま落ち着かないと貧血になってしまっって、輸血しなくちゃいけないから、大きい病院に運ばれていかないと駄目ということで、上もいるし、それでは困る困るって言っって。とりあえず、お腹マッサージできるだけしてっって言われて、先生がチラッと来た。でも、私よりひどい人がいたんです、最初からずっと分娩室に入っていた人がいて、その人は多分、救急車で運ばれて行っみたいなんだけど、すごい大変だったみたい。だから、軽かったんだな、私は、産むのが、と思っった。すんなり生まれたから。

Int：そうだったんですね。

U：通っってるところじゃなかったんで、状況が分からないから、病院の方も大変だとは思っったんですけど、もう母子手帳しか…。

Int：そうか、情報がね。

U：母子手帳とあとは私に聞くしかない状態だったけど、私もそんなに覚えてないし。特別、ひどいところはないしなっっていう状態で分娩室に入っったんです。

Int：見なし仮設ということで、市営の住宅の方に今いらっしやるみたいですが、それはどういう経緯があっってそこに入られたんですか？

U：仮設の応募のときに、普通の仮設と公営住宅とっっていう、なんか記入するところがあっって、赤ちゃ

んいるんだったらどっちも丸付けておいてねとか言われて全部丸付けたんです。最初に連絡来たときは、違うところの市営住宅で 5 階しか空いてないって言われて、5 階だけど階段しかなくて、それでは入れないって言って断ったら、今いるところがちょうど 1 階なんですけど、1 階が 1 カ所だけ空いてるからって連絡来て、とりあえず入るか入らないかだけ連絡くださいって言われて。お母さんは何もしないから、ご飯の用意とかも何もかも、全部私がしなくちゃいけないし、家の方も片付けに行かなきゃならないし、これはひどいと思って、やることいっぱいあって、私がきつって言ってそこに入った。いろいろひどくて、こんなときぐらいどうかしてくれればいいのにねって何回か言ったんだけど。

Int : お子さんのこともいろんな面で心配はあると思うんですけど、1 番のストレスの原因っていうのはお母さんですか。

U : もともと何もしないのは分かってるけど、なんだか自分だけ被害にあったみたい、私だけ怖い思いしたみたい。でも自分だけが地震に遭ってるわけじゃないし、どれだけ家がひどいかも見てないんですね。しかも、見に行こうともしないで片付けもやっというてみたい。でもお母さんの荷物がほとんどだから、どこから手付けていいか、私分かんないよって言うんだけど。しょうがないんで、妹が手伝うからって言ってくれたんで妹に頼んで、妹と旦那と私で片付けし始めてですね。あとはもう近所の人が、ボランティアの人を回してくれたんです。お年寄りメインで回ってるんだけど、産後の私がいたのと言ってくれたんですね。

Int : 今も相談にのってくれるのは、ご自分のお母さんとかですか？

U : そうですね。ただ家が遠いので。

Int : 今、ご主人はお仕事で結構忙しいですか。

U : 地震のときまでは長距離の運転手をしてたんだけど、あんまり遠くまで行かないように、行っても福島とか山形とか、できるだけその日に帰ってくるように仕事の内容を変えてもらって。あとは基本的には会社の中で仕事する状態にしてもらって、いろいろ心配もあるからっていうので。

Int : ご主人とは、育児に関して話すとかそういうのはあんまりないですか？

U : しないです。ただ、いざとなればいるだけで頼むことができるからいいんですけど、基本的に、いつもは遊んだりする程度でそんなに何かするっていうことはない。気が向かないとしないから。

Int : 今保育所とかは入ってないですね。

U : そうですね、来年幼稚園に入れるので、とりあえずは。もともと幼稚園に入れるつもりで、私が仕事してないから保育所入れられないからっていうので。

Int : 育児サークルとか、そういうお子さんが集まる場所っていうのは、あんまりどうですか？今日みたいな市の健診には行くけれども。

U : 基本的には行かないですね。行ったことはあるんですけど、何だろう、結構乱暴なので、一緒に遊んでる子のお母さんとかがあんまりいい顔しないから、やめた方がいいなと思って。子ども同士はそんなでもないんだけど、やっぱり…。そういうところに来てる人って 2~3 人で来てるじゃないですか。だからそうすると、結構、子どもは仲良く遊べるけど、親はあんまりなと思って。とりあえず、兄弟 2 人で遊んでるしなと思って。

Int : 市営住宅のところとかでは、遊ばせられるんですか？

U : 一応、公園はあるんです、近くに。ちっちゃい滑り台が 1 個あるだけなんで、あとはもう広いから、走り回るだけ回って、あとは散歩だけ。ベビーカーに乗せて散歩して、歩かせて散歩して、買い

物しながら公園寄ってっていう感じ。あとは家の中でね。

Int : あとは、兄弟の方がいろいろ聞いてくれたりとかしますか？

U : そうですね、子どもも同い年ぐらいだから、何かあったときには。風邪引いたとか、今これが流行ってるんだってとか、この風邪が流行ってるらしいよとか、注射をするときにいくらぐらいでできるとか。

Int : そういう情報はそこからもらって、例えばお医者さんとか保健師さんとか専門家と話す機会ってというのは、あまりないですかね。

U : そうですね、2 番目のときはストレスで近くの病院に通ってて、母乳をやってたんで、定期的に漢方薬だとか出してもらったりしてたんです。あとは保健センターの人、保健師さんと話す機会もあって、いろいろ話をしてたんで。2 番目のときが 1 番ひどくて、家の中って言うかが。

Int : 精神的にもいろいろなものがあって。

U : ちょうど旦那の妹も離婚して、今は再婚したんですけど、そのとき 1 人だったんで、子どもをあんまりみないで、すぐお母さんのところに置いてくような人だったから、私が手掛けないと、お母さんはご飯食べられないし、こっちもみなきゃならないしっていうのですごい気使って。子どもに 1 番気使って、妹の子どもとかに気使っていたんで、私も再婚だったから上の子どものこともだし、下もだし。だから、それが 1 番ひどくて。

Int : じゃあ 1 番上のお兄ちゃんは、失礼ですが前のご主人の。

U : 連れ子ですね。

Int : そうだったんですね。その辺の関係は大丈夫ですか？震災のときとか、お家の中で特に何かありましたか？

U : 家の中でどうかって言うのはないかな。お母さんのことは何もしない人って感じでもう見るから。もとかからお風呂とかも入らない人だから、そういう目で見てるんだと思う。どうせあの人は何もしない、だから、旦那も話しかけられるけど、何言ってるか分からないみたいなのがあって、結構適当に聞いてたりするんで、そんなちゃんと話ししたらとか言っても、だって何言ってるか分かんねえからいいんだとか。今もう一緒にいないから、今度出産するときに家に来るって言うけどどうする？って言うから、ええ？いても何にもできないからいいよって。

Int : ちなみに今度はどちらで産まれるんですか。

U : 名取のクリニックです。あそこの評判いいって聞いて。託児所もあるから、通院するときに楽だし。Z 病院では、予約とって待ち時間あるよとかって聞いたんで、T 病院には行くなって言うしなと思って。

Int : そうですね、もう 4 人目ですからね。さすがに何かあって、T 病院まで駆け込むのはちょっとリスクがあるかもしれないですね。

U : 最初の予定では、T 病院行って、早めに実家に帰るつもりだったけど、実家も仮設なんで。実家の仮設は、本当の仮設なので。お母さんの的には周りから言われるから、どうするの？どうするの？って連絡ばかりよこすんですけど、地震のとき片付けとかするのに預けててもおむつとか交換したのも長男なんで、どうせしないで、眺めてるだけだから。遊んでるのを見てるのはできる。でもそれも全部私に気使ってるからなんだって言うから。

Int : 今、子育てされてるのは、基本的にはご自身のみで…。

U : かえって面倒くさいし、本当にどうしようもないときだけしか預けたりもしたくないからって言っ

て。卒業式の日とかは仕方なく預けるんですけど。妹がいるって聞いたから、そのときも預けて、妹がいればおむつ交換してもらえと思って。

Int：何かあったときに預かってもらったりとかっていうところは、ないですか？出産のときとか。

U：陣痛きたら、旦那に会社に行かないようにっていう連絡をしてるから。あと運送会社だから、休もうと思ったら休めるんだからいいんだっていうので。

Int：じゃあご主人がいてくれるんですね。

U：退院するまで面倒見なさいよ、分かった？って言ってます。あとお兄ちゃんも冬休みに入るから、学校の方で部活とかあるかもしれないけど、それを顧問の先生に言ったら、状況が状況なのでいいですよって、冬は大会も何もないし、練習やってもねみたいな感じだったので。だから、生まれてすぐ実家に帰るとは言ってるんですけど。

Int：そうなんですね。でも、向こうも仮設ですもんね。

U：仮設なんだけど、同じ敷地内の仮設に妹のところもあるので。だから赤ちゃん連れて行っても、上の子たちは妹のところで遊べるから、同じ年ぐら이다し。みんな泊まるって言えば、勝手に泊まっても歩いて行ける距離だし、その方がいいよねって言って。どうせこっちにいたって全部しなきゃいけないから、それではひどいしねって言って。

Int：そうですね。東松島の方に行けば、Uさんの的には少し心休まるんですね。

U：そうですね、なんでだろう。いくらかでもやってもらえるから。

Int：そうですね、いくらかでもね。1つでもやってもらえると、ストレスがちょっとは違いますよね。

U：ご飯炊くだけにしても、してくれれば。その違いですね。

Int：精神的なこととか伺ってるんですけど、育児面でというよりは、どちらかという旦那さんのお母さんとの関係性っていうところの方が、ストレスの大元になっているという感じですかね。

U：そうですね。旦那に毎日電話をしてくるんですね。仕事でも電話するらしくて、出るまでかけ続ける人なの。基本、私にはそういう連絡とかはないんだけど、旦那が呼ばれて、お母さんの方へ行って帰ってきて、すぐまた電話よこしたりとかもあるから、そうすると家で電話してるんでさっき行って来たのになんでわざわざってなる。もう言っていることがハチャメチャだから、特に何かを言うつもりじゃなくても、ただ電話よこして、旦那にちゃんと話ししてくれば？って言うんだけど、だって何言ってるか分かんないし、話したいことが分かんないからって。それは、旦那だけじゃなくて、妹にも仕事でもずっと出るまで電話かける人だから。旦那と連絡取れないなと思ったら、電源切れてたんだって。お母さんは、これを言わなきゃいけないと思うと、連絡をすごいよこすみたいで、たまたま家で旦那も寝てしまったときに電話がきたときには、息子が出て、もう寝てます、もう起きないですとかって、代わりに話ししてもらって。でも同居しなくちゃいけないから、いずれは。

Int：そうなんですね。

U：仮設から出る前に、もともとの場所に家を建てると言ってきたので、建売住宅買った方がすぐ入れるし、安いかもよとかって言うんだけど、なんか変なこだわりがあって、それは駄目だとか、建てる人はあの人でないと駄目だとか。特別根拠があるわけじゃなくて、この人が1番いいって思い込んでるから、その人じゃないと建てないとか。なので自分たちが住む家として、子ども優先に住む家とか部屋数とかを考えたいんだけど、そういうのはお母さんの的には、自分の部屋があればいいみたいで、早く息子と住みたいみたい。それしかない、そればかり。息子が1番なんですね、旦那がね。

兄弟の中でも1番話を聞いてあげてるから、お兄ちゃんとかはもううるせえとかって言うから駄目なんです。そうすると、1番旦那が話聞いてくれると思って毎日連絡して毎日話しして。周りからも、お兄ちゃんいるんだけど、お兄ちゃんじゃ駄目だから、あんたが面倒みなきゃないんだからっていうのを、結婚したときからずっと言われてた。私も会う度に、おばあさんとかから、面倒みてやんなきゃないんだって言われてたんだけど、介護するほどの年でもないのに全部してあげなくちゃいけない、ご飯とかも並べてやないと食べないとかあるから、ご飯ぐらい自分で食べるとかできないかな、食べ終わったの片付けるとかできないかなとか言うんだけど、それはそれでしてくれない。それは、私に気使ってるからしないって。

Int: そうですか。アンケートで、ご主人との関係には不満っていうところに印が付いてるんですけども、やっぱりそういうのもあるからっていうことですか。

U: そうですね。あとはもうなんだろう？休みの日ぐらい遊んでよとかって言うんだけど、1人でフラッと遊びに行ってしまったとか。

Int: それは震災の前も、以前からですか？

U: 震災の前はほとんど家にいなかったから、たまにの休みだしなっていう思いがあったけど、今は、毎日帰って来てるじゃんみたいな。時間になって大体帰ってきて、子どもと会ってるからいいだろうぐらいの感じなんだと思います。

Int: だから、そういう休みの日でも…。

U: そうそう、自分でどこか釣りに行ってみたりとか、会社の人とツーリングに行ったりだとか、フラッと行ってしまっ。今大変なだけって言うんだけど、午前中だけだとかって行っちゃうんで、あれは、分かってないんだわって。

Int: でも、お腹の中のお子さんのことに関しては楽しみにされてはいるのかな。

U: そうですね。

Int: その先のこと考えたら、Uさんとしては大変だっていうのあるけれども…。

U: 大変なんですけど、最初どうする？っていう話して、私はとてもじゃないけど、今の状況でいずれ同居ってなったときに、絶対ひどいから絶対無理だよって、随ろす随ろさないでもめて…。結局、怒られて、強制的に産めみたいな。旦那的には随ろすとかそういうのは絶対駄目だったって言うんだけど、1番負担がかかるのは、私なのよ。大変なのは私だけだから、調子悪くなるのも私なのにな…と思いつながら。でもまあ生まれてしまえば、大変だけど何とかなるからみたいな、じゃあ分かったよって。

Int: 今、3番目のお子さんが次の3月で2歳で、そういう中で次のお子さんがまた生まれるっていうのもありますけど、支援として行政とか周りで、こういうのがあったらもうちょっといいのになとか、あと保育所とか幼稚園とかそういうところがもうちょっと充実してたらいいのになとかっていうことはありますか。今、仮設でも見なし仮設の市営住宅で、支援に結構差があるっていうようなこともアンケートに書いてあるんですけど。

U: あるみたいですね。聞いた感じでは仮設のほうがそれなりにみんな居るから、何かあったときに優先的っていうか、なんでも仮設にはあつたり。息子の同級生も仮設に入ってる人が多いので、いろいろ聞いたりすると、へえ、そういうのあるんだ、うちに連絡ないねとか。だから、なんだろう、復興住宅できるよっていう情報とかも市役所に聞いたら、連絡行ってませんでしたか、仮設の人には、アンケートとか出してるんだけどって言われて、うちには何も来てないですっていうのがあつて。そういうのが結構後回しになるのかな。あつちの仮設にいる人達は、家も建てれないところの人達が多

くて、そういうので住むところが限られてるから、公営住宅建つところに集団移転とかになると、この人達が優先になるのかなと思って。

Int：アンケートの地震でドキドキするっていうところに、結構度々あったと書いてありますけど、精神的にどうですか。

U：携帯の音ありますよね？

Int：緊急地震速報。

U：あれを私は設定してないんだけど、旦那が設定してて、それで具合悪くなるから止めてくれっていう話をしたら、外したつもりが鳴ってたみたい。地震になっても結構みんなシラーっと平気な顔してるんですよ。家も市営は古くて結構揺れるから、ええ！？地震だよって言っても大丈夫だよって。ここまで津波は来ないからって。

Int：津波は実際に見られたんですもんね。

U：そうですね、ただ上から波が来るのを見ただけなんです。その後、映像でしか見てないから、あそこまでひどいのは直接見たりしなかったんですけど。

Int：2番目のお子さんは、何か変化はありますか。

U：地震が大きいとびっくりして逃げては来ます。あとは、おむつが未だにまだはずれてなくて、はずれかけてたときに、地震になってしまって、1人でトイレに行ってたのに、行きたくないとか、結構怖がるっていうか。幼稚園に行く前におむつはずしたら？って言うんだけど、パンツはきたくないとか。それ以外には、大きい音が鳴ると怖がります。ドアが、ガタガタって鳴ったりすると地震だと思って。だいぶ落ち着いてはきてる。ただ地震って聞いたら怖くて、あと津波の映像とかテレビでやってたりすると、黙って見てる。自分の中でいろいろあるみたいで、ガレキがあるところとかに行くと、ガレキすごいいっぱいあるね、とかって言う。

Int：震災があって、それぞれのお子さんに対して、特にそのとき育児とかでいっぱいいっぱいになったときに愛情に変化があったりしましたか。それぞれ赤ちゃん、2番目のお子さん、1番上のお兄ちゃんだったと思うんですけど。

U：やっぱり手が回らないことはありますけど。1番手掛かるの誰かなって、こっちやったら、こっちゃんなきゃないとかってなると、1番上はやっぱり自分でできるでしょ？ってなっちゃうし。1番上も2番目が言うこと聞かないから3番目がかわいくてしょうがない。今あの状態だから、何するとかっていうものでもないから。あっちは逆らったりするので。パパがいるとパパが許してくれるっていう気持ちがこの人（2番目）はあって。遊び方がものすごい乱暴なので、家の中で狭いのになずっとやってるから、ケガしたりするんですけど、おかまいなし、乱暴なの。すごく調子にのって遊び出すから、あんまり連れて歩けないんです。

Int：今、保健師さんとかと何か関わりはありますか？4人目のお子さんも妊娠されてるので。

U：健診とかに行ったときに話するぐらいで、特にはないですね。

Int：震災で津波でお家の被害もあって、いろんな所に避難されてましたけど、全体としてこういう支援が、例えば、赤ちゃんがすぐ生まれてますよね。だから保健師さんとかにもっと頻繁に回ってもらえたらよかったとか、お母さんのもうちょっと入院をしっかりとできて、ゆっくりできるそういう場所が欲しかったとかってというのは、ありますか。

U：病院によって出産費用とか違うじゃないですか。災害のときに仕方なく行ける場所って限られてくるし、自分で行こうと思ってる所じゃなくなるから、計画的に考えて通ってたとするすとすごいお

金掛かったりするんで。部屋に入ってる日数少ないし、ご飯出たわけでもなんでもないんだけど、当たり前すごいお金が掛かったんで、手出しがすごくて、ここまで請求するの？みたいな。普通に出産してそれぐらい取られるのであれば、普通の出産だしねって言えるんだけど、あの状況でまで同じぐらい普通に取られるんだね。生まれてすぐ退院して、ずっと真っ暗なとこだったんで、点滴とかするくらいだったのに。それなのに結構な金額掛かったから、ウワサでは聞いてたけど、ここまで値段違うとひどいなと思った。

Int : 1 番はそこですかね？

U : やっぱり。計画的にこれくらいかかるだろうなとか思ってたの、今回の請求でしょ。家もなくて避難してる状態だから、これからお金掛かるっていうときに、思った以上に掛かってしまって。すごい、こんなに掛かるんだねとかって。イメージ的に出産のときのこれしてあれしてっていうのじゃなくて、ほとんど電気とかもつかないから心電図がどうかでもないじゃないですか。電池式のやつでやったりとかだったから、特別何かされたわけでもないんだけど、丸々掛かったねとか言って。本当にこういうカーペット引いた床のところに布団引いて、そこで寝ただけだった。大広間にみんな並ばされてとりあえずここでみたいな、1カ所集められてっていう感じだった。食べるものは何もないのでかって、ご飯が1食だけ出たんですけど、夜だったかな？本当に少しだけだからって感じで、おにぎり1個ぐらいよこした。これでそんなに掛かるの？ええ？って。その後も何だかんだいって通わなきゃないときも、来てくださって言われたとしても、行くのも大変だよって言いながら、ガソリンもなくてねとかって言ってたんで。そこだけがひどかったかなと思って。受け入れしてもらったことに関しては助かりましたけど、あんまりにも高くついたんで、そこがね。予算内でこれくらいだねって言うてる中での、プラスいくらっていうのは結構大きいなと思って。

Int : そうですよ。本日は、いろいろお聞かせていただいて、長い時間ありがとうございました。もうちょっとお話伺いたいですけれど、お子さんたちもいますし、また追加でお話を伺うことがあるかもしれませんが、その時はよろしくお願ひいたします。

U : なんか1回だけ、1年以上経ってからZ病院から電話来たことがあります。テレビ局の取材があるんですけど受けてもらえませんかみたいな。えっ、何ですかそれって。直接連絡しますねって言われて連絡来て、話はするのは構わないけど、別に顔出してテレビに出てとかなんかそういう取材は嫌ですよって言うこと言ったら、あとは一切何も連絡なかった。そのアンケートがT病院から来てました。T病院の助産師さんが連絡よこして、Z病院から聞いている？って、いや、一切何もないですよって言って、Z病院からも行くかもしれないんだけどさって、もしよければ、アンケート届いても大丈夫？とかって言われて、大丈夫ですよって言って。「何も言われてない？Z病院で」って言うから、何もないですよって。やっぱり通院とかしてないから、なんですよ。

Int : でもZ病院さんの方から、テレビ局の取材に関しては連絡来たんですね。

U : 電話きて、そういう状況だったから、旦那はちゃんと病院で産ませればもらえたけど、あれではひどいから、あんな広間に寝せられて普通の入院と同じ扱いとはひどいよって、ちゃんと言って話してきたらいいのには言われたんだけど。

Int : そういうときに、ちゃんとした対応ができる体制が1番ベストですね。病院内にいらなくても、避難所でも小さい新生児がいる人とか妊婦さんとかが、ちゃんと指定された、隔離された場所にいられるっていうような。物資とかの面でも違うでしょうし、そこに医師が来るっていうことでも違うと思うので。

U: そうですね、ミルクとかも救援物資の中にあっただよなこと言って、それも広報かなんかに載って、もらいに行けるからみたいなの聞いたので、それでもらいに行ったことありますけど。そういうのは情報が直接来るわけじゃなくて、広報見てなければ分かんないから。おむつとミルクとって言うの言ってたんですけど。妹の方とかはいろんな子供向けの支援とか、おむつとかミルクとか結構あるよとかって。それは、地域によっても違うんだねって言って。ミルク必要とかおむつ必要とか、子どもがいるいないっていうのを連絡くれないからなのかな。広報見てないと情報もわからないから、もうちょっと分かりやすい情報があればいいんだけど。あんまりミルクじゃなかったからよかったですけど、これ本当に全部ミルクの人だったらひどいなと思って。母乳だったからよかったようなもので。

Int: そうですね。こういう震災時の母子への支援体制というところが必要ですね。今日は、本当にどうもありがとうございました。